阪合部村長前川藤一郎ハ前記大平開墾者氏名ト左記事項ヲ契約ス

一、移住者ハ開墾地移住規程ヲ堅ク守リ農業ヲ目的トシテ移住スルモノトス

一、移住者ハ管理者ノ割當タル土地ヲ必ス昭和七年參月參拾壹日迄ニ開墾ヲ了シ家屋ヲ建築シ移住スルモノトス

一、管理者ハ各移住者ニ割當タル土地ヲ開墾終了卽チ昭和七年三月三十一日ヨリ昭和十二年三月三十一日迄五ケ年間無料ニテ其ノ畑ヲ貸付スルモノトス

一、移住者ハ昭和十三年四月一日ヨリ昭和三十三年三月三十一日迄二十ケ年間永小作權ヲ設定シ一反歩ニ付玄米一斗五升ヲ每年末ニ村收入役ニ納付スルモノトス若シ小作料ヲ納付セサルトキハ該土地ハ全部無條件ニテ村へ返還スルモノトス

一、前二項ニ定メタル小作料ヲ滯リナク拂込ヲ了シタルモノニハ割當ノ土地ヲ全部無償ニテ所有權ヲ讓渡スルモノトス

右契約ヲ履行シ絕對ニ違反セサル事ヲ双方ニ於テ承認ヲナシタルニ依リ之ヲ證スル爲メ本書二通ヲ作リ記名捺印シ各一通ヲ所持ス

昭和七年一月一日

大平耕地整理管理者
阪合部村長　前川藤一郎　印

阪合部村大字　番地
移住者　氏　名　印

右謄本ハ移住契約書原本ニ依リ正寫候也

昭和七年四月三十日

阪合部村長　前川藤一郎

阪合部村長
前川藤一郎

奈良縣吉野郡大淀町檜垣本地區移住家屋貸付規程

第一條　移住家屋建築シタルトキハ開墾耕作ニ從事セムトスル者ニ年賦償還ノ方法ニ依リ貸付スルモノトス

第二條　移住者家屋ノ貸付ヲ受ケタルトキハ建築費總額ヨリ奬勵金交付額ヲ控除シタル額ヲ借入金額トシ十ケ年賦償還ノ方法ニ依リ每年同一金額ヲ償還スルモノトス但シ建築費ノ算定ハ縣ノ査定ニ依リ決定ス

第三條　移住者借入金全部ノ償還ヲ了シタル後ニアラサレハ他人ニ貸付又ハ讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　借入金ノ全部ヲ償還シタルトキハ家屋所有權ヲ付與ス

兵庫縣明石郡神出村小束野耕地整理地區小作規程

小作書

明石郡神出村小束野整理地內

一作付初年昭和	年耕作地番	號水田	反	畝	歩小作料	斗	升	合(反當 | 斗 | 升)
一作付初年昭和	年耕作地番	號水田	反	畝	歩小作料	斗	升	合(反當 | 斗 | 升)
一作付初年昭和	年耕作地番	號水田	反	畝	歩小作料	斗	升	合(反當 | 斗 | 升)
一作付初年昭和	年耕作地番	號水田	反	畝	歩小作料	斗	升	合(反當 | 斗 | 升)
一作付初年昭和	年耕作地番	號水田	反	畝	歩小作料	斗	升	合(反當 | 斗 | 升)

兵庫縣明石郡神出村小束野耕地整理地區小作規程

一作付初年昭和　年耕作地番　號水田　反　畝
一作付初年昭和　年耕作地番　號水田　反　畝
一作付初年昭和　年耕作地番　號水田　反　畝
一作付初年昭和　年耕作地番　號水田　反　畝
一作付初年昭和　年耕作地番　號水田　反　畝

合計　水田　町　反　畝　歩小作料　石　斗　升　合

右土地貴殿御所有ノ處今般農業ニ供スル目的ヲ以テ一箇年間前掲ノ小作料ヲ定メ自分ヘ借受ケ候ニ付左記ノ條項ヲ確約仕候

第一條　小作期限ハ昭和　年　月　日ヨリ昭和　年　月　日迄ノ一箇年ト定ムル事但今般本條ノ期間ヲ更新繼續スル場合アリト雖トモ之レヲ以テ永小作契約ニアラサル事ヲ特ニ約諾ス

第二條　小作料ハ開墾ノ初メ一箇年ハ反當二斗トシ次ニ箇年間ハ毎年反當四斗トシテ其後ハ相當ノ料額迄漸次引上クルコトトシ毎年一月其ノ年ノ小作料ヲ決定シ小作人承諾ノ上此證書ニ調印セシモノニ付小作人ノ後日ニ至リ之ニ對シ異議ヲ狹ムコトヲ得サルコト

第三條　小作料ハ毎年十二月十五日迄ニ遲滯ナク納付スヘキコト若シ之ニ違反シタル場合地主ハ期限内ト雖トモ何等催告ヲ要セス本契約ヲ解除スルコトヲ得ル事

第四條　小作人ハ地主ノ承諾ヲ得スシテ小作地ヲ他ノ目的ニ使用シ又ハ地主ノ承諾ナクシテ其權利ヲ他ニ讓渡シ若クハ小作地ヲ轉貸スルコトヲ得ス

小作人カ右義務ニ違反シタル場合地主ハ期限内ト雖トモ何等催告ヲ要セス本契約ヲ解除スルコトヲ得ル事

第五條　小作人ハ小作地ヲ荒廢セシメタル場合ニ於テ生スル損害ハ直ニ地主ニ賠償スヘキコト此場合地主ハ本契約ヲ解除スルコトヲ妨ケサル事

第六條　地主ノ都合ニヨリ地主ハ小作人ニ對シ小作地ノ變換若クハ返却ヲ要求スルコトヲ得ルモノトス此ノ場合ニハ地主ハ其旨六箇月前ニ小作人ニ通告スル事

但右六箇月ノ期間滿了ノ時期ニ於テ未タ農作物ノ收穫了ラサル場合ハ地主ハ其收穫ノ終了迄右期間ヲ延長スルコトアルヘキモ小作人ニ於テ既ニ地主ヨリ前記ノ通告ヲ受ケタル後從來ノ作物ヲ收穫シ尙期間滿了マテ餘日アルトテ其滿了日迄ニ收穫ノ見込ナキヲ豫知シナカラ又作ノ爲メナシタル作物ハ之ヲ許サス

第七條　灌漑ニ關シ地主ノ指揮監督ノ下ニ水入人若干名ヲ選定ス卽チ小作地ノ灌漑方法水入人選定ハ地主ニ一任シ異議ヲ狹マサル事

第八條　小作人ハ毎年水入費トシテ各自作付反別各一反歩ニ付キ玄米一升以上二升八合迄ノ割合ヲ以テ小作米ノ納入ト同時ニ地主ニ支拂フヘキ事

第九條　小作人ハ一年二回宛溝渫及道路修繕其他小作地ノ保存ニ必要ナル行爲ヲ爲ス義務アルモノトス此場合ニ於テ小作人ハ地主ノ通告ニヨリ相違ナク其日時ニ該作業ニ從事シ地主ノ指揮監督ヲ受クヘシ尙大雨其他天變ノ爲メ應急修理ヲ要スル場合ニハ地主ハ必要ニ應シ小作人ニ對シ該作業ニ從事スルコトヲ要求シ得ヘキコト

第十條　大雨其他天變ノ場合ハ小作人ハ各自ノ水田ヲ巡視シ田地畦畔等ノ破損ナキ樣注意スルコト

第十一條　地主ハ小作人ニ於テ前二條ニ違反シ又ハ不都合ノ行爲アリト認ムル場合ハ何等催告ヲ要セス本契約ヲ解除スルコトヲ得ルコト

第十二條　小作人カ地主ニ損害ヲ蒙ラシメタルトキハ小作人ハ之ヲ賠償スヘキハ勿論連帶保證人ハ小作人ト同樣其損害ノ賠償ヲナスヘキコト

兵庫縣明石郡神出村小東野耕地整理地區小作規程

第十三條　小作人ハ地主ノ指揮敎導ニ從ヒ業務ニ精勵シ小作人間相互ニ親睦ヲ旨トスヘキコト

第十四條　小作人多數結合シテ地主ニ對シ契約外ノ要求ヲナシ又ハ不穩ノ行動アルトキハ地主ハ何等催告ヲ要セス本契約ヲ解除シ小作地ヲ引上クルコトヲ得小作人ハ之ニ對シ異議ヲ狹ムコトヲ得サルコト

第十五條　連帶保證人ハ本契約ヨリ生スル總テノ義務ニ對シ借主ト連帶責任ヲ負フモノトス

第十六條　本契約ハ滿期ノ後双方合意ノ上更ニ繼續スルコトヲ得ルコト

右之通確約仕候ニ付テハ無相違履行可致候連帶保證人連署小作證書依テ如件

昭和　年　月　日

小作人

連帶保證人

吳　啓　藩　殿

鳥取縣東伯郡天神野耕地整理組合開墾地移住奬勵規程

第一條　開墾地移住奬勵ノ爲メ本規程ニヨリ毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ飮用水井掘鑿者ニ補助金ヲ交付ス

第二條　補助金ハ開墾助成法ニヨリ事業ヲ施行スル地區ニ於テ家屋ヲ建築シ現在移住シタル農業者ニシテ飮用水井ヲ掘鑿シタル者ニ交付ス

第三條　補助金ハ井一箇ニ付金十五圓以內ヲ交付ス

但シ工事ノ難易ニヨリ增減支給スルコトアルヘシ

第四條　補助金ノ交付ヲ受ケントスルモノハ第一號樣式ノ申請書ニ左ノ書類ヲ添ヘ每年九月末日迄ニ提出スヘシ

一　井掘鑿費豫算書及其說明書

二　井及共同者ノ住宅共同ノ住宅ト井トノ距離ヲ示セル略圖

第五條　補助金交付ノ指令ヲ受ケタルモノハ十月一日ヨリ翌年四月末日迄ノ間ニ於テ井ノ掘鑿ヲ竣工スヘシ

第六條　補助金交付ノ指令ヲ受ケタルモノ掘鑿ヲ終リタルトキハ竣工屆及其費用決算書ヲ添ヘ遲滯ナク組合長ニ屆出ツヘシ

第七條　補助金ハ實地檢查ノ上之ヲ交付ス

第八條　大正十年度ニ於テ補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ大正十年十二月末日迄ニ第四條ノ申請書ヲ提出スヘシ

第一號樣式

補助金交付申請

開墾助成事業地區內ニ於テ飮用水井掘鑿致度候條大正十年十月十四日決議開墾地移住奬勵規程ニヨリ補助金御交付相成度別紙關係書類相添ヘ此段申請候也

年　月　日

住所

申請者　氏名　㊞

東伯郡天神野耕地整理組合長氏名殿

山口縣營小郡灣干拓地移住規程

（昭和二年三月二十二日山口縣告示第一八五號）

第一條　移住者ハ左ノ各號ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス

一　素行正シク農業ニ精勵シ信用アル者

山口縣營小郡灣干拓地移住規程

二　自作農トシテ土着スルノ決心確實ニシテ勞働ニ堪ユル家族ヲ有スル者
三　移住後一年間ノ農業經營費及生計費ヲ支辨シ得ル資力ヲ有スル者
四　確實ナル保證人二名ヲ有スル者

第二條　移住希望者ハ第一號樣式ノ申込書ニ現住地市町村長ノ證明ヲ受ケ戸籍謄本ヲ添付シテ知事ニ差出スヘシ

第三條　知事ニ於テ移住ヲ承認シタルトキハ申込人ニ對シ其ノ旨通知ス

第四條　前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ十日以內ニ第二號樣式ノ移住契約書ヲ知事ニ差出スヘシ

第五條　移住契約書ヲ受理シタルトキハ知事ハ移住者ニ對シ移住セシムヘキ期日場所及耕作セシムヘキ耕地ヲ指定ス

第六條　移住者ニ對シテハ耕地約二町五反歩ヲ配當シ左ノ各號ニ依リ其ノ耕作者ニ讓渡スルモノトス

一　移住初年度及第三年度ニ於テ知事ノ指定スル耕地約五反歩ヲ賣渡シ之ニ要スル資金ヲ貸付シテ利率年三分五厘初年度据置二十四箇年均等割賦償還方法ニ依リ毎年度一回三月三十一日限元利合計金ヲ償還セシム

二　移住第五年度ニ於テ約一町五反歩ヲ賣渡シ其ノ代金ハ利率年六分三十箇年均等割賦償還方法ニ依リ毎年度一回三月三十一日限元利合計金ヲ償還セシム

前項ノ耕地ハ讓渡ヲ爲ス迄ノ期間無料耕作セシム但シ特ニ必要ト認ムルトキハ知事ノ定ムルトコロニ依リ料金ヲ徵收スルコトアルヘシ

第七條　移住者ニ於テ住宅、納屋其ノ他農業經營ニ必要ナル附屬建物ヲ建築スルトキハ豫算ノ範圍內ニ於テ其ノ建築資金ヲ貸付スルコトアルヘシ

前項ノ貸付金ハ利率年六分三十箇年均等割賦償還方法ニ依リ毎年度一回三月三十一日限元利合計金ヲ償還セシム

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ知事ハ第六條及第七條ニ定ムル土地家屋ノ賣渡方法及代金貸付金ノ償還方法ヲ變更スルコトアルヘシ

一　知事ニ於テ賣渡前又ハ貸付前特ニ變更ノ必要ヲ認メタルトキ
二　移住者又ハ其ノ權利義務ヲ繼承スル者繰上ケ償還ヲ申出タルトキ
三　不可抗力ニ依リ收穫著シク減少シ又ハ皆無トナリタルトキ

第九條　土地賣渡價格ハ知事ノ定ムル所ニ依ル

第十條　賣渡シタル土地及建築資金ヲ貸付シタル家屋ニ對シテハ其ノ全部ニ付キ第一抵當權ヲ設定シ且ツ本縣內ニ居住スル確實ナル保證人二人ヲ以テ債務償還ノ連帶保證ヲ爲サシムルモノトス

知事ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ保證人ヲ變更セシメ又ハ新ニ保證人ヲ立テシム

第十一條　移住者又ハ其ノ權利義務ヲ繼承スル者償還ヲ終ル迄ノ期間內ニ左ノ事項發生シタル場合ニ於テハ遲滯ナク之ヲ知事ニ屆出ツヘシ

一　住所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ
二　抵當物件ノ現狀及保證人ノ身上ニ異動アリタルトキ
三　訴訟ノ當事者トナリタルトキ
四　支拂命令ノ送達ヲ受ケタルトキ
五　差押假差押又ハ假處分ヲ受ケタルトキ
六　移住者又ハ其ノ權利義務ヲ繼承スル者死亡又ハ行方不明トナリタルトキ

前項第三號ノ場合ハ相手方ノ住所氏名及事由ヲ第四號ノ場合ハ年月日及事由ヲ夫々明記シ第六號ノ場合ニ在リテハ戸主又ハ家族ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

山口縣營小郡灣干拓地移住規程

第十二條　移住者又ハ其ノ權利義務ヲ繼承スル者ハ償還ヲ終ル迄ノ期間知事ノ承認ヲ經ルニ非ラサレハ土地家屋ノ形狀ヲ變更シ、農業以外ノ用ニ供シ、他人ニ賣却若ハ貸付シ又ハ第十條ノ抵當權ノ外ニ抵當權、地上權、永小作權、質權、賃借權等權利ノ設定ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條　知事ハ移住者又ハ其ノ權利義務ヲ繼承スル者償還ヲ終ル迄ノ期間ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタルトキハ移住ノ承認ヲ取消シ、土地ヲ返還セシメ、未償還金額ノ百分ノ二ノ違約金ヲ徴收シ且ツ未償還金額ノ全部ヲ一時ニ返還セシメ又ハ土地ニ在リテハ償還ヲ受ケタル金額中元金ニ相當スル金額ニ建築費ト貸付金額（補助金ヲ交付シタルモノニ在リテハ之ヲ加算ス）トノ差額ヲ加算シタル金額ヲ以テ買收スルコトアルヘシ

一　指定期日ヲ經過スルモ移住セサルトキ又ハ移住地ニ家族ヲ伴ハサルトキ

二　知事ノ承認ヲ經スシテ移住地ヲ退去シタルトキ

三　耕地又ハ家屋ヲ荒廢シ若ハ荒廢スルノ虞アルトキ

四　善良ナル風俗ニ反シ若ハ公ノ秩序ヲ害スルノ行爲アリタルトキ

五　本規程ニ違背シ又ハ本規程ニ基キテ生スル義務ヲ履行セサルトキ

第十四條　土地家屋ノ讓渡及抵當權設定ニ要スル登錄稅ハ移住者ノ負擔トス

第十五條　第六條第一項第一號ニ依ル土地及其ノ代金償還ニ付テハ本則ノ外大正十五年七月山口縣告示第五一八號自作農創設維持資金貸付規程中擔保タル土地及其ノ貸付資金償還ニ關スル規定ヲ準用ス

（第一號樣式）

小郡灣干拓地移住申込書

私儀今般小郡灣干拓地移住規定ニ依リ移住致度候ニ付御承認相成度左記事項ヲ具シ戸籍謄本相添ヘ此段申込候也

昭和　年　月　日

本籍地

現住所

山口縣知事　殿

記

一　移住者及同行スル家族ノ氏名年齡

申込人（戸主又ハ戸主何某何男）　何某　年月日生

妻　何某　年月日生

長男　何某　年月日生

長女　何某　年月日生

二男　何某　年月日生

母　何某

移住申込人　氏名　㊞

山口縣營小郡灣干拓地移住規程

二　耕作面積其ノ他ノ希望
三　兵役ノ關係
　兵種官等級豫備後備役編入年月等
四　勞力者ノ狀況
　申込人、妻及長男ハ何レモ身體强壯ニシテ悉ク一人役ノ勞働ニ從事シ長女ハ何々ノ疾病アリテ其ノ勞働能力ハ約何分役トス二男ハ幼少ナル爲又母ハ老齡ナルニ依リ何レモ勞働ニ堪ヘス
五　職業竝經歷
　何某ハ高等小學校卒業ニシテ何年何月ヨリ何地ニ於テ何々ニ從事シ現在ニ及フ（農業ハ自作小作ノ別ヲ明ニスルヲ要ス）
　何某ハ尋常小學校卒業ニシテ何年何月ヨリ何々ニ從事ス
六　資產ノ狀況
　田何反、畑何反及貸金何圓ヲ有ス
　負債何程此償還期限何年何月等
七　賞罰
　何年何月何々ノ廉ニ依リ何々ヨリ表彰セラル
　何年何月何々ノ廉ニ依リ何々ノ刑ヲ受ク
八、保證人トナルヘキ者ノ住所氏名

住所　　氏名

年月日生

前書ノ通相違ナキコトヲ證明ス

昭和　年　月　日

住所　　氏名

何市町村長　氏名　㊞

第二號樣式

參錢收入印紙

移住契約書

今般小郡灣干拓地へ移住スルコト御承認相成候ニ付テハ左ノ事項ヲ契約致候也

一　御指定ノ期日迄ニ申込書記載ノ家族ト共ニ移住シテ農業ニ精勵致スヘキコト

二　昭和二年三月山口縣告示第百八十五號小郡灣干拓地移住規程ヲ堅ク遵守シ同規程ニ基キテ生スル一切ノ義務ヲ履行スヘキコト

三　耕地買受後ハ耕地整理ノ共同施行ニ同意シ其ノ費用又ハ收入ハ一切縣ノ負擔又ハ收納スルノ外規約竝ニ設計ハ知事ノ定メラルル所ニ遵ヒ異議申ス間敷コト

四　昭和二年三月山口縣告示第百八十五號小郡灣干拓地移住規程ニ基キテ生スル一切ノ債務履行ニ付テハ保證人ニ於テ連帶責任ヲ負フコト　以上

昭和　年　月　日

山口縣營小郡灣干拓地移住規程

本籍地
現住所　移住者　氏　名　㊞
年月日生

本籍地
現住所　連帶保證人　氏　名　㊞
年月日生

山口縣知事　殿

岡山縣勝田郡新野村新野山形耕地整理組合開墾地移住共同建造物
維持管理規定

第一條　本建造物ハ新野村新野山形耕地整理組合開墾地移住者ノ組織セル共勵會ノ主旨ヲ實現スル目的ヲ以テ共同作業場並ニ集會所ニ充ツルモノトス

第二條　本所ノ維持ニ關スル經費ハ共勵會ノ積立金ヲ以テ之レニ充ツ但シ大修繕或ハ增築等ノ場合ハ建築者之レニ當ル

第三條　本建造物ニハ火災保險ヲ附ス保險料ハ建築者之レヲ負擔ス

第四條　本所ハ使用料ヲ徵セス

第五條　使用ノ方法順序等ニ關シテハ年々共勵會會議ニヨリ之レヲ定ム

第六條　本所ハ共勵會々長コレヲ管理シ一切ノ事務ヲ處理ス

福岡縣築上郡横武村藥師寺耕地整理地區地上權設定契約書

右當事者間ニ於テ地上權設定ノ爲メ左ノ契約ヲ締結ス

第一條　土地所有者横武村代表者村長ハ

横武村ノ所有ニ係ル左ニ揭クル土地ニ付キ地上權者杉本政夫ニ對シ地上權ヲ設定ス

築上郡横武村大字藥師寺地內

耕地整理地區內

昭和六年度整理施行第六號ノ內百二十一坪

第二條　地上權者杉本政夫ハ地代トシテ一ケ年ニ付米坪當四合ノ割合ヲ以テ土地所有者ニ支拂フヘシ

福岡縣築上郡横武村藥師寺耕地整理地區地上權設定契約書

福岡縣築上郡横武村大字藥師寺七百九十六番地
地上權者　杉本政夫
福岡縣築上郡横武村
土地所有者　代表者　横武村長　緒方增太郎

前項ノ地代支拂ノ時期ハ毎年十二月二十五日トス

第三條　地上權者杉本政夫カ引續キ二年以上地代ノ支拂ヲ怠リ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ土地所有者ハ地上權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第四條　此ノ地上權ノ存續期間ハ此ノ契約ノ日ヨリ滿三十年トス

第五條　地上權者杉本政夫ハ總テ此ノ地上權ノ消滅ノ時土地ヲ此契約締結ノ時ノ原狀ニ復シ其設ケタル工作物及竹木ヲ除去スヘシ但土地所有者カ時價ヲ提出シテ買取ルヘキ旨ヲ通知シタルトキハ地上權者ハ特別ノ事由ノ外之ヲ拒ムコトヲ得ス

此ノ契約締結ノ時ニ於ケル土地ノ現狀ハ田トス

右契約ヲ證スル爲メ此ノ證書ヲ作リ各署名捺印シ各共一本ヲ保存ス

右

昭和六年四月一日

地上權者　杉本政夫　㊞

土地所有者　横武村代表者

横武村長　緒方增太郎　㊞

福岡縣京都郡仲津村大字道場寺土地小作契約書

今般貴殿ト拙者トノ間ニ於テ左記條項ヲ締結シ爲後年双方共各一通ヲ分有シ契約ノ證トナス

條　項

一、地主谷治郎ヲ甲トナシ小作者進助次郎ヲ乙トス

二、乙ハ耕地ヲ主トシテ新田原開發ニ意ヲ注キ養蠶及桑樹栽培ヲ目的トナスコト

三、土地表示京都郡仲津村大字稻童字彌五郎耕作反別約七反歩ト定ム

但シ確定反別等ハ追テ整理ノ上表示ノ事

四、小作期間ハ十ケ年ト定メ期限滿了ノ後ハ双方協議ノ上更ニ繼續スル事アルヘシ

五、開畑耕作地ハ年々乙ニ於テ充分ナル手入ヲナス事若シ耕作上怠慢ニ流レ土地ノ著シク荒廢ニ傾ク憂アリト認ムルトキハ契約期間中ト雖モ甲ニ於テ解約ナス事アルヘシ但シ其際ハ地上ノ物件ノ總テハ損害ノ代償トシテ甲ニ無條件ニテ引渡ノ事

六、耕作地ハ契約期間中ト雖甲ニ於テ他ニ讓渡スカ將又他ニ轉賣スルコトアルヘシ

但シ他ニ轉賣等ノ場合ハ前以テ乙ニ通知ヲナス尙後繼人ニ於テ本契約ヲ甲ヨリ繼承セシムル事

七、契約期間中甲ニ於テ該土地ニ對シ無據必要出來シタル場合其旨乙ニ通知ス

八、乙ニ於テ右ノ通知ヲ受ケタル場合ハ一ケ年以內ニ返地スル事ヲ約諾ス

九、小作料金ハ一反歩ニ付キ一ケ年金三圓トシ第三年目迄同一法トナシ第四年目ヨリ十ケ年迄七ケ年間ハ一反歩ニ付キ毎年六圓ノ割ニ定ム

一〇、小作料金ハ毎年度十一月盡日限トス尙小作料金ハ年々ノ豐凶ニヨラスシテ絕對增減ナク既定ニ基クコト

福岡縣京都郡仲津村大字道場寺千二百九十二番地ノ三

地主　谷治郎　㊞

福岡縣築上郡八津田村大字宇留津六百二十九番地

借地人　進助五郎　㊞

右原本ニ依リ謄寫候事相違無之候也

昭和三年七月二十一日

長崎縣南高來郡山田愛野村地先三ツ島干拓耕地整理組合移住規程

福岡縣築上郡八津田村ウルヅ

證人 進 萬次郎 ㊞

進 助五郎 ㊞

第一條　本組合ニ於テ農業經營ヲ目的トスル移住民ヲ募集ス

第二條　移住民ハ左ノ資格ヲ具備スルモノタルヲ要ス

一、身體强健ニシテ農業勞働ニ堪ヘ得ル二人以上ノ家族タルコト

二、三ヶ年以上農業ニ從事シタルモノ

三、家具及被服ヲ自辨シ且ツ六ヶ月以上自己ノ生計費ヲ支出シ得ルモノ　但シ農具及食糧ノ用意ナキモノニハ貸付シ勞銀ヲ以テ漸次納入セシム

四、素行正シク原籍地又ハ現住地市町村長ノ身元證明書及戸籍謄本ヲ提出スルモノ

五、思想堅實ナルモノ

第三條　移住者ハ本組合移住者組合ニ加入スルヲ要ス

第四條　移住民ノ耕作面積ハ一戸一町歩以上トス　但シ勞力ニ餘裕アル者ハ更ニ增加スル事ヲ得

第五條　移住民五ヶ年以上優良ナル成績ヲ擧ケ永住ノ見込充分ナリト認ムルモノニハ希望ニ依リ宅地ト住宅ノ讓渡ニ應スルモノトス　但シ價格ハ實費ヲ標準トシ年賦償還ノ方法ニ依ルモノトス

第六條　農用家畜ハ必要ニ應シ購入貸付シ年賦償還ノ方法ニ依リ代金ヲ徵收ス

第七條　移住民ノ子弟ニシテ品行方正學術優等ノ者ニハ學期毎ニ金五圓ヲ賞與ス、尙將來有望ト認メタル者ニハ中等學校以上ニ入學セシメ學費ヲ貸與ス

第八條　移住民保護ノ目的ヲ以テ事務所直營ノ事業ニ使用シ男一圓女七十錢ヲ標準トシ勞銀ヲ補給ス

第九條　本地區ニハ必要ニ應シ村ノ農業技術員ヲ派遣シ農耕上ノ指導監督ヲ爲サシム

小作規程

第十條　小作者ハ耕作前別紙小作契約證書ヲ差入ルヘシ（別紙添付）

第十一條　小作料ハ勞資共共營利益分配ノ意味ニ於テ全收穫物ノ十分ノ四ヲ標準トス（立稻審査委員五名以上ヲ擧ケ收穫見込量ヲ決定ス）

小作契約證書寫

一、上　米

土地番號	反別	一反歩ニ付キ小作料
一、	畝	石
一、		石
一、		
一、		
一、		

長崎縣南高來郡山田、愛野村地先三ツ島干拓耕地整理組合移住規程

右作地拙者小作致候ニ就テハ左記ノ條項嚴守履行可仕候事

一、小作期限ハ昭和　年　月　日ヨリ昭和　年十二月末日迄トシ若シ御必用ノ節ハ期限ニ拘ハラス返地可仕候事

一、小作地ハ地主ノ承諾ナクシテ他人ヘ小作セシメ不申候事

一、小作料ハ極上等ニ仕揚ケ四斗毎ニ新表ニ入レ米一表ノ量目百二斤以上トシ十二月二十日限リ相違無ク貴殿御指定ノ場所ヘ持參仕リ可申候事（但二斗以上ノ節ハ空表ヲ添附納メル事）

一、小作料納付期限ヲ經過スル時ハ延滯料トシテ一ケ月ニ付小作料ノ千分ノ十五ノ割合ヲ以テ小作料ト共ニ納付可仕候事

一、小作料納付期限後二ケ月ヲ越ユルモ尚小作料ヲ納メサル時ハ早速保證人ヨリ辨償可仕ハ勿論土地ハ作付ノ儘無償ニテ御引揚ニ相成候トモ聊苦情等無之候事

一、小作地ハ荒レサル樣充分注意耕作シ又私ニ地形ヲ變換不仕候事

一、道路水路橋梁等ハ土地ノ慣例ニ依リ地主ノ命スル處ニ從ヒ春秋二季補修ヲナスコト

一、天災地變ニ際シ堤防等危險ヲ認メ警鐘アルトキハ卽時空俵二俵及繩等ヲ携帶シ夫役ヲナス事

右爲後日小作契約證書差入申候也

昭和　年　月　日

長崎縣南高來郡　村

小作人

殿

長崎南高來郡　村

保證人

同上組合公會所、共同作業場並ニ貯藏庫管理規程

第一條　公會所共同作業場貯藏庫ハ南高來郡山田愛野村地先三ツ島干拓耕地整理組合移住者ノ共同精神涵養ヲ圖ルヲ目的トシ公會所共同作業場及貯藏庫ニ充ツルモノトス

第二條　本所ノ維持ニ關スル經費ハ移住者ノ負擔トス

第三條　本所ハ南高來郡山田愛野村地先三ツ島干拓耕地整理組合之ヲ管理シ一切ノ事務ヲ處理ス

第四條　本所ハ貸付使用料ヲ徵收セス

第五條　第三條ニ依ル組合解散ノ場合ハ相當權威アル管理者ヲ定メ一切ヲ繼承セシムルモノトス

第六條　本所貸付及使用ニ關シテハ別ニ細則ヲ設ケルコトヲ得

長崎縣南高來郡大正村桑田移住規程

第一條　本地區ニ於テ農業經營ヲ目的トスル移住者ヲ募集ス

第二條　移住者ハ左ノ資格ヲ具備スルモノタルコトヲ要ス

一、身體强壯ニシテ農業勞働ニ堪エ得ル二人以上ノ家族タルコト

二、家具及ヒ被服ヲ自辨シ且ツ六ケ月以上自己ノ生計費ヲ支辨シ得ルモノ

但移住ノ當年ニ限リ農具及食糧ノ用意ナキモノニハ必要ニ應シ（家族ノ多寡其他ニ依リ）八十圓以內ヲ貸付シ三年以內ニ於テ生產物賣却代ヨリ納入セシム、コノ場合ハ移住者組合規程樣式第一號ニ依リ借入金契約證ヲ徵ス

三、素行正シク原籍又ハ現住市町村長ノ身元證明書及戶籍謄本ヲ提出スルモノ

第三條　移住者ハ桑田耕地整理地區ノ移住者組合ニ加入スルヲ要ス

第四條　移住者ニハ住宅ヲ貸付スルコトヲ得コノ場合ハ居住ノ年一ケ年ハ無料トシ次年ヨリハ月額八十錢ノ家賃ヲ徵收ス但修繕其他管理費ハ居住者ノ負擔トス

尙住宅買入ノ希望アルモノニハ一棟三百圓也ヲ一ケ年据置キ無利息十ケ年ノ半年賦償還ノ方法ニ依リ賣却スルモノトス

但希望ニヨリ一時拂又ハ年限ノ短縮ヲナスコトヲ得

第五條　移住者ノ耕作反別ハ一町歩ヲ標準トス

但勞力ニ餘裕アル者ハ更ニ增加スルコトヲ得

第六條　移住者ニシテ水田耕作ノ希望アルモノニハ村ニ於テ一反歩以內小作ノ斡旋ヲナスコトアルヘシ此場合ノ小作料ハ地主ト協定トス

第七條　本地區ノ小作料ハ桑田開墾地貸付規程ニ定メタルモノニ依ル

第八條　移住者ニシテ肥料及家畜購入資金ノ必要アルモノニハ當地區委員ノ査定ヲ經タルモノニ限リ移住當年度ニ於テ整地一反歩當三圓次年度ニ於テ二圓ノ範圍內ニ於テ現品ヲ貸付シ家畜購入ノ當初四十圓以內ヲ貸付ス

第九條　前各條ニ依リ貸付シタル金員ニ對シテハ桑田耕地整理地區移住者組合規程第二號樣式ニ依リ組合員ノ連帶借用證書ヲ徵ス

但移住組合規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十條　本地區ニハ必要ニ應シ村ノ農業技術員ヲ派遣シ農耕上ノ指導監督ヲ爲サシム

第十一條　本地區ニ豫定ノ移住者ヲ得ルニ到ラハ共同作業場ノ設置出荷組合ノ組織等文化施設ヲナシ作業販賣等ノ便ヲ圖ルコトアルヘシ

第十二條　移住者ノ耕作ニヨリ本地區ヨリ生スル所得ハ當分特別稅戶數割ノ所得額並ニ資力ノ算定ニ算入セス

附　則　本規定ノ公布ノ日ヨリ實施ス

昭和三年五月十九日二九號議決桑田耕地整理地區移住者募集規程ハ本規程實施ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

長崎縣北高來郡小長井村長里耕地整理組合移住規程

第一條　本組合ニ於テ農業經營ヲ目的トスル移住民ヲ募集ス

第二條　移住民ハ左ノ資格ヲ具備スルモノタルヲ要ス

一、身體强健ニシテ農業勞働ニ堪ヘ得ルモノ

二、三ケ年以上農業ニ從事シタルモノ

三、家具被服ヲ自辨シ且六ケ月以上自己ノ生計費ヲ支出シ得ルモノ

但シ農具及食糧ノ用意ナキモノニハ貸付シ勞金ヲ以テ漸時納入セシム

四、素行正シク原籍地又ハ現住地市町村長ノ身元證明書及戶籍謄本ヲ提出スルモノ

五、永住ノ目的ニテ將來自作農トナルヘキ思想堅實ナルモノ

第三條　移住民ニハ住宅並必要ナル農具肥料ヲ貸付ス但シ農具及肥料代ハ其年ノ收穫物ヲ以テ納入セシムルモノトス

第四條　移住民ノ耕作面積ハ一戶一町歩以上トス但シ勞力ニ餘裕アリト認ムルトキハ更ニ增加スルモノトス

第五條　小作料ハ勞資共存共營利益分配ノ意味ニ於テ全收穫物ヨリ貸與ノ肥料代ヲ控除シ殘數十分ノ五ヲ標準トス但シ新開初年ニ於テハ更ニ減額スルコトアルヘシ

第六條　移住民耕作田面積ノ二十分ノ一ニ相當スル畑作ニ對シテハ小作料ヲ徵收セス

前項ニ依リ耕作スヘキ畑ノ位置ハ組合之ヲ指定シ移住民自カラ開墾スヘシ

第七條　第六條以外ノ畑ノ小作ニ就テハ移住民ノ希望ニヨリ隨時協定スルモノトス

第八條　移住民ノ住宅貸付料ハ毎月二日ヅヽ、男女各一人事務所ノ農事ニ從事シ其勞金ヲ以テ之ニ充ツ十ケ年間繼續シテ勞役ニ從事シタル者ニハ無償ニテ住宅ヲ交付ス

第九條　移住民五ケ年以上優良ナル成績ヲ擧ケ永住ノ見込充分ナリト認ムルモノニハ希望ニヨリ宅地住宅ノ讓渡ニ應スルモノトス但價格ハ實費ヲ標準トシ年賦償還ノ方法ニ依ルモノトス

第十條　農用家畜ハ必要ニ應シ購入貸付シ年賦償還ノ方法ニヨリ代金ヲ徵收ス

第十一條　耕作地ハ第九條ニヨリ永住確實ナリト認ムル時期ニ於テ時價ヲ以テ年賦償還ノ方法ヲ以テ自己耕作地購入ノ希望アル移住民ニ限リ讓渡スヘシ

第十二條　移住者ノ子弟ニシテ品行方正學業優等ノ者ニハ學期毎ニ金五圓ヲ賞與ス

第十三條　前條ノ子弟ニシテ品行方正學業優等身體强健將來有望ト認メタル者ニハ中等學校以上ニ進學セシメ其ノ學資ハ當農場主ヨリ貸與ス

第十四條　移住民保護ノ目的ヲ以テ移住者ヲ事務所直營ノ事業ニ使用シ男金一圓女七十錢ヲ標準トシ勞金ヲ支給ス

第十五條　移住者ハ簡易保險ニ加入スヘシ其ノ保險料ハ事務所ヨリ支拂加入者ハ毎月一日ヅヽノ勞金ヲ以テ之ニ充ツ

熊本縣營新地管理條例

（昭和六年十二月二十四日熊本縣條例第十五號）
（昭和七年十月十五日熊本縣條例第十五號）

第一條　本條例ニ於テ縣營新地ト稱スルハ八代郡昭和村並隣接北新地（文政村地先）ニ於ケル縣有地ヲ謂フ

第二條　縣營新地事務所ハ縣營新地內ニ之ヲ置ク

第三條　縣營新地ハ別ニ定ムルモノノ外本條例ニ依リ之ヲ管理ス

第四條　縣營新地內ノ地區ハ管理上左ノ通區分ス

一、田　地
二、畑　地
三、宅　地
四、原　野
五、池　沼
六、公用地

第五條　縣營新地內ノ道路、水路、堤防及共同用建造物等ノ維持管理ハ當分ノ中左ノ區分ニ依ル

一、道路ノ維持管理ハ道路法ノ規定ニ依ル但シ道路法ノ適用ヲ受ケサル道路アルトキハ借地人ニ於テ管理シ其ノ維持修繕ヲ施行スヘシ

二、用水路幹線ハ知事之ヲ管理シ其ノ維持修繕ハ縣費ヲ以テ施行ス但シ浚渫及雜草除去ハ借地人ノ負擔ニ於テ之ヲ施行スヘシ

三、水路（溝畔ヲ含ム）ハ借地人ニ於テ管理シ其ノ維持修繕ヲ施行スヘシ

四、潮受堤防及樋門ハ知事之ヲ管理シ其ノ維持修繕ハ縣費ヲ以テ施行ス但シ暴風雨、高潮其ノ他非常時ニ於ケル警戒ハ借地人ニ於テ之ヲ施行スヘシ

五、潮遊小堤ハ知事之ヲ管理シ其ノ維持修繕ハ縣費ヲ以テ施行ス但シ小破修繕ハ借地人ノ負擔ニ於テ之ヲ施行スヘシ

六、共同用建造物ハ其ノ使用者ニ於テ維持管理スヘシ

前項第六號ノ共同用建造物使用者ニ對シテハ使用料ヲ徵收スルコトアルヘシ共同用建造物ノ使用料額及維持管理ニ關スル細

則ハ知事之ヲ定ム

第六條　用水ノ分配ハ借地人ニ於テ水利委員ヲ設置シ知事ノ指揮命令ニ依リ之ヲ管理スヘシ

第七條　第四條ノ土地及池沼ハ五箇年以内ノ期間ヲ以テ貸付スルモノトス但シ管理上必要ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトアルヘシ

第八條　土地、池沼ハ縣營新地内ニ移住スル者ニ非ラサレハ之ヲ貸付セス但シ特別ノ事情アル土地池沼ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條　借地人ニ貸付スヘキ土地ノ配當ハ一戸當約田二町歩畑宅地七畝歩トス但シ家族ノ勞力並資力ニ依リ增減スルコトアルヘシ

前項ノ土地ノ配當ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十條　土地池沼貸付ハ賃貸契約ニ依ル

前項ノ契約ハ知事之ヲ締結ス

第一項ノ契約ニ依ル土地、池沼ノ使用年度ハ六月一日ヨリ翌年五月三十一日ニ至ル迄一箇年度トス

第一項ノ契約ハ之ヲ登記セス

第十條ノ二　縣營新地ノ土地及池沼ニ付將來必要アリト認ムルトキハ縣會ノ議決ヲ經テ自作農創定其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ賣却スルコトアルヘシ

前項ニ依リ土地及池沼ヲ賣却セムトスル場合ニ於テ必要ナル事項ハ其ノ都度之ヲ定ム

第一項ニ依リ土地及池沼ヲ賣却セムトスル場合借地人ニ於テ之カ購入ヲ希望セス又ハ賣買價格ノ協議調ハサルトキハ當該借地人ハ賃貸借契約ノ期間滿了以後縣ノ指定スル期間内ニ自己ノ費用ヲ以テ土地及池沼ノ工作物ヲ除却シテ退去スヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十三條第二項ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テ借地人カ正當ノ理由ナクシテ指定期間ヲ經ルモ土地ヲ退去セス爲ニ縣カ損害ヲ負ヒタルトキハ借地人ハ之ヲ賠償スヘキモノトス

第十一條　借地人ハ借地ノ保存費、改良費其ノ他ノ有益費ヲ負擔スルモノトス

前項ノ費用ハ解約ノ場合ト雖其ノ償還ヲ爲ササルモノトス

第十二條　本條例ニ依リ土地、池沼ノ賃借ヲ爲サムトスル者ハ印鑑證明書添付ノ上第一號樣式ニ依リ借地契約書ヲ提出スヘシ

前項ノ契約書ニハ本縣内ニ住居ヲ有スル二人以上ノ連帶保證人ノ連署ヲ要ス連帶保證人死亡シタルトキハ二週間以内ニ届出ツヘシ

知事ニ於テ保證人ヲ不適當ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條ノ二　前條ノ保證人ハ借地人ノ契約上ノ債務ニ對シ連帶債務ヲ負フモノトス

知事ニ於テ契約履行上必要アリト認ムルトキハ借地人ヲシテ別ニ相當ノ擔保ヲ提供セシムルコトアルヘシ

第十三條　貸付シタル土地ノ等級及賃貸料ハ知事之ヲ定ム其ノ改訂ノ必要ヲ認メタルトキ亦同シ

前項ノ賃貸料ハ收穫高ノ約五割ヲ標準トシテ之ヲ定ム

賃貸借契約成立ノ際ハ知事ノ定ムル所ニ依リ第一年度ノ分賃貸料ヲ免除スルコトアルヘシ

第十四條　前條ノ賃貸料ハ每土地使用年度一回納入告知書ニ依リ之ヲ徵收ス其納期及場所ハ知事之ヲ定ム

賃貸借契約カ六月一日以後ニ成立シタル場合ニ於テモ亦前項ニ依ル

賃貸借契約ノ終了カ第十條所定ノ使用年度終了期前ナル場合ニ於テ其ノ終了時期カ十月一日以後ナルトキハ其ノ時期ノ屬スル年度ニ於ケル賃貸料ノ全額ヲ徵收ス

熊本縣營新地管理條例

第十五條　賃貸料ハ俵裝米ヲ以テ納入スヘシ其ノ品位ハ熊本縣穀物檢査規則ニ依リ檢査ヲ爲シタル其ノ年生産ノ三等玄米トス

但シ一俵ニ滿タサル端米ハ俵裝セスシテ納入スルコトヲ得

前項ニ定メタル品位以上ノ納米ヲ爲シタル者ニ對シテハ一般取引ノ格差額ヲ交付シ下級ノ納米ヲ爲シタル者ニ對シテハ同上格差額ヲ徵收ス

第十六條　天災地變其ノ他不可抗力ニ依リ知事ニ於テ借地人カ所定ノ期日ニ玄米ヲ以テ賃貸料ノ納入スルコト能ハスト認ムル天災ニ依リ三等玄米以上ノ生産不可能ナリト認メタル者ノ納米ニ關シテハ知事ノ定ムル所ニ依ル

トキハ現金ヲ以テ納入セシムルコトアルヘシ但シ此ノ場合ニ於ケル現金額ハ熊本縣穀物檢査所ニ於テ調査シタル八代郡八代町ニ於ケル納入所定期日前五日ノ平均玄米相場ニ依リ算定ス

第十七條　天災其ノ他不可抗力ノ爲著シク收穫ヲ減シタルトキハ知事ニ於テ賃貸料ヲ減免スルコトアルヘシ

第十八條　借地人死亡其ノ他ノ事由ニ因リ相續ノ開始アリタルトキハ相續人ハ三十日以內ニ第二號樣式ニ依リ借地權相續願ヲ提出シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條　借地人ハ借地ニ關スル權利ヲ債務ノ擔保ニ供シ又ハ賣買讓渡シ若ハ轉貸スルコトヲ得ス

第二十條　借地人ハ知事ノ承認ヲ得スシテ借地ノ形狀ヲ變更シ若ハ目的以外ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第二十一條　借地人ハ農事其ノ他土地ノ管理經營ニ關シ知事ノ發スル命ニ服シ其ノ指導ヲ遵守スヘシ

第二十二條　第二十六條又ハ借地人ノ都合ニ依リ契約ノ解除アリタル場合ニ於テ生シタル損害ハ借地人ノ負擔トス

第二十三條　第二十六條又ハ借地人ノ都合ニ依リ契約ノ解除アリタル場合ニ於テ其ノ土地ニ工作物其ノ他ノ物件アルトキハ借地人ハ知事ノ定ムル期間內ニ於テ之ヲ除去スヘシ其ノ費用ハ借地人ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テ借地人カ其ノ義務ヲ履行セサルトキハ知事ハ第三者ヲシテ代リテ之ヲ施行セシメ其ノ費用ハ借地人ヨリ徵收スルコトヲ得

第二十四條　賃貸料ハ契約ノ解除アリタル場合ニ於テモ其ノ年ニ屬スル全額ヲ徵收ス但シ知事ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ減免スルコトヲ得

第二十五條　天災事變ニ因リ借地ニ異狀ヲ生シタルトキハ借地人ハ直ニ縣營新地事務所長ニ其ノ旨報告スヘシ

第二十六條　左ノ場合ニ於テハ知事ハ契約ノ一部若ハ全部ノ解除ヲ爲スコトヲ得

一、虛僞ノ方法ヲ以テ借地ノ契約ヲ爲シタルトキ

二、指定ノ期日ヲ經過スルモ移住セサルトキ

三、移住地ニ家族ヲ伴ハサルトキ又ハ移住地ヲ退去シタトキ

四、配當ヲ受ケタル土地ヲ移住當時ヨリ一箇年以內ニ耕耘整耙シテ作物ヲ栽培セサルトキ

五、耕作ヲ怠リ土地ヲ荒廢セシメタルトキ

六、知事ノ承認ヲ得ス農業以外ノ營業ヲ營ミタルトキ

七、賃貸料ノ決定ニ對シ異議ノ申立ヲ爲シ不穩ノ行動アリト認メタルトキ

八、故ナク賃貸料ノ納入ヲ怠リタルトキ

九、本條例又ハ本條例ニ基キ發シタル命令ニ違反シタルトキ

十、知事ニ於テ公益上其他必要アリト認メタルトキ

第二十七條　本條例施行細則ハ知事之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

熊本縣營新地管理條例

昭和四年十一月熊本縣條例第八號熊本縣營新地管理條例ハ之ヲ廢止ス

本條例施行以前ニ於テ締結セラレタル賃貸借契約ニ付テハ昭和九年三月三十一日迄ノ従前ノ規定ニ依ル

本條例施行以後ニ於テ新ニ賃貸借契約ヲ爲シタル者ハ第十五條第一項ノ規定ニ拘ラス昭和十年度分迄ハ知事ノ承認ヲ經タル上四等玄米ヲ以テ納入スルコトヲ得

（第一號様式）

借地契約書

別紙表示ノ土地ハ貴縣所有地ニ有之候處今般昭和　年　月迄貸付ヲ相受候ニ付テハ縣營新地管理條例並同施行細則ヲ遵守シ且ツ知事ノ發セラルヽ命令ニ服従可致若シ違背致候場合ハ該規定ニ依リ御處分相成候トモ毫モ異議無之候爲後日保證人連署ノ上本契約書提出候也

昭和　年　月　日

住所　借地人　氏名　㊞

住所　連帯保證人　氏名　㊞

住所　連帯保證人　氏名　㊞

熊本縣知事　氏名宛

土地ノ表示

郡	村	字	地番	地目	反別	使用目的
合計	田何反歩 畑何畝歩 宅地何畝歩					

（第二號様式）

借地權相續願

末尾記載ノ土地ハ實父（又ハ何々）何某ニ賃貸相成居候處昭和　年　月　日死亡（又ハ其ノ他ノ事由）致候ニ付私ニ於テ相續致候條引續キ該土地御貸與被成下度戸籍謄本並印鑑證明書相添ヘ連帯保證人連署ノ上此段奉願候也

昭和　年　月　日

住所

熊本縣知事　氏名宛

土地ノ表示

郡	村	字	地番	地目	反別	使用目的

相續人　氏名　㊞

住所

連帶保證人　氏名　㊞

住所

連帶保證人　氏名　㊞

熊本縣營新地管理條例施行細則

（昭和六年十二月二十四日熊本縣告示第七百九十七號）

第一條　縣營新地ニ移住セムトスル者ハ本細則ニ要リ移住申込書ヲ提出スヘシ

第二條　移住者ハ左ノ各號ニ該當スル者タルコトヲ要ス

一、資性溫厚忍耐力ニ富ミ身體强壯ニシテ業務ニ精勵シ信用アル者

二、家族同伴永住スル者ニシテ移住後協同一致シテ堅實ナル農村部落ヲ建設スルノ覺悟アル者

三、相當ノ資力ヲ有シ且產業組合出資金貳百五拾圓ヲ支出シ得ル者

第三條　移住申込書ニハ左ノ事項ヲ記載シ現住地ノ市町村長ノ證明ヲ受ケ戶籍謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

一、耕作希望反別及希望ノ場所

二、移住者及同行スヘキ家族ノ氏名年齡

三、兵役ノ關係

四、農業從事可能者ノ數

五、資產ノ狀態

六、職業並經歷

七、賞罰ノ有無

第四條　知事ニ於テ移住ヲ承認シタルトキハ直ニ申込人ニ對シ之ヲ通知シ更ニ期日ヲ定メテ貸貸スヘキ土地ノ配當及移住スヘキ時期ヲ指定ス

前項ノ指定ヲ受ケタルトキハ其ノ時期迄ニ移住スヘシ

第五條　前條ノ指定ヲ受ケタル者ハ縣營新地管理條例第十二條ニ依リ借地契約書ヲ作成シ一週間以內ニ當廳ニ到達スル樣提出スヘシ

附　則

本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

熊本縣營新地管理條例施行細則

大正十五年一月熊本縣告示第二七號縣營新地移住規程ハ之ヲ廢止ス

（第一號樣式）

縣營新地移住申込書

私儀今回熊本縣八代郡昭和村又ハ文政村地先縣營新地移住民トシテ移住致度候ニ付御承認相成度此段申込候也

昭和　年　月　日

熊本縣知事　　氏名宛

別記

一、耕作希望反別及希望ノ場所（田畑宅地ニ區分スルコト）

二、移住者及同行スル家族ノ氏名年齡

申込人（戸主又ハ何某弟）	何某	年月日生	本籍地　熊本縣　市町　番地 現住所　熊本縣　郡市町村　番地 移住申込人　何某　㊞
妻	何某	年月日生	
長男	何某	年月日生	

備考

農耕ニ從事スルモノニハ○印ヲ頭書スルコト

三、兵役ノ關係

（兵種等級豫後備役編入年月日等）

四、農業從事可能者ノ數

（某々ノ何名ハ身體强壯ニシテ勞働ニ堪フルモ某ハ何々ノ疾病アルヲ以テ何々ノ時季ハ勞働ニ堪ヘス）

五、資產ノ狀態

（動產　何程
不動產　何程
負債　何程　償還期限等）

雇人　男（女）　約　何　年　何女　年月日生　何某　年月日生

六、職業並ニ經歷

（某ハ何年何月ヨリ何地ニ於テ何々ニ從事（農業ニ從事スル者ハ自作小作ノ別耕作反別田畑ニ區分記入）又ハ何々業ニ從事シタルモ何々（原因詳記ス）ニ依リ廢業シ現今何業ニ從事セリ）

（何某ハ何年何月何地ニ於テ何々ノ職業ニ從事シ何々ノ經歷ヲ有ス）

七、賞罰ノ有無

熊本縣營新地管理條例施行細則

（何々品評會ニ於テ何々賞ヲ受ク）
（何々ノ刑ヲ受ク）
八、市町村長ノ證明
（前書ノ通リ相違ナキコトヲ證明ス）
年　月　日

何市町村長　何　某　印

熊本縣告示第七百九十八號

本縣八代郡文政村地先縣營新地移住者左記ノ通募集ス

昭和六年十二月二十四日

熊本縣知事　山下謙一

記

一、募集戸數　約二百十戸
二、移住希望者ハ昭和六年十二月本縣條例第十五號縣營新地管理條例並同年同月本縣告示第七百九十七號縣營新地管理條例施行細則熟覽ノ上移住申込書ヲ所轄市町村役場（支廳長管轄區域ニ於テハ町村役場及支廳）ヲ經由シ昭和七年一月三十一日迄ニ八代郡文政村熊本縣營新地事務所ヘ差出スヘシ
三、移住ヲ承認シタルトキハ昭和七年四月十日迄ニ之ヲ本人ニ通知ス
四、移住當年ノ小作料ハ之ヲ免除ス第二年目ヨリ三箇年間ハ檢見小作トシ第五年目ヨリ土地等級ヲ定メ定額小作料ヲ徵收ス
五、移住者ニ對シテハ移住ノ爲メ必要ナル家屋ヲ建築スル場合ハ大正十五年十二月本縣告示第七二號開墾地移住家屋建築補助規程ニ依リ補助ノ制度アリ
六、移住者ニ對シテハ大正十一年二月農商務省告示第五一號開墾移住民ニ對スル汽車、電車、汽船ノ特別取扱方ニ依ル運賃割引ノ制度アリ

縣營新地經營委員會規程

（昭和七年二月四日熊本縣告示第百八十八號）

第一條　縣營新地經營上重要ナル事項ヲ審議スル爲縣營新地經營委員會ヲ設ク

第二條　委員會ハ左記ノ者ヲ以テ組織ス

委員長　内務部長
委員　庶務課長
同　農林課長
同　小作官
同　農林技師（普通農事ノモノ）
同　耕地課長
同　土木課長
同　地方課長
同　縣營新地事務所長
同　農林技師（縣營新地事務所勤務ノモノ）

第三條　委員會ハ縣營新地事務所長ノ請求ニ依リ委員長之ヲ招集ス

縣營新地經營委員會規程

第四條　委員長ハ會議ヲ司リ意見ヲ決定ス
第五條　委員長ニ幹事二名及書記二名ヲ置ク
幹事ハ委員中庶務課長及縣營新地事務所長ヲ以テ之ニ充ツ
書記ハ庶務課員及縣營新地事務所員ヲ以テ之ニ充ツ
第六條　幹事ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
書記ハ委員長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
附　則
本規程ハ昭和七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

熊本縣營新地事務所規程

（昭和七年四月三十日熊本縣告示第二百四十一號）

第一條　事務所ニ於テハ縣營新地內ノ土地、池沼、用排水路、堤防、樋門、縣有建物及新地ノ內外ニ於ケル用水幹線路ノ管理用排水ノ調節、耕種並施肥ノ指導、小作料ノ徵收保管其他經營ニ關スル事務ヲ掌ル
第二條　事務所ニ左ノ職員ヲ置ク
所　長
技　師
技　手
主事補又ハ書記
前項職員ノ外必要ニ依リ助手ヲ置クコトヲ得

第三條　所長ハ上司ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス但シ所長ニ於テ重要ナリト認ムル事項ハ縣營新地經營委員會ノ決議ヲ經テ處理スヘシ
所長事故アルトキハ上席職員其ノ事務ヲ代理ス
第四條　技師、技手ハ所長ノ指揮ヲ承ケ各其ノ業務ニ從事ス
主事補又ハ書記、助手ハ所長ノ指揮ヲ承ケ庶務其ノ他ノ任務ニ從事ス
第五條　所長ハ左ノ事項ヲ適宜處分スルコトヲ得
一、管內市町村役場トノ往復
二、所員ノ事務分擔
三、所員ノ管內出張
四、助手以下ノ命免
五、所員ノ歸省、看護、墓參、轉地療養ノ許可及除服出仕
第六條　所長ハ天災事變其ノ他災害アリタルトキハ直ニ知事ニ報告シ應急ノ處置ヲ爲スヘシ
第七條　所長ハ每年五月末日限リ前年度ニ於ケル業務功程ヲ知事ニ報告スヘシ
第八條　事務所ニ於テ處務細則ヲ制定セントスルトキハ所長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ
附　則
本規程ハ昭和七年四月一日ヨリ施行ス
大正十五年四月告示第二百二十八號熊本縣營新地事務所規程ハ之ヲ廢止ス

熊本縣新地事務所規程

熊本縣營新地共同用建造物維持管理細則

（昭和七年十月十八日 熊本縣告示第五百七十二號）

第一條　本則ニ於テ共同用建造物ト稱スルハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一、集會所兼事務所　一棟
一、共同宿泊所　四棟
一、收納舍　二棟
一、樋門番舍　二棟
一、樋門番舍附屬格納庫　二棟
一、渡船小屋　一棟
一、寺院　一棟
一、神社　一棟
一、小學校舍　一棟
一、隔離病舍　一棟

第二條　共同用建造物ニシテ縣營新地移住者ノ爲縣ニ於テ必要ト認ムルモノハ縣費ヲ以テ之ヲ建設スルモノトス

第三條　共同用建造物ハ移住者ノ農村生活並農業經營等相互ノ福利ヲ增進シ共存共榮ノ實ヲ擧クル爲之ヲ使用セシムルモノトス

第四條　共同用建造物ノ維持管理ニ要スル費用ノ負擔ハ左ノ區分ニ依ル

一、事務所、共同宿泊所、收納舍、樋門番舍、樋門番舍附屬格納庫、渡船小屋ニ付テハ縣

二、寺院、神社ニ付テハ各其ノ法人團體

三、小學校舍、隔離病舍ニ付テハ地元村

四、集會所ニ付テハ移住者但シ移住者ニ於テ代表者一名ヲ選定シ知事ニ屆出ツヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

第五條　共同宿泊所ヲ使用セムトスル者ハ縣營新地事務所長ニ申出テ其ノ承認ヲ受クヘシ

第六條　集會所兼事務所及收納舍ハ其ノ利用上支障ナシト認ムル場合ニ限リ他ノ用途ニ使用セシムルコトアルヘシ

前項ノ建造物ヲ使用セムトスル者ハ使用期間使用目的ヲ記載シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　第四條第二號乃至第四號ノ建造物ノ使用目的ヲ變更セントスルトキハ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第八條　管理者ニ於テ共同用建造物ノ修繕ヲ怠リタルトキハ知事ハ必要ト認ムル程度ノ修繕ヲ命スルコトアルヘシ

第九條　左ノ場合ニ於テハ知事ハ共同用建造物ノ使用ヲ停止シ若クハ返還ヲ命スルコトアルヘシ

一、本則又ハ本則ニ基キ發シタル命令ニ違反シタルトキ
二、共同用建造物ノ用途ヲ廢止シタルトキ

附　則

本則ハ告示ノ日ヨリ之ヲ施行ス

熊本縣營新地用水管理內規

（昭和七年五月十六日 熊本縣達 第六四號）

第一條　縣營新地用水路ノ球磨川取入口門扉、放水路門扉及幹線水路分水口ノ門扉ハ縣營新地事務所職員ニ非ラサレハ之ヲ開閉スルコトヲ得ス

第二條　縣營新地內ノ各井堰ノ角落ハ水利委員ノ意見ヲ徵シ縣營新地事務所職員ニ於テ之ヲ開閉スルモノトス

熊本縣營新地用水管理內規

第三條　幹線水路ヨリ南新地ニ分水スル總水量ハ毎秒約二十八個（單位用水量ハ毎秒〇・〇七五町秒尺）トシ其ノ水量ヲ左記標準ニ依リ分水スルモノトス

第一分水口水量　十七個
灌漑面積　二百二十三町歩
第二分水口水量　七個
灌漑面積　九十六町歩
日進區第一分水口水量　一個
灌漑面積　十二町歩
同　第二分水口水量　一個
灌漑面積　十二町歩
同　第三分水口水量　一個
灌漑面積　十二町歩
同　第四分水口水量　一個
灌漑面積　三町歩

第四條　前條ノ各分水量ニ關シ變更ノ必要アリト認ムルトキハ水利委員ノ意見ヲ徴シ縣營新地事務所職員ニ於テ時宜ノ處理ヲ爲スモノトス

第五條　幹線用水路ノ南新地入口附近ニ於ケル總水量ヨリ南新地ノ所要水量ヲ控除シタル殘水量ハ北新地ニ送水スルモノトス
但シ球磨川ノ減水其ノ他ノ爲南新地入口附近ニ於ケル水量カ減少シタルトキハ水利委員ノ意見ヲ徴シ灌漑面積用水量不足狀況等ニ依リ適宜ノ方法ヲ講スルモノトス

宮崎縣宮崎郡赤江町磯村合名會社赤江農場規程

第一條　磯村合名會社赤江農場ハ宮崎縣宮崎郡赤江町大字郡司分及田吉地內ノ社有地ヲ管理シ優良ナル農業移住者ヲ招致シテ理想ノ新農村ヲ建設シ農業經營ノ合理化ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條　本農場ハ農業移住者ニ土地ヲ貸與若クハ分讓シ各自ニ獨立經營ヲ行ハシムルト共ニ共同的施設ニヨリ生產加工購買販賣ノ利便ヲ計ルモノトス

第三條　本農場事務所ヲ宮崎縣宮崎郡赤江町大字田吉字濱畑ニ置ク

第一　事務所

第四條　本事務所ニ於テハ農場ノ管理及經營移住農家ノ指導斡旋賃借料ノ取立保管ニ關スル事務ヲ掌ルモノトス

第二　移住

第五條　本農場ニ移住セムトスル者ハ左ノ各號ニ該當スルモノタルコトヲ要ス

一、資性溫厚忍耐力ニ富ミ身體强壯ニシテ職務ニ精勵シ信用アル者
二、家族同伴永住土着ノ決心アルモノ
三、最近五ヶ年以上農業ニ從事シ經營上特種ノ技能ヲ有スル者
四、移住後協心戮力理想農村ヲ建設スルノ覺悟アル者
五、移住後六ヶ月以上自家ノ生計ヲ支辨シ得ル者
六、農耕ニ用ユル家畜及器具等ノ全部ヲ支辨シ得ル者

七、住宅其他ノ建築費ノ全部又ハ五割以上ヲ支辨シ得ル者

第六條　移住希望者ハ申込書（第一號樣式）ニ左ノ事項ヲ揭記シ本籍地市町村長ノ身元證明ヲ受ケ戶籍謄本ヲ添ヘ農場事務所ニ提出スヘシ

一、耕作希望田畑別面積

二、移住者及同行スル家族ノ氏名

三、農業勞働ニ從事スル者ノ氏名

四、家產ノ狀態

五、經歷ノ概要

六、賞罰ノ有無

第七條　移住ヲ承認シタルトキハ直ニ申込人ニ對シ之ヲ通知ス

第八條　移住者ハ本農場所定ノ土地賃貸借契約證書二通ヲ作成シ印鑑證明書添付ノ上農場事務所ニ提出スヘシ

前項契約證書ニハ二人以上ノ連帶保證人ヲ要ス若シ不適當ト認ムルトキハ其變更ヲナサシムルコトアルヘシ

連帶保證人死亡シタルトキハ二週間以內ニ届出ツヘシ

第三　土地貸付

第九條　移住者ニ貸付スル土地ハ一戶當約田一町步畑八反步トス但シ土地ノ狀況家族ノ勞力及資力ニ依リ增減スルコトアルヘシ

第十條　土地賃貸借契約期間ハ十ケ年トシ滿期後ハ改締スルモノトス

第十一條　賃借料ハ土地ノ狀態ニヨリ田地ハ一等ヨリ五等迄畑地及宅地ハ一等ヨリ三等迄ノ等位ヲ分チ別ニ之ヲ定ムルモノトス

第十二條　賃借料ハ田地ハ米納トシ每年農場事務所ノ定メタル期間內ニ指定ノ場所ニ於テ納入スルモノトス但シ契約解除ノ場合ハ卽時納入スルモノトス

第十三條　前條納入米ノ品位ハ宮崎縣穀物檢查規則ニ依リ檢查ヲ爲シタル其年生產ノ三等玄米トス但一俵ニ滿サル端米ハ俵裝セスシテ納入スルコトヲ得

借地人止ムヲ得サル事由ニ因リ米納シ能ハサル場合ハ時價ニ換算シ代金納ヲ爲スコトヲ得其時價ハ宮崎縣穀物檢查所ニ於テ調查シタル宮崎市ニ於ケル其生產年度ニ屬スル十一月中ノ平均相場ニ依ルモノトス

第十四條　前條ニ定メタル品位以上ノ一二等米ヲ納入シタルトキハ一般取引ノ格差額ヲ交付シ若シ下級ノ納米ヲ爲シタル者ニ對シテハ同上格差額ヲ徵收スルモノトス

第十五條　畑地ノ賃借料ハ金納トシ每年農場事務所ノ定メタル期間內ニ納入スルモノトス但シ契約解除ノ場合ハ卽時納入スルモノトス

第十六條　借地人ハ年ノ豐凶ニ拘ラス所定ノ賃借料ヲ納入スヘキ義務アルモノトス

但シ天災又ハ不可抗力ニ因リ收穫カ普通ノ收穫ニ比シ三割以上減少シタルコトヲ借地人ニ於テ豫想シタルトキハ收穫一週間前農場事務所ニ檢見ヲ請求スヘシ若シ之ヲ怠リタルトキハ賃借料減免ノ要求ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

第十七條　土地賃貸借契約期間中ト雖モ左ノ事項ニ該當スルトキハ契約ヲ解除スルコトアルヘシ

一、本規程又ハ契約條項ニ違背シタルトキ

二、農場事務所ノ承認ヲ經スシテ借地ヲ目的外ニ使用シ又ハ原形ヲ變更シタルトキ

三、土地ヲ荒廢シ若クハ豫定ノ事業ヲ遂行セサルトキ

宮崎縣宮崎郡赤江町磯村合名會社赤江農場規程

四、本農場ノ經營方針ニ從ハス又ハ秩序紊亂ノ行爲アルトキ
五、農場事務所ノ承認ヲ得スシテ借地ノ轉貸ヲナシタルトキ
六、破産若クハ禁治産ノ宣告ヲ受ケ又ハ罪科ヲ犯シタルトキ

第十八條　水路又ハ道路修繕ニ付勞役ヲ要スルトキハ借地人ハ其耕作反別ニ應シ出役スル義務アルモノトス

第十九條　借地人ノ死亡其他ノ事由ニ因リ相續ノ開始アルトキハ相續人ハ三十日以内ニ賃借權相續願ヲ保證人連署ヲ以テ戸籍謄本ヲ添ヘ農場事務所ニ提出スヘシ

第四　土地ノ讓與

第二十條　移住者ニシテ三ケ年以上誠實ニ業務ニ從事シ成績良好ナル者ニ對シテハ希望ニ應シ一戸ニ付約田地一町歩畑地八反歩以内ヲ限度トシテ之ヲ分讓ス

第二十一條　土地ノ價格ハ町村農會職員並耕地整理組合役員等ニ囑託シ之ヲ評定ス

第二十二條　土地分讓ニ就テハ成ルヘク自作農創設資金借用ノ便ヲ計リ若シ其供給ヲ受ケサル者ニ對シテハ地代ノ半額ヲ即金ニテ納入セシメ殘金ハ十ケ年以内ノ年賦償還ノ方法ニヨリ貸付クルコトアルヘシ

第五　宅地家畜及農具其他ニ關スル貸與及讓渡

第二十三條　移住者ニ貸付スル宅地ハ一戸ニ付約一反歩トシ本農場ニ於テ其場所ヲ指定シ賃借料ハ畑地ト同一額トス
但每年農場事務所ノ定メタル期間内ニ納入スルモノトス

第二十四條　宅地賃借料ヲ全納シ能ハサル場合ハ玄米ニテ代納スルコトヲ得但シ換算ノ方法ハ第十三條ヲ適用スルモノトス

第二十五條　移住者ニハ其希望ニヨリ住宅建築資金ノ一部ヲ年賦償還ノ方法ニヨリ貸與スルコトアルヘシ

第二十六條　本規程ニヨリ耕作地ノ讓渡ヲ受ケタル者ニシテ二十ケ年間賃借料及其他ヲ完納シ他ノ模範トスル者ニ對シテハ其宅地ヲ無償ニテ讓渡スルコトアルヘシ

第二十七條　本農場ニ於テハ必要ニ應シ社會的及經濟的施設ヲ爲ス特ニ移住者共同ノ用ニ供スル爲メ公會堂共同作業場荷造場農業倉庫等ヲ建築シ低廉ナル使用料ヲ徵收シ之ヲ使用セシム

第二十八條　耕作土地ニ使用スル購入肥料ノ資金ハ當分ノ内無利子ニテ貸付ケ其年ノ收穫後ニ於テ返納セシム

第二十九條　本農場ニハ必要ニ應シ移住者共同用ニ供スル爲メ特殊ノ改良農具ヲ設備シ低廉ナル使用料ヲ徵收シ之ヲ使用セシム

第三十條　役畜牛馬ニ關シテハ別ニ規度ヲ設ケ移住者ノ希望ニ應スルコトアルヘシ

（第一號樣式）

赤江農場移住申込書

今般宮崎縣宮崎郡赤江町内赤江農場移住民トシテ移住致度候ニ付御承認相成度當該規程第六條ノ書類相添ヘ此段申込候也

年　月　日

本籍地　縣　郡　市町村大字　番地
現住所　縣　郡　市町村大字　番地
移住申込人　何　某　㊞

磯村合名會社赤江農場事務所宛

記

一、耕作希望田畑別面積
田何町何反歩
宮崎縣宮崎郡赤江町磯村合名會社赤江農場規程

畑何反歩

二、移住者及同行スル家族ノ氏名

申込人（戸主又何某弟）　何　某　生年月日

妻　何　某　生年月日

長男　何　某　生年月日

弟（某ノ何男）　何　某　生年月日

三、農業勞働ニ從事スル者ノ氏名

（某々ノ何名ハ身體强壯ニシテ勞働ニ堪ユルモ某ハ何々ノ疾病アルヲ以テ何々時ハ勞働ニ堪ヘス等）

四、家產ノ狀態

（資產何程負債何程償還期間等）

五、經歷ノ概要

（何年何月ヨリ何地ニ於テ何々ニ從事（農業ニ從事シタルモノハ自作小作ノ別及耕作田畑別反別ヲ）又ハ何業ニ從事シ何々ニ依リ廢業シ現今何業ニ從事中等）

（其他申込人又ハ家族ニシテ官公職ニアリタル者ハ其履歷ノ概要ヲ列記スルコト）

六、賞罰ノ有無

（何々ニ依リ何賞ヲ受ク）

宮崎縣宮崎郡赤江町蠣原耕地整理組合地區內
磯村合名會社赤江農場開墾移住地共同建造物使用管理規程

第一條　赤江農場開墾移住地共同建造物ハ磯村合名會社赤江農場之ヲ建設所有シ移住ノ使用ニ供シ其ノ維持管理ヲ行フモノトス

第二條　共同建造物ハ移住者ノ農業經營ノ改善ニ資シ收納又ハ作業等ノ利便ヲ計リ以テ相互ノ福利ヲ增進シ共存共榮ノ實ヲ擧ケンカ爲メ移住者ノ共同ノ用ニ供スルモノトス

第三條　建造物ノ種類及其用途左ノ如シ

一、收納場　移住者ノ生產シタル穀物又ハ加工購賣及販賣等ノ物品ヲ收納保管スルコトアルヘシ

二、作業場　移住者生產物ノ調製荷造又ハ加工及肥料配合等ノ作業ヲナスモノトス但シ時宜ニ依ツテハ作業ヲ制限スルコトアルヘシ

但シ作業場ハ當分移住者ノ修養慰安及輯睦ヲ圖ルノ集會場ニ充ツルコトアルヘシ

第四條　本建造物ハ移住者ノ使用ニ供スルノ外農場關係者ノ使用ニ供スルコトアルヘシ

第五條　本建造物ノ使用維持管理ニ關スル事務ハ農場事務所ニ於テ之ヲ掌ルモノトス

第六條　每年春季ニ移住者ノ集會ヲ開キ左ノ事項ヲ報導又ハ協議スルモノトス但シ緊急止ムヲ得サル事項アルトキハ臨時集會

ヲ開催スルコトアルヘシ

一、經費豫算及決算ノ報導

二、事業狀況ノ報導

三、共同使用ニ關スル事項ノ協定

四、規定又ハ細則等設定變更等ノ事項諮問

第七條　本建物ノ使用管理ニ關スル事務ノ一部ヲ移住者ノ互選シタル委員ニ囑託シ相互ノ連係利便ヲ計リ以テ該建造物ノ圓滑ナル利用ヲ圖ルモノトス

第八條　前條委員ハ移住者中ヨリ五名ヲ推擧スルモノトス

委員會ハ農場事務所ニ於テ之ヲ召集シ總集會ニ附スル事項ノ報導又ハ諮問ヲナスモノトス

第九條　使用希望者ハ使用前日迄ニ農場事務所ニ申込ムヘシ

第十條　前條ノ申込アリタル場合適當ト認メタルトキハ申込順ニヨリ之ヲ承認スルモノトス但使用ノ目的如何ニヨツテハ制限ヲ附シ又ハ申込順ニ據ラスシテ承認スルコトアルヘシ

第十一條　前條使用承認ヲ經タル者ハ使用料ヲ納入スルモノトス

第十二條　移住者以外ノ使用ハ移住者ノ使用ニ支障ナキ範圍ニ於テ之ヲ承認スルモノトス

第十三條　使用申込者止ムヲ得サル事情ノ爲メ取消ヲナサムトスル時ハ直ニ其ノ旨申出ツヘシ若シ申出ヲ怠リ他ノ使用ヲ甚シク妨ケタル場合ハ使用料ヲ徵收スルコトアルヘシ

第十四條　使用料ヲ滯納シタルトキハ之カ完納迄建造物ノ使用ヲ拒絕スルモノトス

第十五條　使用者カ建造物ヲ毀損シタル場合ハ其ノ事情ニヨリ相當ノ辨償ヲナサシムルコトアルヘシ

第十六條　本建造物ノ維持費ハ使用管理ニ關スル細則ハ別ニシテ定ムルモノトス

宮崎縣西諸縣郡野尻村漆野原耕地整理組合移住規程

第一條　漆野原耕地整理組合地區內ニ優良ナル農業移住者ヲ招致シ組合事業ノ完成ヲ期スルモノトス

第二條　農業移住者ニ土地ノ分讓若クハ貸付ヲナシ各自ニ獨立ノ經營ヲ營マシムルト共ニ共同的施設ニヨリ生產加工購買販賣ノ利便ヲ計ルモノトス

第三條　本地區ニ移住セムトスルモノハ左ノ各號ニ該當スルモノタルコトヲ要ス

一、資性溫厚身體强健ナルモノ

二、家族同伴永住土着ノ決心アルモノ

三、最近五箇年以上農業ニ從事シタルモノ

四、移住後六箇月以上自家ノ生計ヲ支辨シ得ルモノ

五、家屋建築費ノ全部又ハ五割以上ヲ支辨シ尙農耕ノ用ニ供スル相等ノ準備ヲ整ヘ得ルモノ

六、可成土地(畑又ハ原野)五段步以上購入シ自費若クハ自己ノ勞力ヲ以テ開田シ得ルモノ

第四條　移住希望者ハ申込書(第一號樣式)ニ左ノ事項ヲ揭記シ本籍地市町村長ノ身元證明書並ニ戶籍謄本ヲ添付シ本組合事務所ニ申込ムヘシ

一、買入希望地

田畑
- 既ニ開田シタルモノ
- 直ニ開田スルモノ
- 原野ヲ含ム

面積

二、小作希望地　田　既ニ開田シタルモノ
　　畑　直ニ開田スルモノ　面積
　　原野ヲ含ム

三、移住者及同行スル家族ノ氏名及年齢

四、農業ニ從事スルモノヽ氏名

五、家產ノ狀態

六、經歷ノ概要

七、賞罰ノ有無

第五條　移住者ヲ承認シタル時ハ直ニ申込人ニ對シ通知ス

第六條　前條ノ通知ヲ受ケタルモノハ一箇月以內ニ土地ノ分讓又ハ貸付ニ關スル所定ノ誓約書ヲ作製シ印鑑證明書ヲ添付シ本組合事務所ニ提出スヘシ

土地ノ分讓

第七條　移住者ニシテ土地ノ分讓ヲ受ケムトスルモノアルトキハ一戶ニ付田一町五反步畑五反步內外ヲ限度トシテ之ヲ許可ス
（但シ當分ノ內三町步乃至五町步內外ノ集團地ヲ分讓スルコトヲ得）

第八條　土地ノ價格ハ村及村農會職員若クハ適當ナル評定人ヲ囑託シテ評價セシメ本組合ニ於テ之ヲ決定ス

第九條　土地ノ分讓ニハ現金ヲ申受クルモ特別ノ場合ニハ左ノ方法ニ依ルコトアル可シ

一、可成自作農創設資金借入ノ便ヲ圖ルコト

二、地代ノ半額ヲ卽納シ殘額ハ貸付十ヶ年以內ノ年賦償還ノ方法ニヨルコト

第十條　移住者ニ提供スル宅地ハ一戶ニ付約一反步トシ本組合ニ於テ其ノ場所ヲ指定シ畑地ト同等ノ價格ニテ分讓若クハ貸付スルモノトス

但シ土地五反步以上買受ケタルモノニ對シテハ宅地貸付料ヲ五ヶ年間免除スルコトヲ得

土地ノ貸付

第十一條　土地ノ貸付ハ一戶當水田一町五反步內外トス

但シ土地ノ狀況勞働者ノ多少ニ依リ增減スルモノトス

第十二條　土地ノ貸付契約期間ハ十ヶ年トシ滿期後更新スルモノトス

但シ貸付料ハ開墾後四ヶ年ヲ一期トシ當分每年協定シ第二期以後ハ五ヶ年每ニ改正ス

第十三條　土地ノ貸付料ハ土地ノ狀態ニ依リ斟酌シ田ハ一等ヨリ四等迄畑及宅地ハ一等ヨリ三等迄ノ等位ニ分チ各等ニ涉リテ評議員會ニ諮詢シテ組合長之ヲ決定ス

第十四條　貸付料ハ組合指定ノ期日迄ニ納入スルモノトス但シ天災ニ依リ著シク減收ノ場合ハ實地調查ノ上減額スルモノトス

第十五條　借地人ハ組合ニ於テ適當ト認ムル二人以上ノ保證人ヲ定メ土地貸借契約ヲ爲スモノトス但シ組合ノ承認シタル保證人ト雖モ死亡轉任其ノ他ノ事由ニ依リ組合ニ於テ更改ヲ要求シタル時ハ直ニ適當ノ保證人ヲ選定シ契約書ノ改締ヲ爲スモノトス

第十六條　借地ニ關スル權利ハ之ヲ債務ノ擔保ニ供シ若シクハ讓渡及其ノ他ノ法律行爲ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第十七條　土地貸付期間中ト雖モ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲アルモノニ對シテハ土地貸付ノ契約ヲ解除スルコトアルヘシ

一、本組合ノ經營方針ニ從ハス秩序紊亂ノ行爲アルトキ

二、貸地ヲ荒廢ニ歸セシメ又ハ土地ノ管理不充分ナルトキ

三、本組合ノ承諾ナクシテ貸地ヲ目的外ニ使用シ又ハ原形ヲ變更シタルトキ

四、貸地料ヲ延滯シタルトキ

五、破産又ハ禁治産ノ宣告ヲ受ケ又ハ罪科ヲ犯シタルトキ

第十八條　水路又ハ道路修繕ニ付キ勞役ヲ要スルトキハ借地人ハ其ノ反別ニ應シ出役スルノ義務アルモノトス

第十九條　借地人ノ死亡其ノ他ノ事由ニ依ル相續ノ開始アルトキハ相續人ハ三十日以内ニ貸借權相續願（第二號樣式）ニ保證人連署ヲ以テ戸籍謄本ヲ添付シ本組合事務所ニ申出ス可シ

第二十條　本組合ニ於テ共同用ニ供スル爲メ將來必要ニ應シ公會堂共同作業場荷造場倉庫等ヲ建設シ且ツ特殊ノ改良農具ヲ購入シ低廉ナル使用料ヲ徵收シテ之ヲ使用セシムルモノトス

（第一號樣式）

漆野原地區移住申込書

今般宮崎縣西諸縣郡野尻村内漆野原地區移住民トシテ移住致度候ニ付御承認相成度當該規程第四條ノ書類相添（此段申込候也

年　月　日

本籍地　縣　郡　市町村大字　番地
現住所　縣　郡　市町村大字　番地
移住申込人　何　某　㊞

漆野原耕地整理組合事務所宛

記

一、買入希望地　田　既ニ開田シタルモノ
　　畑　直ニ開田スルモノ　原野ヲ含ム　面積

二、小作希望地　田　同
　　畑　同　面積

三、移住者及同行スル家族ノ氏名

申込人（戸主又ハ何某弟）何　某　生年月日
妻　何　某　生年月日
長　男　何　某　生年月日
弟（某ノ何男）　何　某　生年月日

四、農業勞働ニ從事スル者ノ氏名
（某々ノ何名ハ身體强壯ニシテ勞働ニ堪ユルモ某ハ何々ノ疾病アルヲ以テ何々時ハ勞働ニ堪ヘス等）

五、家産ノ狀態

宮崎縣西諸縣郡野尻村漆野原耕地整理組合移住規程

（資産何程負債何程償還期間等）

六、經歷ノ概要

（何年何月ヨリ何地ニ於テ何々ニ從事（農業ニ從事シタルモノハ自作小作ノ別及耕作田畑別反別ヲ）又ハ何業ニ從事シ何々ニ依リ廢業シ現今何業ニ從事中等）

（其ノ他申込人又ハ家族ニシテ官公署ニアリタル者ハ其ノ履歷ノ概要ヲ列記スルコト）

七、賞罰ノ有無

（何々ニ依リ賞罰ヲ受ク）

（第二號樣式）

賃借權相續願

末尾記載ノ土地ハ實父（又ハ何々）何某ニ賃借相成居候處昭和何年何月何日死亡（又ハ其ノ他ノ事由）候ニ付私ニ於テ相續致候條引繼キ該土地御貸與被下度戶籍謄本印鑑證明書相添ヱ連帶保證人連署ノ上此段相願候也

昭和　年　月　日

住所
相續人
願人　氏名　㊞

住所
連帶保證人　氏名　㊞

住所
連帶保證人　氏名　㊞

漆野原耕地整理組合事務所宛

記

土地ノ表示

郡	村	大字	字	地番	地目	反別	使用セムトスル目的

宮崎縣西諸縣郡野尻村漆野原開墾移住地共同收納場使用管理規程

第一條　漆野原開墾移住地共同收納場ハ漆野原耕地整理組合之ヲ建設所有シ移住者ノ使用ニ供シ其ノ維持管理ヲ行フモノトス

第二條　本收納場ハ移住者ノ農業經營ノ改善ニ資シ收納ノ利便ヲ計リ以テ相互ノ福利ヲ增進シ共存共榮ノ實ヲ擧ケンカ爲メ共同ノ用ニ供スルモノトス

第三條　本收納場ノ用途左記ノ如シ

（一）移住者ノ生產シタル穀物ノ收納保管

（二）移住者ノ生產シタル加工品ノ收納保管

（三）肥料購入等ノ物品ヲ收納保管

（四）以上物品ノ共同販賣

宮崎縣西諸縣郡野尻村漆野原開墾移住地共同收納場使用管理規程

（五）其ノ他組合事務所ニ於テ必要ト認メタル事項

但シ時宜ニ依ツテ物品ヲ制限スルコトアルヘシ

第四條　本收納場ハ移住者ノ使用ニ供スル外組合關係者ノ使用ニ供スルコトアルヘシ

第五條　本收納場ノ使用維持管理ニ關スル事務ハ組合事務所ニ於テ之ヲ掌ルモノトス

第六條　每年春季ニ移住者ノ總會ヲ開キ左ノ事項ヲ協議スルモノトス

一、經費豫算及決算ノ報告

二、事業狀況ノ報導

三、共同使用ニ關スル事項ノ協定

第七條　使用希望者ハ使用前日迄ニ組合事務所ヘ申込ミ其ノ承認ヲ受クヘシ

但シ使用ノ目的如何ニヨリテハ制限ヲ附シ或ハ拒否スルコトアルヘシ

第八條　移住者以外ノ使用ハ移住者ノ使用ニ支障ナキ範圍ニ於テ之ヲ承認スルモノトス

第九條　使用者カ本收納場ヲ毀損シタル場合ハ其ノ事情ニヨリ相當辨償ヲナサシムルコトアルヘシ

第十條　本收納場ノ維持費ハ使用料及建設者ノ負擔トス

宮崎縣兒湯郡川南村深田農場移住規程

第一條　本農場ハ深田謙介ノ經營スルモノトス

第二條　本農場ニ管理者ヲ置キ移住ニ關スル一切ノ事務ヲ掌管セシム

第三條　移住者ハ左記ニ該當スルモノタルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アリト認メタルトキハ此ノ限ニアラス

一　宮崎縣知事ノ承認ヲ受ケタル者

二　初回收穫迄ノ食費及其他ノ移住費用合計一千圓以上所持スル者

三　資性溫厚耐忍力ニ富ミ身體强壯ニシテ他人ニ嫌忌セラルヘキ疾病ナク且業務ニ精勵シ信用アル者

四　現ニ農業ニ從事シツヽアル者

五　家族同伴永住スル者ニシテ移住後農業ヲ專業トシ協同一致シテ理想農村ヲ建設スルノ覺悟アル者

六　產業組合出資金壹百圓ヲ支出シ得ル者

七　以上ノ資格ヲ有スル者ヲ引率シテ移住スル者

第四條　移住希望者ハ左記樣式ノ申込書ニ現住地市町村長ノ證明ヲ受ケ戶籍謄本ヲ添付シ深田農場管理者宛差出スヘシ

第五條　移住ノ申込アリタルトキハ身元調査ノ上採否ヲ決定シ本人ニ通知ス

第六條　移住ノ許可ヲ受ケ期日ヲ決定シタル場合ハ期日內ニ移住シ故ナク指定期日ヲ經過スルモ移住セサル時ハ移住許可ヲ取消ス事アルヘシ

第七條　移住者ニ貸付スヘキ土地ハ一戶當開畑二町步（宅地共）トス但シ家族ノ勞力並ニ資力ニ依リ增減スルコトアルヘシ

第八條　小作料ハ開墾後三ケ年間免除シ四ケ年目ヨリ宮崎縣穀物檢查合格米反當一斗五升乃至二斗トシ現物納入困難ナル場合ハ換算シタル金額ヲ納入スル事ヲ得但附近小作料ノ增減ニヨリ移住者ト合意ノ上變更スルコトアルヘシ

第九條　移住者ノ耕地及宅地ハ管理者ト協議ノ上決定ス

第十條　移住者ハ桑茶ラミー果樹ノ永年作物以外ノ永年作物ヲ栽植スヘキ場合ハ管理者ノ承認ヲ受クルモノトス

移住申込書

原籍地　縣　郡　町　番地
市　村

一、移住者

一　經　歷（軍人軍屬ニ關係アルモノハ記入ノ事）
一　現　職　業（農又ハ日稼業等）
一　資　産（田何反畑何反現金何千圓貸金何千圓其他合計）
一　賞罰ノ有無
一　希望事項（畑地ノ耕作反別其他）

現住所　縣　郡　市　町　村　番地　　二一四

戸主（又ハ戸主何男）　何　某　生年月日
妻　何　某　生年月日
父　何　某　生年月日
母　何　某　生年月日
長男　何　某　生年月日
長女　何　某　生年月日

一　移住時期
一　農具家具（携帯又ハ移住地ニテ購入等）

年　月　日

兒湯郡川南村深田農場
管理者　平　島　重　廣　殿

右相違ナキ事ヲ證明ス

年　月　日

縣郡市町村長　何　某　㊞

右申込者　何　某　㊞

宮崎縣兒湯郡上江村新山開墾移住地共同集會場兼共同作業場使用管理規程

第一條　新山開墾移住地共同建造物ハ上江村之ヲ建築所有シ新山部落ニ居住スル移住者ノ使用ニ供ス其維持管理ハ移住者之レニ當ルモノトス

第二條　本建造物ハ移住者ノ修養慰安及輯睦ヲ圖リ農村生活並ニ農業經營ノ改善ニ資シ以テ相互ノ福利ヲ增進シ共存共榮ノ實ヲ擧クルカタメ之ヲ使用スルモノトス

第三條　建造物ノ室別ハ左ノ如シ

（イ）集會場　（ロ）控　室　（ハ）土間（共同作業場）

第四條　本建造物ハ移住者ノ使用ニ供スルノ外移住者ニ於テ使用セサルトキハ地區內及附近居住者ノ使用ニ供スルコトヲ得

第五條　本建造物ノ使用維持管理ニ關スル事務ヲ掌ラシムルタメニ管理者ヲ置キ移住者中ヨリ之レヲ互選スルモノトス

第六條　毎年春季ニ共有者ノ總會ヲ開キ左ノ事項ヲ決議スルモノトス

但シ總會ハ管理者又ハ五名以上ノ委員名ヲ以テ召集ス

右總會ノ決議事項ハ上江村長ノ承認ヲ得テ其ノ効力ヲ生スルモノトス

一、經費豫算及決算

二、事業報告

三、共有財産ノ維持管理ニ關スル事項

四、積立金ノ支出及流用ニ關スル事項

五、規定變更訂正及加除

第七條　總會ノ議長ハ管理者之ニ當リ管理者事故アルトキハ第八條ニ規定セル委員中ヨリ互選シタル一名之ニ當ルモノトス

第八條　移住者中ヨリ委員五名ヲ互選シ委員會ヲ組織ス

委員會ハ管理者之ヲ召集シ本建造物ノ使用維持管理ニ關スル重要ナル事項及使用料ノ決定移住者ニ對スル賦課額ノ決定並ニ總會ニ附議スヘキ事項等ヲ決議ス

委員會ノ議長ハ管理者之ニ當ルモノトス

第九條　使用希望者ハ使用前三日迄ニ管理者ニ申込ムヘシ

但シ特ニ急ヲ要スル場合ハ此ノ限リニ在ラス

第十條　前條ノ申込アリタル場合適當ト認メタルトキハ申込順ニ依リ承認スルモノトス但シ使用ノ目的如何ニヨリテハ制限ヲ附シ又ハ申込順ニ依ラスシテ承認スルコトアルヘシ

第十一條　前條ニヨリ承認ヲ經タルモノハ使用ノ都度規定ノ使用料ヲ納付スルモノトス但シ共同使用ノ場合ハ之ヲ徴收セサルコトアルヘシ

第十二條　關係者以外ヨリ借用申込アリタル場合ハ移住者ノ使用ニ支障ヲ來サヽル範圍ニ於テ之ヲ承認スルモノトス前條ノ場合ニ於ケル使用料ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條　使用ヲ申込タル者止ムヲ得サル事情ノタメ取消ヲナサントスルトキハ使用前日迄ニ管理者ニ申出ツヘシ若シ前項ノ申出ヲ怠リ他ノ使用ニ妨ケヲ生スル場合ハ使用料ヲ徴收スルコトアルヘシ

第十四條　使用料ヲ納付セサルモノハ之ヲ納付スル迄建造物ノ使用ヲ謝絶スルモノトス

第十五條　使用者カ建造物ヲ毀損シタル場合ハ相當ノ辨償ヲ爲サシム

第十六條　本建造物ノ維持費ハ使用料及上江村維持金ヲ以テ充ツ

第十七條　維持費ニ剩餘金アル場合ハ之ヲ別途積立金トシテ指定ノ個所ニ預金シ將來建造物ノ新增改築又ハ新規設備等ニ充當スルモノトス積立金ノ支出及流用ニ對シテハ總會ノ決議ヲ經上江村長ノ承認ヲ要スルモノトス

第十八條　前條ニ規定シアル積立金ハ宮崎興業銀行ニ預ケ入ルヽモノトス

附　則

本規定ハ建造物竣工ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一期ノ管理者名並委員名次ノ如シ

管理者　原田虎五郎

委員　上江村役場勸業主任

山下正雄

小原進

宮崎縣宮崎郡田野村鶯瀬原移住地（法光坊地區竝瀬尾與市地區）共同建造物使用維持管理規程

第一條　本建造物ハ鶯瀬原開墾地ニ居住スル移住者里脇善吉外十九名ノ共有物ニシテ共有者ニ於テ之ヲ使用シ其ノ維持管理ヲ行フモノトス

第二條　本建造物ハ共有者修養慰安及輯睦ヲ圖リ農村生活並農業經營ノ改善ニ資シ以テ相互ノ福利ヲ增進シ共存共榮ノ實ヲ擧クルカ爲メニ之ヲ使用スルモノトス

第三條　本建造物ノ種類室別等ハ左ノ如シ

種類	室別	室名	使用目的	備考
教會堂	第一號	祈禱所	カトリック教ノ禮拜並說教場	本地區ノ移住者ハ現在全部カトリック教徒ナリ第一號室ノ管理ハ主任司祭ノ指揮ヲ受ク
共同作業場	第二號	協議室事務室	總テノ協議並出荷等ノ事務	集會並協議等ニ使用スル外移住希望者ノ臨時宿泊所ニモ充ツ
	第三號	作業場	生產物ノ加工並荷造其他	

第四條　本建造物ハ共有者ノ使用ニ供スルノ外共有者ニ於テ使用セサルトキハ地區內及附近居住者ノ使用ニ供スルコトヲ得

第五條　本建造物ノ使用維持管理ニ關スル事務ヲ掌ラシムル爲ニ管理者ヲ置キ共有者中ヨリ之ヲ互選スルモノトス

但シ第一號室ノ管理ハ主任司祭トス

第六條　每年春季ニ共有者ノ總會ヲ開キ左ノ事項ヲ決議スルモノトス

但シ總會ハ管理者又ハ五名以上ノ委員名ヲ以テ召集ス

一、經費豫算及決算
二、事業報告
三、共有財產ノ維持管理ニ關スル事項
四、積立金ノ支出及流用ニ關スル事項
五、規程變更

第七條　總會ノ議長ハ管理者之ニ當リ管理者事故アルトキハ第八條ノ委員中ヨリ互選シタル一名代リテ之ニ當ルモノトス

第八條　共有者中ヨリ委員五名ヲ互選シ委員會ヲ組織ス委員會ハ管理者之ヲ召集シ本建造物ノ使用、維持管理ニ關スル重要ナル事項及使用料ノ決定、共有者ニ對スル賦課額ノ決定並總會ニ附議スヘキ事項等ヲ決議ス委員會ノ議長ハ管理者之ニ當ルモノトス

第九條　使用希望者ハ使用三日前迄ニ管理者ニ申込ムヘシ

但シ特ニ急ヲ要スル場合ハ此ノ限リニアラス

第十條　前條ノ申込アリタル場合適當ト認メタルトキハ申込順ニヨリ之ヲ承認スルモノトス但シ使用ノ目的如何ニヨリテハ制限ヲ附シ又ハ申込順ニ據ラスシテ承認スルコトアルヘシ

第十一條　前條ニヨリ承認ヲ經タル者ハ使用ノ都度規定ノ使用料ヲ納付スルモノトス但シ共同使用ノ場合ハ之ヲ徵收セス

第十二條　共有者以外ヨリ借用申込アリタル場合ハ共有者ノ使用ニ支障ヲ來サヽル範圍ニ於テ之ヲ承認スルモノトス前項ノ場合ニ於ケル使用料ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條　使用料ヲ納付セサル者ハ之ヲ納付スル迄建造物ノ使用ヲ謝絕スルモノトス

第十四條　使用者カ建造物ヲ毀損シタル場合ハ事情ニヨリ相當ノ辨償ヲ爲サシムル事アルヘシ

宮崎縣宮崎郡田野村鶯瀬原移住地共同建造物使用維持管理規程

第十五條　本建造物ノ維持費ハ使用料及共有者ノ負擔金ヲ以テ充ツ

第十六條　維持費ニ剩餘金アル場合ハ之ヲ別途積立金トシテ保管ス積立金ノ支出及流用ニ對シテハ總會ノ決議ヲ經ルヲ要ス

宮崎縣西諸縣郡飯野村川鶴開墾移住地共同建造物使用維持管理規程

第一條　川鶴開墾移住地共同建造物ハ川鶴耕地整理組合所有ニシテ移住者ニ於テ之ヲ使用シ其ノ維持管理ヲ行フモノトス

第二條　共同建造物ハ移住者ノ修養慰安及輯睦ヲ圖リ農村生活並農業經營ノ改善ニ資シ以テ相互ノ福利ヲ增進シ共存共榮ノ實擧クルカタメニ之ヲ利用スルモノトス

第三條　建造物ノ種類室別等ハ左ノ如シ

種類	室別	室名	使用目的	備考
集會場	第一號	集會場	種々ノ集會並修養室吉凶禍福ノ祭場其他	
同	第二號	管理室	共同建造物ノ管理人宿所其他	
同	第三號	共同浴場	移住者ノ臨時宿泊所	
共同作業場	第四號	共同作業場	共同浴場	
同	第五號	精米場	生産物ノ加工副業作業場荷造場其他	
			共同精米所	精米、精麥、製粉等

第四條　本建造物ノ使用維持管理ニ關スル事務ハ組合長之ヲ掌ル

第五條　每年秋季ニ移住者ノ總會ヲ開キ左ノ事項ヲ決議スルモノトス

但シ總會ハ組合長又ハ全部ノ委員名ヲ以テ召集ス

一、經費豫算及決算

二、事業報告

三、共有財産ノ維持管理ニ關スル事項

四、積立金ノ支出及流用ニ關スル事項

五、規定變更

第六條　總會ノ議長ハ組合長之ニ當リ組合長事故アルトキハ第七條ノ委員中ヨリ互選シタル一名代リテ之ニ當ルモノトス

第七條　組合長ハ移住者中ヨリ委員三名ヲ指名シ委員會ヲ組織セシム

委員會ハ組合長之ヲ召集シ本建造物ノ使用維持管理ニ關スル重要ナル事項並ニ總會ニ附議スヘキ事項等ヲ決議ス委員會ノ議長ハ組合長之ニ當ルモノトス

第八條　使用希望者ハ使用五日前迄ニ組合長ニ申込ムヘシ

但シ特ニ急ヲ要スル場合ハ此ノ限リニアラス

第九條　組合長ヨリ使用ノ承認ヲ經タル者ハ使用ノ都度規定ノ使用料ヲ納付スルモノトス

但シ共同使用ノ場合ハ之ヲ徵收セス

第十條　使用料ヲ納付セサル者ハ之ヲ納付スル迄建造物ノ使用ヲ謝絕スルモノトス

第十一條　使用者カ建造物ヲ毀損シタル場合ハ事情ニヨリ相當ノ辨償ヲ爲サシムル事アルヘシ

第十二條　本建造物ノ維持費ハ使用料及共有者ノ負擔金ヲ以テ充ツ

宮崎縣北諸縣郡高崎村小林由太郎一人施行地區共同建造物使用維持管理規程

宮崎縣北諸縣郡高崎村小林由太郎一人施行地區共同建造物使用維持管理規程　二一一

第一條　高崎村小林由太郎地區共同建造物ハ小林由太郎之ヲ建設所有シ移住者ノ使用ニ供シ其ノ維持管理ヲ行フモノトス

第二條　本建造物ハ移住者ノ修養慰安及輯睦ヲ圖リ農村生活並農業經營ノ改善ニ資シ以テ相互ノ福利ヲ增進シ共存共榮ノ實ヲ擧クルカタメ之ヲ使用スルモノトス

第三條　本建造物ノ使用維持管理ニ關スル事務ハ小林由太郎之ヲ掌ル

第四條　每年秋季ニ移住者ノ總會ヲ開キ左ノ事項ヲ決議スルモノトス

但シ總會ハ小林由太郎又ハ全部委員名ヲ以テ召集ス

一、經費豫算及決算

二、事業報告

三、使用ニ關スル事項

四、規定又ハ細則等設定變更等ノ事項諮問

第五條　總會ノ議長ハ小林由太郎之ニ當ルモノトス

第六條　小林由太郎ハ移住者ヨリ委員三名ヲ指命シ委員會ヲ組織セシム委員會ハ小林由太郎之ヲ召集シ本建造物ノ使用維持管理ニ關スル重要ナル事項並總會ニ附議スヘキ事項等ヲ決議ス

第七條　使用者カ建造物ヲ毀損シタル場合ハ事情ニヨリ相當ノ辨償ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第八條　本建造物ノ維持費ハ使用料及建設者ノ負擔金ヲ以テ之ニ充ツ

鹿兒島縣肝屬郡鹿屋町笠之原移住招致組合規程

第一條　本組合ハ笠之原耕地整理組合開墾地ヲ利用スル爲メ移住者ノ招致ヲ目的トス

第二條　本組合ハ笠之原移住招致組合ト稱シ地區內地主ヲ以テ組織シ事務所ヲ笠之原耕地整理組合事務所內ニ置ク

第三條　本組合ニ組合長一名副長二名評議員十五名組合會議員四十名ヲ置ク役職員ハ名譽職トシ組合長副長及評議員ハ笠之原耕地整理組合ノ組合長副長及評議員ニ囑託スルモノトス組合會議員ハ笠之原耕地整理組合會議員ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　本組合ノ募集スル移住者ハ五百戶トシ之ヲ十ケ年ニ區分シテ每年其ノ數ヲ定メ移住者希望ノ指定地ニ移住セシム但シ指定地ニアラサルモ水道幹線沿線ニ移住セントスルモノアル時ハ評議員會決議ノ上移住セシムルコトアルヘシ

第五條　移住希望者ハ左ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス

一、素行正シク永住ノ決心アルモノ

二、身體强壯ニシテ農業ニ從事スル家族二名以上アルモノ

三、現住地ニ於テ信用アリ且ツ前科ナキモノ

第六條　移住者ニシテ土地ノ讓渡ヲ受ケントスルモノニ對シテハ評議員會ノ決議ヲ經テ時價ニテ土地ヲ賣渡スモノトス

第七條　小作地ハ一戶平均二町步以內トス　但シ勞働者ノ多少ニ依リ增減スルコトアルヘシ

第八條　地上權永小作權ノ設定ハ地主ト協定ノ上其ノ期限ヲ參拾年以內トシ土地ノ賃貸借ハ隣地ノ狀況及公課ノ高低等ニ依リ必要ニ應シ更新スルモノトス

第九條　小作料ノ納期ハ六月十二月ノ二期トス

第十條　希望者ニハ自作農創設資金及小額資金ノ借入ヲ斡旋シ家畜農具肥料代トシテ經營費ノ半額ニ相當スル資金ヲ融通スルコトアルヘシ

第十一條　他町村ヨリ移住シ來ラントスルモノハ戶籍謄本及其ノ市町村長ノ身元證明書ヲ添ヘ別紙申込書ヲ本組合ニ差出スヘシ

第十二條　前條ノ申込アリタルトキハ各地主ニ紹介シ採否ヲ決ス

第十三條　移住者ニ採用セラレタルモノハ別紙契約書ヲ提出セシムルモノトス

第十四條　移住者ハ耕地整理地區内道路ノ修繕ニ勞役ヲ要スルトキハ之ニ服スルモノトス

第十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ契約期間中ト雖モ解約シテ退去セシムルコトアルヘシ

一、組合ノ指圖ニ從ハス犯罪其ノ他農業經營ニ害アルモノ

二、小作地ヲ地主ノ許諾ナク他ニ轉貸シタルモノ

三、小作料ヲ延滯シタルトキ

四、貸付地ヲ荒廢シ亦秩序紊亂ノ行爲アリタルトキ

前項ノ處分ヲ受ケタルモノハ不履行ノ義務ヲ果サシメ既得ノ權利ヲ沒收スルモノトス

第十六條　移住ヲ容易ナラシムル爲メ豫算ノ範圍内ニテ指定ノ場所ニ適當ノ家屋農舍及共同建物等ヲ建設スルモノトス

第十七條　前條ノ家屋及宅地ハ契約者ニ拾ケ年以内ノ年賦ニテ貸付シ其ノ間ノ修繕ハ居住者ノ負擔トス

第十八條　移住者ニシテ契約期間連續シテ小作料ヲ滯リナク納付シ且ツ前條ノ年賦金ヲ完納セシモノニハ其ノ宅地及家屋ヲ讓渡シスルモノトス

第十九條　本組合ノ事務ハ便宜笠之原耕地整理組合ニ囑託シ經費ハ地主ノ負擔トス

第二十條　經費負擔ハ面積割トス

第二十一條　本組合ハ笠之原耕地整理組合ト同時ニ決算ノ報告會ヲナシ且ツ同樣豫算ヲ編成シテ事務ヲ執行ス

第二十二條　本規約ハ組合會ノ議決ヲ經ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

第二十三條　大規模ノ農業經營者又ハ特別ノ研究者ニハ本規約ヲ適用セス

移住申込書

私儀今般御地區内移住民トシテ御指定ノ場所へ移住致度候ニ付御承認相成度別紙戸籍謄本及身元證明書相添へ保證人連署ヲ以テ此段及申込候也

年　月　日

笠之原移住招致組合長　殿

本籍地
現住所
申込人　氏　名　㊞
年月日生

從事希望

一、普通農作家族　人
一、養蠶同
一、畜産同
一、製茶同

住所
保證人　氏　名　㊞
年月日生

鹿兒島縣肝屬郡鹿屋町笠之原移住招致組合規程

一、果　樹　同
一、其　ノ　他　同

契　約　書

私儀今般貴組合ノ移住民タルコトヲ承認相受候ニ付テハ左ノ件契約致候

一、移住民トシテ申込書記入ノ家族同伴移住シ農業經營ニ從事可致候事
二、貴組合御指定期間内ニ必ス移住可仕候事
三、借地其ノ他ニ付テハ別ニ地主家主ニ對シ借地證等必要ノ證書ヲ差入レ貴組合立會ノ下ニ引渡相受可申候事
四、貴組合ノ規約ハ勿論其ノ他一切御指圖ヲ遵守シ違背致間敷候事
五、移住契約ヨリ生スル一切ノ義務履行ニ就テハ貴組合ニ對シ保證人ハ連帶責任ヲ以テ負擔可致候事

右契約書仍如件

年　月　日

住所
當事者　氏　名　㊞
住所
保證人　氏　名　㊞
住所
保證人　氏　名　㊞

笠之原移住招致組合長　殿

沖繩縣國頭郡國頭村奥間開墾地移住家屋ノ貸與及保護規程

第一條　移住者ハ身體强壯專心農業ニ從事シ當地ニ永住スル意志强固ナルモノニ限ル
第二條　各移住者ハ大部分ヲ助成地區内ニ於テ耕作スルモノトス
第三條　移住者ノ契約年限ヲ拾ヶ年以上トス
第四條　移住戸主ハ年齡二十才以上ノ男子ニシテ兵役ノ關係ナキモノ又ハ現役ヲ終リ一家ノ可能勞働者ナルコトヲ要ス
第五條　移住者ハ施行者ノ諸規定ヲ守ルハ勿論指導指示ニ從フモノトス
第六條　移住者ニハ施行者ノ規定ニ依リ仕度料渡航費住宅農具苗代種苗代牛馬及肥料等ノ購入資金ヲ貸與ス
第七條　移住者ハ施行者ノ承諾ナクシテ農耕以外ノ事業ヲ兼ヌル事ヲ許サス
第八條　移住者ニ決定シタルモノハ施行者ノ規定ニ背カサル誓約書ヲ提出スルヲ要ス
第九條　施行者ノ建設シタル移住家屋ヲ移住者ニ賣渡セントスル時ハ補助金ヲ控除シタル殘額ニ依テ決定ス
第十條　貸與ノ場合モ又同シ

沖繩縣八重山郡石垣町字登野城嵩田開墾地移民規程

第一條　移民ハ嘗テ刑罰ヲ受ケタルコトナク質朴勤勉ナルモノニシテ身體强壯專心農業ニ從事シ八重山ニ永住スル意志强固ナルモノニ限ル
第二條　移民ハ助成地區内ニ居住シ茶樹栽培ノ目的ヲ以テ農耕ニ從事スルモノトス

沖繩縣八重山郡石垣町字登野城嵩田開墾地移民規程

第三條　移民ノ契約年限ヲ最低十ヶ年トス但シ本人ノ希望ニ依リ期限後繼續セシムルコトヲ得

第四條　移民戸主ハ年齡二十歳以上ノ男子ニシテ兵役關係ナキ者又ハ現役ヲ終リ一戸ノ可能勞働者ナルコトヲ要ス

第五條　移民ハ呼吸器病、精神病、黴毒、癩病ノ如キ傳染病又ハ遺傳性ノ疾病及其他人ニ嫌忌セラルヘキ疾患ナキモノニ限ル

第六條　移民ハ施行者ノ諸規程ヲ守ルハ勿論指導員ノ指示ニ從フモノトス

第七條　移民ニハ施行者ノ規程ニ依リ仕度料渡航費住宅農具種苗肥料等ヲ貸與ス

第八條　移民ニハ需用品購入及マラリア豫防ニ關シ特別ノ便宜ヲ與フルモノトス

第九條　移民ハ施行者ノ承諾ナクシテ農耕以外ノ事業ヲ兼ヌル事ヲ得サルモノトス

第十條　移民ノ携帶スヘキ物品ハ左ノ通リトス

但シ本人ニ於テ必要アルモノハ此ノ限リニ非ラス

家具、蚊帳、鎌、鍬、鉈、蓑、笠

第十一條　移民ハ移住者人名ヲ列記シタル移住者希望書ニ戸籍謄本ヲ添付シテ施行委員長ニ差出スヘシ

移住申込ニ對シテハ施行委員ニ於テ相當調査ノ上採否ヲ決定通知ス

第十二條　施行委員ハ移住申込者ノ體格檢査ヲ行ヒ合格セシ者ニ限リ採用ス

第十三條　移住ニ決定シタル場合ハ本規程ニ背カサル誓約書ヲ提出スルヲ要ス

本規程ニ基キ當田開墾地移民保護內規アリ左ノ如シ

一、集會場、住宅ノ建築費總額ハ施行者ニ於テ之ヲ負擔シ移民ニ對シ無償ニテ使用セシムルモノトス

二、施行者ハ「マラリア」豫防ニ關シテ每週二回豫防藥ヲ服用シ且ツ風土病撲滅ニ關スル施設ヲ講スルコト

八重山郡大濱村永小作權設定契約書

地　主　大濱村

右代表者　村長　嘉平善幸

地辻野善恂外十一名ヲ乙トシ左ノ契約ヲ締結ス

第一條　甲ハ其所有ニ係ル左ニ揭クル土地ニ付乙ニ對シ永小作權ヲ設定ス

八重山郡大濱村字平得山田一千七百十七番ノ二

一、牧　場　貳拾貳町壹反拾貳歩

此地價貳拾六圓五拾貳錢也

八重山郡大濱村字平得百四十四番地

永小作人　辻野善恂　外十一名

一、牧　場　參町四段四畝拾歩

此地價　四圓拾參錢也

八重山郡大濱村字眞榮里川良原一千九十三番ノ八

一、牧　場　五町四段參畝拾歩

此地價六圓五拾貳錢也

八重山郡大濱村字眞榮里川良原一千九十三番ノ九

右當事者間ニ於テ永小作權設定ノ爲メ地主大濱村代表者村長嘉平善幸ヲ甲トシ永小作人八重山郡大濱村字平得百四十四番地辻野善恂外十一名ヲ乙トシ左ノ契約ヲ締結ス

第二條　乙ハ前條契約ノ土地ニ對シ耕地整理ヲ施行シ諸作物ノ栽培ヲ爲スモノトス

第三條　乙ハ此ノ契約ニ因リ取得シタル永小作權ヲ他人ニ讓渡シ又ハ轉貸、質入、書入等ヲ爲ス事ヲ得サルモノトス

但甲ノ承諾ヲ得タル時ハ此限ニアラス

第四條　乙ハ本契約ノ日ヨリ壹ヶ年以內ニ着手シ着手ノ日ヨリ四ヶ年以內ニ事業ヲ完成スルモノトス

第五條　乙ハ小作料トシテ壹ヶ年壹町歩ニ付金貳圓五拾錢ノ割ヲ以テ甲ニ支拂フモノトス

但小作料ハ其年度分ヲ二分シ第壹期分ヲ四月末日限リ第貳期分ヲ十月末日限リ大濱村收入役ニ納付スルモノトス借受ケ並ニ返還ノ年ハ月割ヲ以テ計算ス

第六條　小作料ハ四ヶ年以內ハ改正スル事ヲ得ス

但四年後ハ豫算ノ範圍內ニ於テ更正スル事ヲ得

第七條　乙ニ於テ小作料ヲ完納セス又ハ本契納ノ事項ヲ遵守セサル時ハ甲ハ永小作權ノ消滅ヲ請求シテ本契約ヲ解除シ且ツ之ニ因リ生シタル損害賠償ヲ請求スル事ヲ得

第八條　小作ノ土地ハ公用又ハ公共ノ用ノ爲メ必要アル場合ハ之ヲ返還セシメ又ハ制限スル事ヲ得

此場合ニ於テ乙ハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　乙ニ於テ契約地ヲ返還スル時ハ地上物件ハ甲ノ指定スル期間內ニ之ヲ收去スルモノトス

若シ乙ニ於テ之ヲ收去セサル時ハ甲ハ乙ニ代リテ之ヲ取リ除キ因テ生シタル損害賠償ヲ請求スル事ヲ得

第十條　此永小作權ノ存續期間ハ此契約ノ日ヨリ起算シテ滿五拾年トス

第十一條　前各條ノ外乙ハ本村基本財產管理規則及本村村稅延滯金徵收規程ヲ遵守スルモノトス

附則

大正十五年一月二十六日締結ノ土地貸借契約書ハ之ヲ解除シ本契約ニ更新スルモノトス

右契約ヲ證スル爲メ本證書ヲ作リ各署名捺印シ各一通ヲ保存ス

沖繩縣島尻郡南大東島開墾地移住規程

一、小作者ハ專心甘蔗農業ニ從事シ會社ノ統治上制定シタル諸規則及規約ヲ嚴守シ意志强固ナルモノニ限ル

二、小作地ノ貸與ヲ受ケタル小作人ハ甘蔗耕作上會社ノ指示ニ反セス小作地ヲ荒廢セシムルコトナク本島ノ秩序ヲ紊ス行爲ナキ場合ニ於テハ會社ハ小作人ノ子々孫々ニ至ル迄小作地ノ契約繼續ヲナスコトヲ承認ス

三、小作戶主ハ年齡二十五歲以上ニシテ一戶ノ可能勞働者ナルコトヲ要ス

四、會社ハ小作希望ノ願出アリタルトキハ體格檢查ヲ施行シ合格シ移住許可決定シタル場合ハ移住家屋ヲ貸與シ本規程ニ背カサル誓約書ヲ會社ニ提出スルモノトス

五、小作人ニ合格シ移住許可決定サシタルトキハ小作人ハ異議ナク之ニ從フモノトス

六、會社ハ事業經營上及公共上必要ト認メ相當替地ヲ指定サシタルトキハ小作人ハ異議ナク之ニ從フモノトス

七、貸與セラレタル小作地中十分ノ一迄ノ面積ニ於テ甘藷穀物蔬菜等ノ耕作ヲ許可ス此場合其部分ニ限リ小作料ヲ徵收セス

八、小作人ハ前項以外ノ小作地ニ付テハ作物ノ種類ノ撰定耕耘肥培ノ方法等總テ會社ノ指圖ニ從フ事

九、小作料ハ會社カ小作人ヨリ買收ノ甘蔗ノ十分ノ七ヲ小作人ノ所得トシ十分ノ三ヲ小作料トシテ會社ニ納入スルモノトス

一〇、耕作ニ用ユル資金及緊急ノ場合ニ要スル費用ハ會社ニ於テ相當ト認メル範圍內ニ於テ出來得ル限リ貸付ス

一一、種苗ノ改良肥料供給害虫豫防驅除灌漑其他甘蔗農業改善ニ關シ會社ハ適當ト認ムル方法ニ依リ奬勵補助ヲナス

一二、移住家屋ハ無償ニテ貸與シ滿十ヶ年經過シ誠實ニ小作人トシテノ義務ヲ履行シタル者ニ限リ無償支給スルモノトス

一三、貸付中ノ移住家屋ハ毀損セサル樣丁寧ニ住居シ自然ニ破損セシメル以外ノ修繕ハ本人ノ負擔トシ故意ニ毀損スル事ナキ

沖繩縣島尻郡南大東島開墾地移住規程

ヲ要ス

一四、會社ハ實費ヲ以テ日用ノ必需品ヲ供給ス

一五、農事上ノ勞働者ハ會社ニ於テ募集シ小作面積ニ準シ配給スルモノトス

第參編　移住家屋及共同建造物ノ建築例

第一　移住家屋及共同建造物ノ建築注意事項

一、宅地ノ撰定

(一)　宅地ハ可成乾燥地ニ設定スルコト

家屋ヲ建築セントスル場合ニハ先ツ宅地ノ撰定ニ注意ヲ拂ハネハナラヌ、宅地ノ良否ハ建築上ハ勿論保健衛生上カラ觀テモ宅地ハ日當リ良ク相當風通シノヨイ、乾燥地テナケレハナラヌ、適當ノ宅地ヲ得タナラハ敷地ノ部分ニ盛土ヲ爲シ、排水モ良クスル事ハ最モ必要テアルト思フ、宅地ノ撰定上如何ナル土質カ良イカト云フニ、仲々理想通リノ土質ヲ撰フコトハ困難テアル例ヘハ粘土質ノ場所ハ水ノ浸透カ悪イ故特ニ排水ヲ良クセネハ良好ノ敷地ト云フ譯ニ行カヌ、而モ粘土層カ割合ニ薄ク其ノ下方カ砂利層ナレハ申分ナイト思フ。而シ砂利層ハ敷地トシテ良好テアルカ表層カ粗テ下層ニ水ノ浸透不良ナル層カアルト水溜リノ樣ニナツテ宜シクナイ。一般ニ濕氣ノ多イ敷地ヤ粘土質ノ敷地ハ氣溫ヲ低下スルト云フ。

(二)　宅地ハ可成風當リ弱キ地ヲ撰ヒ暴風ノ方向ニハ可成家屋ノ正面ヲ向ケサルコト

開墾地ノ地勢上止ムヲ得ス高臺地又風當リ強キ位置ニ宅地ヲ撰定スル場合、又暴風ノ方向ニ家屋ノ正面ヲ向ハシムル時ハ暴風ノ被害ヲ避クル爲メ防風林又ハ防風堤ノ如キ設備ヲ爲シ暴風ヲ遮斷シタイト思フ。

(三)　良好ナル飲料水ヲ充分得ラレル土地ナルコト

飲料水ノ多少又水質ノ良否ハ日常生活又保健衛生上甚大ノ關係アルヲ以テ宅地撰定ニ當リテハ水質ノ檢査ヲナシテ良好ナル飲料水ヲ充分得易キ土地ナルヲ條件ニスルカヨイ。

二、基　礎　工　事

(一)　敷地ノ地勢及土質ニ應シ地固メ工事ハ相當注意スルコト

第一　移住家屋及共同建造物ノ建築注意事項

敷地ヵ干拓地ヤ埋立地等ノ如ク地層カ軟弱ナル地又寒地ニ於ケル敷地ニテハ夫々地固メ工事ヲ適當ニセネハナラヌ、例ヘハ干拓地ヤ埋立地ナレハ可成固キ地盤マテ掘リ下ケ栗石地形又混凝土或ハ蠟燭石地形ヲ施シ地層軟弱ナレハ常水面以下ニ於テ杭打地形及算盤地形ヲ爲シ寒地ニアリテハ寒氣ニ侵サレナイ程度マテ地盤ヲ掘リ下ケ埋立地等ノ樣ニ地固メ工事ヲ施スカ良イト思フ。

(二) 建物ノ重サハ基礎全體テ荷フ樣ニスルコト

建物大ナル場合ハ側廻リ及間仕切ハ布混凝土ヲ打廻スカ又布石ヲ据付、可成重サハ基礎全體ニテ荷フ樣ニ爲シ建物小ナル場合柱下ノミニ玉石ヲ用フル時ハ可成大ナル平石ヲ据付クルカ良イ。

三、建築材料ノ撰擇

(一) 家屋ノ建築材料ハ可成強靱ナル新材ヲ使用スルコト

古材ノミ又古材ト新材ヲ混用セル建物ハ耐久的テナイカラ可成新材ヲ撰ハネハナラヌ若シ不得止古材ヲ使用スル場合ニハ特ニ構材ノ腐朽ニ注意シ、其ノ更新ヲ怠ラナイ樣ニセネハナラヌ。古材ヲ用ヒ又古材ヲ混用シテ暴風等ノ被害ヲ蒙リタル例ハ非常ニ多イ。コレヲ未然ニ防クタメニハ、古材ノ使用ハ禁セネハナラヌ特ニ柱、梁、桁等ハ新材ヲ使用スルカ良イ。就中國産ノ新材ハ耐久的テアル。

(二) 建物ノ骨組トナル可キ木材ハ充分乾燥シタルモノヲ撰フコト

土臺、柱、梁、桁、胴差、鴨居等ハ木造家屋ノ建築上重要ナル部分テアルカラ、是等ノ組合セ方法ノ適否カ建物ニ及ス影響ハ頗ル大ナルモノテアル、ソシテ立派ナ設計テ綿密ナル組合セヲ爲スモ材木カ乾燥不充分ナル爲メ、後日ニ各部ノ組合セカ弛ミ建物ノ耐久力ヲ著シク削減スルモノテアルカラ、是等ノ重要ナル材料ハ特ニ堅牢ナル乾燥材ヲ撰フコトニ充分注意ヲ拂フコトカ肝要テアル。

四、構　造

(一) 建物狹小建築費少額ナルモノハ概シテ耐久的ナラサルヲ以テ相當構造上ニ留意スルコト

建物狹小建築費少額ナルモノハ一般ニ材料カ良クナイソレニモ拘ハラス往々構造上ノ注意ヲ怠リ勝テ風害等ノ被害率カ非常ニ多イ樣テアル、斯カル建物ハ相當設計ニ注意シ各部材ノ結合ハ綿密ニ施工スルコトカ大切テアル。

(二) 建物ノ床下ハ空氣ノ流通ヲ良クスルコト

床下ハ一般ニ濕リ勝ナルカ爲メ床下ニ接スル總テノ材料カ他ヨリ早ク腐蝕シ蟲害ヲ受ケ易イカラ是ヲ防クニハ床下ハ空氣ノ流通ヲ良クスル事カ必要テアル。

(三) 柱及柱ト横架材トノ取付ノ際柱ヲ毀損セサルコト

主要ナル柱ハ特ニ材質ヲ撰ヒ上下ノ仕口ハ枘ノミニヨラス鎹又込栓ニテ打堅メ、土臺ハ基礎ニ固定セシメ梁、敷桁、胴差其ノ他ノ横架材ノ組合セハ可成金物ニテ締付横架材、取付ノタメ柱ヘ大ナル枘穴ヲ穿チテ柱ヲ毀損セサル樣ニスルノカ最モ必要テアルト思フ。普通木造家屋ハ小屋梁ノ强サニ比シ、柱ノ贏弱ナルモノカ少クナイ。柱ハ小屋梁、床、梁敷桁、胴差等ト共ニ連結セル一架構ヲ爲スモノナレハ主要ノ柱ハ充分堅固ナルモノヲ用フルコトニ注意セネハナラヌ。

(四) 筋違方杖通シ貫ノ締付ハ不備ナキ樣周到ナル注意ヲ拂フコト

建物ノ側廻及間仕切等ハ出來得ル丈土壁又ハ板張等ニスルコトハ耐震又耐風的テアル、最モ合理的ナ構造ハ筋違、方杖、通シ貫ノ締付テアル側壁及間仕切壁ノ外大ナル建物ニアリテハ小屋裏ヤ床ニモ燧梁又水平筋違ヲ用フレハ比較的被害ヲ少クスル事カ出來ルト思フ。取付ハ可成柱其ノ他ヲ損傷シナイ樣組合セ「ボールト」鎹又大釘ニテ締付通シ貫ハ充分楔ニテ飼ヒ堅メ釘打ヲナスカ良イ。

(五) 二階造ノ家屋又屋根ノ高キモノハ風害ヲ受易キヲ以テ耐風的構造トナスコト

第一　移住家屋及共同建造物ノ建築注意事項

二階建ノ柱ハ平家建ニ比シ自ラ強大ノ材質テナケレハナラヌ、ソシテ主要ナル柱ハ是レヲ通シ柱トナスカ良イ。

而シ小屋組ハ餘リ過大ナル材料ヲ用ヒナイテ柱ト小屋梁トハ其ノ組合セカ直接ナルト間接ナルトヲ問ハス、金物ニテ充分固定シ小屋組ノ各部材ハ「ボールト」又鎹ニテ締付屋根材料ハ可成輕クシテ瓦葺ノ場合ハ可成引掛桟瓦ヲ使用シ要所要所ハ銅線ヲ用イ屋根下地ニ緊結シ草葺ハ棟ヤ四隅ノ葺方ニ念ヲ入レテ暴風ニ對シ其ノ飛散ヲ防ク様ニスルカヨイ。

(六) 下家ノアル家ハ割合堅牢ナルヲ以テ下家ヲ可成附設スルコト

建物ヲ立體的ニ高クスルコトハ經費モ嵩ミ耐風又耐震的ニモ不合理テアルカラ平面的ニ建坪ヲ擴ケ押入ヤ物置土間其他天井ノ低キ場所ハ下家トシテ建築スレハ比較的丈夫テアルコトハ例ノ多イコトテアル。

(七) 屋根ハ瓦葺カ比較的耐風的ニシテ草葺、杉皮葺、亞鉛鍍鐵板葺、板葺等ハ被害ヲ受易キヲ以テ耐風的工事ヲ施スコト

瓦葺ハ屋根カ比較的重キタメ暴風ノ瞬間的ニ來ル最大風壓ニ耐ヘ得ルモ草葺、杉皮葺、亞鉛鍍鐵板葺、板葺等ハ屋根輕キタメ、暴風ノ瞬間的ニ來ル最大風壓ニ耐ヘ難ク倒潰セル例カ多イカラ、壁筋違ヤ、通シ貫ハ充分ニ用イ尚屋根材ヲ吹キ剝カレナイ樣ニ工事ヲセネハナラヌ。而シテ屋根ハ其長所短所カアルカラ技術的ノ外衛生、經濟及農業經營方面カラ觀テ一致點ヲ見出スコトカ理想的テアルカ仲々困難ナコトテアル。故ニ開墾地テハ其地方テ得易キ材料ニテ普通農家ノ構造ニ準スレハ先ツ間違ハナイカ瓦ノ如キハ價格低廉テサヘアレハ理想的テアル、然シ寒地テハ良質ノ瓦テナイト凍壞スル憂カアル。

五、工事方法

(八) 雪國ノ家屋ノ屋根ハ軒先ニ雪止ヲ施シ屋根ノ覓ニハ空氣拔ノ設備ヲ爲スコト

雪國ニ於ケル家屋ノ屋根ハ屋上ノ積雪カ積ルカ儘ニ放置スルモ家屋ノ强度ニ支障ヲ來タサヽルノ樣建築ヲ施工スルニハ相當ノ工費カ嵩ミ到底經濟上許サヽルニ付之レカ爲年三回位ハ雪降シヲ爲スタメ屋上作業ニ依リ相當ノ損傷ヲ生シ而シテ軒樋ノ如キハ軒先ノ雪カ凍リ付雪ノ荷重又ハ雪解ノ際ハ雪諸共落下スルカ又大損傷ヲ生スルカ如キハ屢々見受ラル、樣テアリ尚軒先ニ氷ヤ雪カ凍リ付上部雪解ニ際シ軒先ハ水溜リノ樣ニ成ツテ室内ヘ水ノ漏ルコトモ相當起ル樣テアル此等ヲ防クニハ屋根葺工事ハ特ニ注意ヲ爲シ軒先ヘ雪止瓦ヲ相當使用スルカ又適當ノ雪止工事ヲ施サネハナラヌ、而シテ屋根ノ覓ハ空氣拔ノ設備ヲ施シ冬季室内ノ煙其他汚濁セル空氣ノ排除ニ努ネハナラヌ。

(一) 工事ハ可成直營爲シ若シ請負工事ニハ工事監督ヲ嚴密ニスルコト

出資少クテ立派ナ家屋ヲ建築シタイノハ誰シモ望ム所テアル、ソレテ完全ナル家屋ヲ建築セントスルニハ可成直營トスルカヨイ。直營ナレハ工事ヲ急カヌカラ手拔キ仕事ハ起ラナイテ比較的完全ヲ期スル事カ出來ルカ若シ工事ヲ請負ニ附スル時ハ一見工事費カ安價ノ樣テアルモ工事ノ監督ハ仲々困難テ工事ニ色々ト手違ヲ生シ意外ニ增金モ要スル場合モアルカラ、請負ニ附シタル場合ハ特ニ工事ノ監督ヲ嚴密ニセネハ工事カ粗略ニ陷リ易イ例カ多イノテアル。

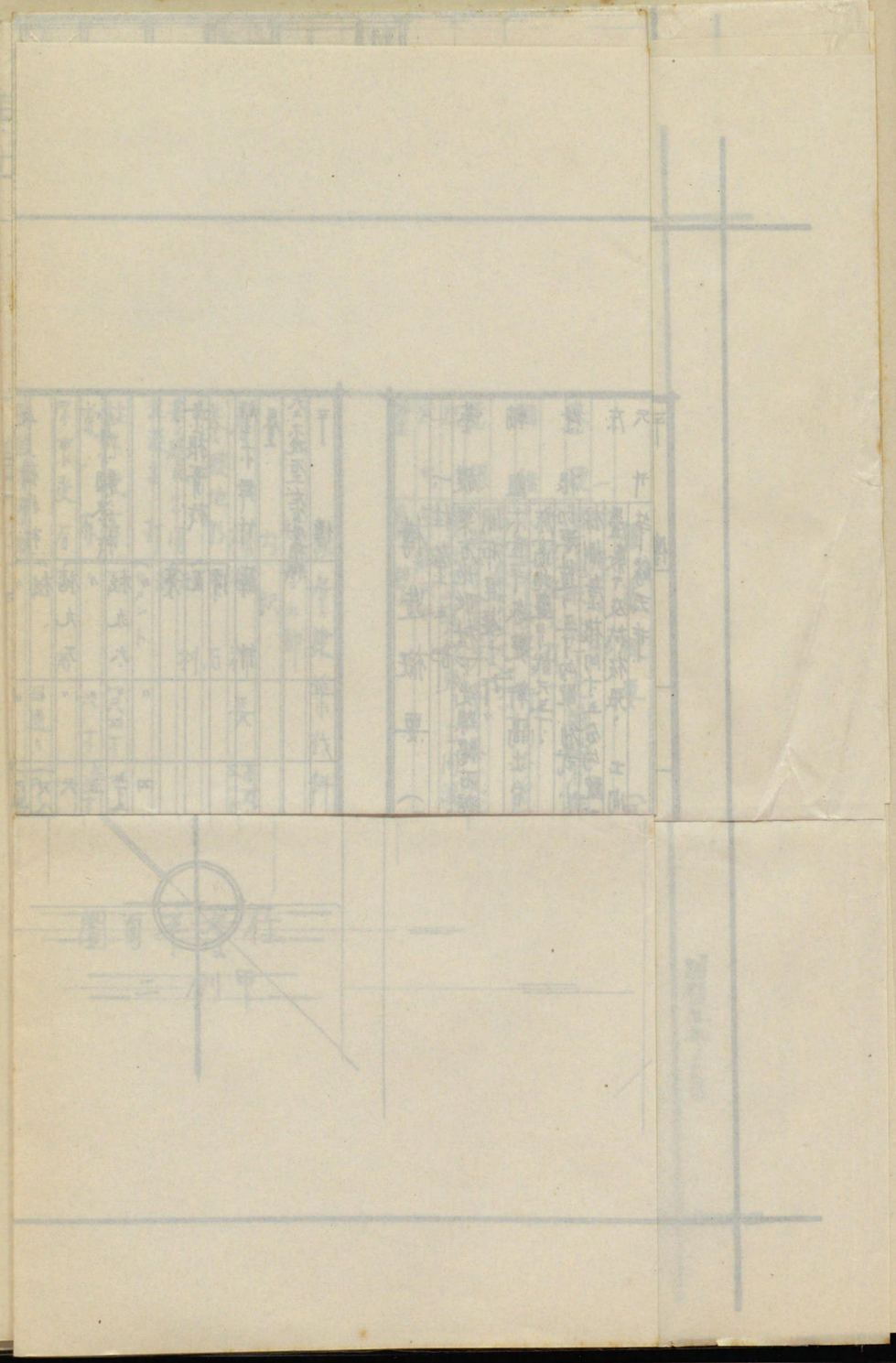
(二) 主要部分ノ工事ハ綿密周到ニシテ工事ヲ粗略ナラシメサルコト

主要部分ノ工事ハ相當ニ注意ヲ爲シ各部取付材ノ取付手順ヲ誤ラス且ツ各結合部ノ締付金物及楔ノ類ハ各部ノ完成ト共ニ再締付ヲ行ヒ不備ナル個所ハ夫々補强及手直等完全ニ施工セネハナラヌ。

(三) 設計及施工ハ技術者ヲシテ充分ニ指導セシムルコト

家屋ハ只雨露ヲ凌クノミテナク貴重ナル人間ノ生命ヤ財產ヲ容ル、建物テアルカラ住ンテ安心カ出來、而シテ氣持ノ良イ家屋テナクテハナラヌ。又農業經營上カラ考慮シテ相當考案ヲ拂ハネハナラヌ、而シテ農村ノ家屋ハ地方的舊慣ノ設計カ慣用サレテ容易ニ改良ヲ加ヘ難イカ幾分改良ヲ加ヘタイト思フ點モ少クナイカト思フノテ建築セントスル人ハ大體ノ計畫カ出來レハ農村住宅ニ對シ學識經驗アル技術者ノ意見ヲ徵シ時代適應ノ家屋ヲ建築スル樣努メネハナラヌ。

60
73



開墾地移住家屋及今附屬家設計圖

本設計ハ移住小農家ヲ標準トシタルモノニシテ宅地面積百五拾坪住屋建坪貳拾坪建築費壹阡圓トセリ。

構造概要（甲例一）

一、住屋之部

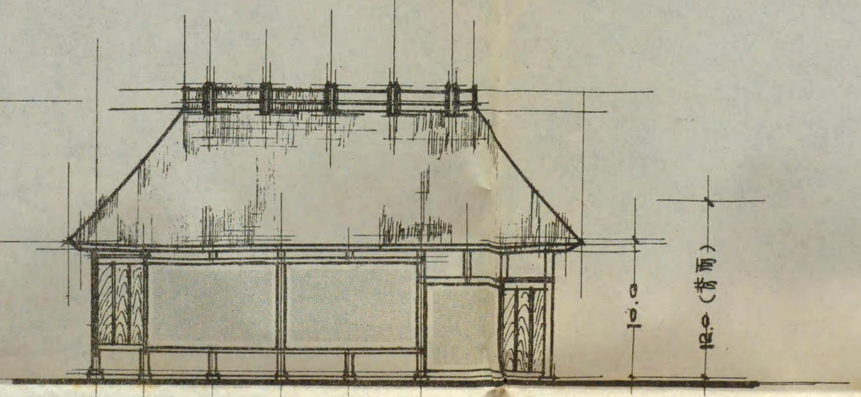
基礎	栗石地形、柱下受蠟燭石据付、床東受玉石据付、土間周囲布混凝土打
軸組	木造平家建ヲ軒高土台下端ヨリ拾尺及ヒ拾貳尺床高地盤ヨリ貳尺五寸
屋根	方形造リ茅葺
床	疊敷キ及ヒ找板張リ
天井	竿縁天井
壁	真壁

家屋建築材料員數調

一、住屋之部

内譯

名称	材料	長	高或ハ厚又ハ口長	横又ハ幅	坪数又ハ員数	摘要
基礎地形	栗石				一立坪	
基礎及土間混凝土打	砂利				一〇〇切	
	砂				七〇〃	
	セメント				四樽	
柱下受石	石	一尺四寸	一尺	一尺	二〇個	
省石	〃	六寸	上五寸角	下六寸角	七〃	
床東受石	玉石		八寸		三九〃	
軸組、小屋組及ヒ造作材	松	四通リ	一尺八寸		二本	
	〃	〃	一尺五寸		一〃	
	杉	〃	一尺八寸		三〃	
	松九六	〃	六寸		一三〃	
小屋組楽材	〃	〃	五寸		三〃	
	杉九六	〃	五寸五分		四〃	
	〃	〃	四寸		九〃	
屋根葺材	茅				二〇〇貫	
	竹				一七〇本	大工 一二〇人
壁木舞竹	篠竹				八〇〇〃	木挽 六〇人
円管					一六五〇	石工 四人
大工木挽石工左官屋根職					二二〇人	左官 三〇人
手傳					一〇〇〃	屋根職 六人



構造概要（甲例二）

一、住屋之部

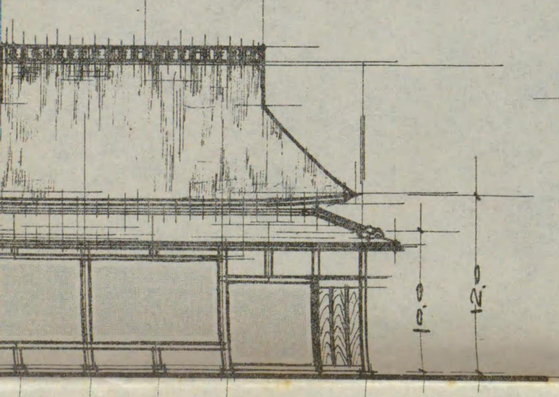
基礎	栗石地形、柱下受蠟燭石据付、床東受玉石据付、土間周囲布混凝土打ケ
軸組	木造平家建ヲ軒高土台下端ヨリ拾貳尺椽側軒高拾尺、床高地盤ヨリ二尺五寸
屋根	入母屋造リ茅葺キ及ヒ瓦葺キ
床	疊敷キ及ヒ找板張リ土間混凝土叩キ
天井	竿縁天井
壁	真壁

家屋建築材料員數調

一、住屋之部

内訳

名称	材料	長	高或ハ厚又ハ口長	横又ハ幅	坪数又ハ員数	摘要
基礎地形	栗石				一立坪	
基礎及土間混凝土打	砂利				一〇〇切	
	砂				七〇〃	
	セメント				四樽	
柱下受石	石	一尺四寸	一尺	一尺	二〇個	
省石	〃	六寸	上五寸角	下六寸角	七〃	



家屋建築費	
番号	一ノ一
建物種類	住屋
間数	五

家屋建築材料員数調（右端、一部欠）

内訳

名称	材料	長	高或ハ厚又ハ口径	横又ハ幅	坪数又ハ員数	摘要
基礎地形	栗石				一立坪	
基礎及土間混凝土打	砂利				一〇〇切	
	砂				七〇〃	
	セメント				四樽	
柱下受石	石	一尺四寸	一尺	一尺	二〇個	
沓石	〃	六寸	上五寸角	下六寸角	七〃	
床束受石	玉石		八寸		三九〃	
軸組、小屋組及造作材	松	四通り	一尺八寸		二本	
	〃	〃	一尺五寸		一〃	
	杉	〃	一尺八寸		三〃	
小屋組梁材	松丸太	〃	六寸		一三〃	
	〃	〃	五寸		三〃	
	杉丸太	〃	五寸五分		四〃	
	〃	〃	四寸		九〃	
屋根葺材	茅				二〇〇貫	
	竹				一七〇本	
壁木舞竹	篠竹				八〇〇〃	
疊					一六・五疊	
大工、木挽、石工、左官、屋根職					二二〇人	大工 一二〇人 木挽 六〇人 石工 四人 左官 三〇人 屋根職 六人
手傳					一〇〇〃	

構造概要（甲例二）

一、住屋之部

基礎　栗石地形柱下受蠟燭石据付、床束受玉石据付土間周圍布混凝土打チ

軸組　木造平家建テ軒高土台下端ヨリ拾貳尺椽側軒高拾尺、床高地盤ヨリ二尺五寸

屋根　入母屋造リ茅葺キ及ビ瓦葺キ

床　疊敷キ及ビ杉板張リ土間混凝土叩キ

天井　竿縁天井

壁　真壁

家屋建築材料員数調

内訳

一、住屋之部

名称	材料	長	高或ハ厚又ハ口径	横又ハ幅	坪数又ハ員数	摘要
基礎地形	栗石				一立坪	
基礎及土間混凝土打	砂利				一〇〇切	
	砂				七〇〃	
	セメント				四樽	
柱下受石	石	一尺四寸	一尺	一尺	二〇個	
沓石	〃	六寸	上五寸角	下六寸角	七〃	
床束受石	玉石		八寸		三九〃	
軸組小屋組及造作材	松	四通り	一尺八寸		二本	
	〃	〃	一尺五寸		一〃	
	杉	〃	一尺八寸		三〃	
小屋組梁材	松丸太	〃	六寸		一三〃	
	〃	〃	五寸		三〃	
	杉丸太	〃	五寸五分		四〃	
	〃	〃	四寸		九〃	
屋根葺材	茅				一八〇貫	
	瓦				一三坪	
	竹				一五〇本	
壁木舞竹	篠竹				八〇〇〃	
疊					一六〃	
大工、木挽、石工、左官、屋根職					二二八人	大工 一二五人 木挽 六〇人 石工 四人 左官 三二人 屋根職 七人
手傳					一〇〇〃	

構造概要（乙例）

一、住屋之部

基礎　栗石地形柱下受蠟燭石据付、床束石玉石据付土間周圍布混凝土打チ

軸組　木造平家建テ軒高土台下端ヨリ拾貳尺、椽側軒高拾尺、床高地盤ヨリ貳尺五寸

屋根　切妻造リ五寸勾配和式小屋組架ケ引掛ケ桟瓦葺キ縁側屋根四寸五分勾配引掛ケ桟瓦葺キ

床　疊敷キ及ビ杉板張リ　土間混凝土叩キ

天井　竿縁天井

壁　真壁

一、附属家之部

基礎　栗石地形柱下受蠟燭石据付便所及ビ土間ノ周圍臺部布混凝土打チ

軸組　木造中貳階建テ軒高土台下端ヨリ拾貳尺、下家軒高地盤ヨリ九尺

屋根　切妻造リ五寸勾配和式小屋組架ケ引掛ケ桟瓦葺キ下家屋根四寸五分勾配引掛ケ桟瓦葺キ

床　土間混凝土叩キ中二階及ビ便所床板張リ

壁　真壁

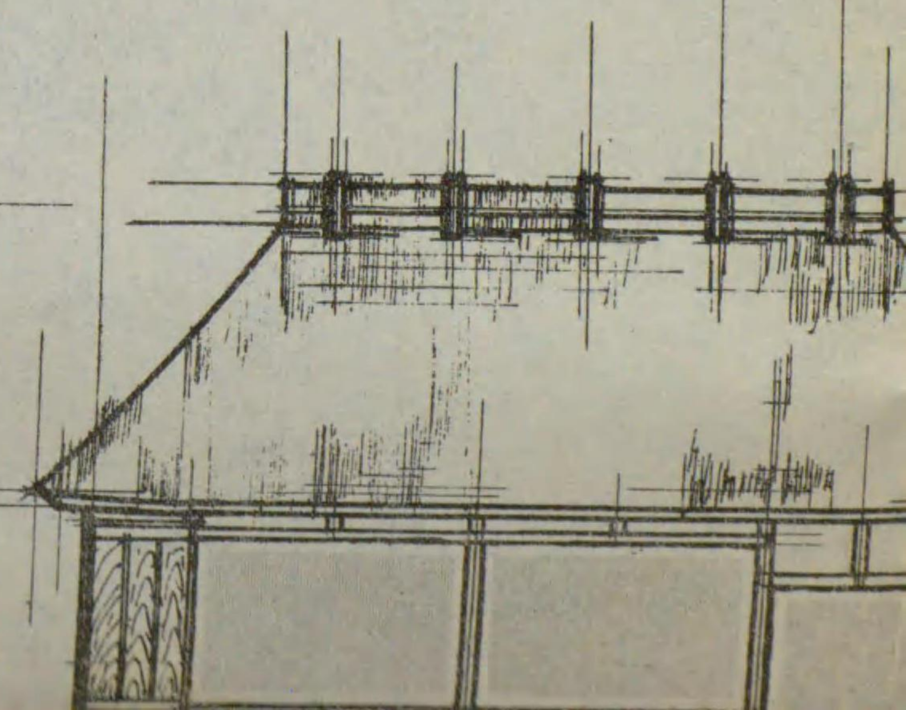
家屋及ビ全附属家建築材料員数調

内訳

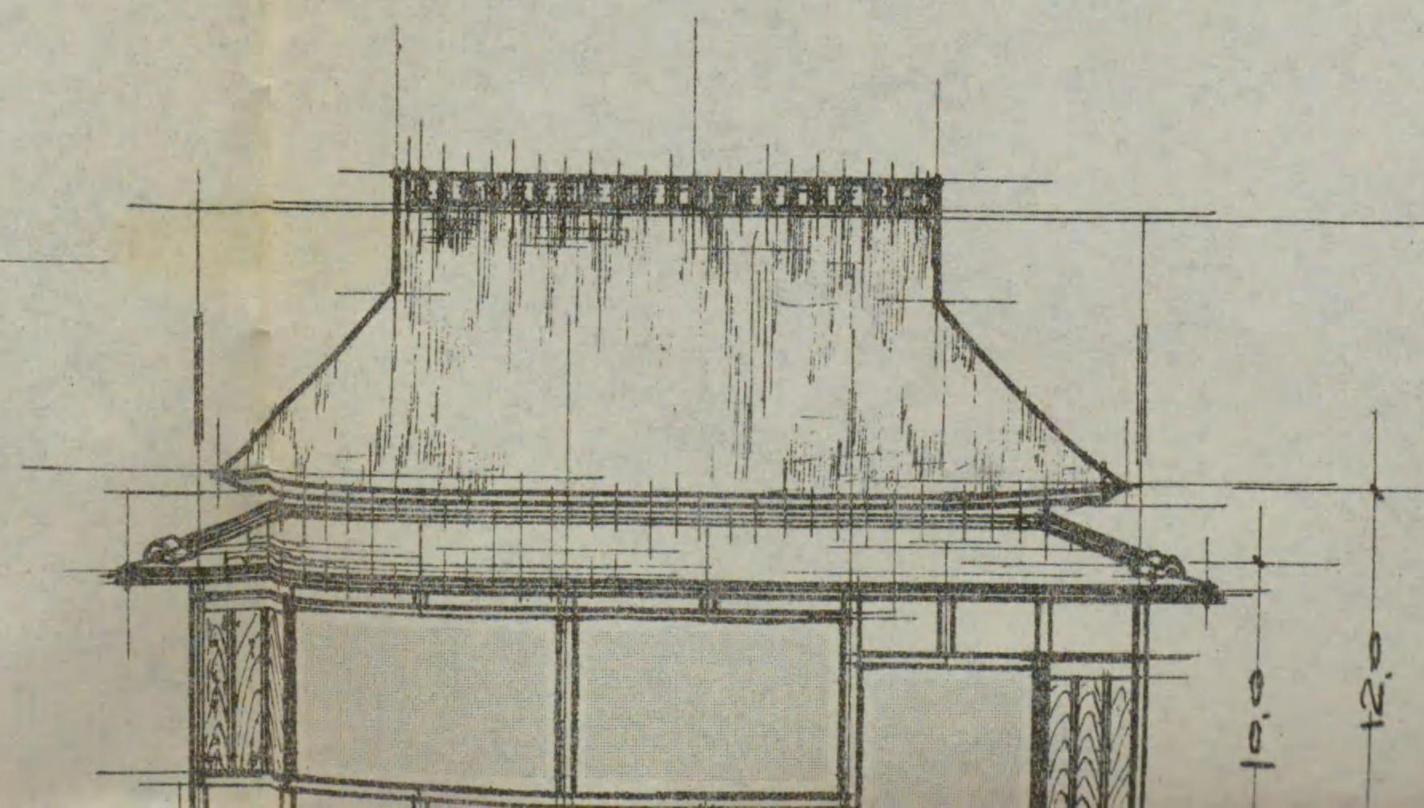
一、住屋之部

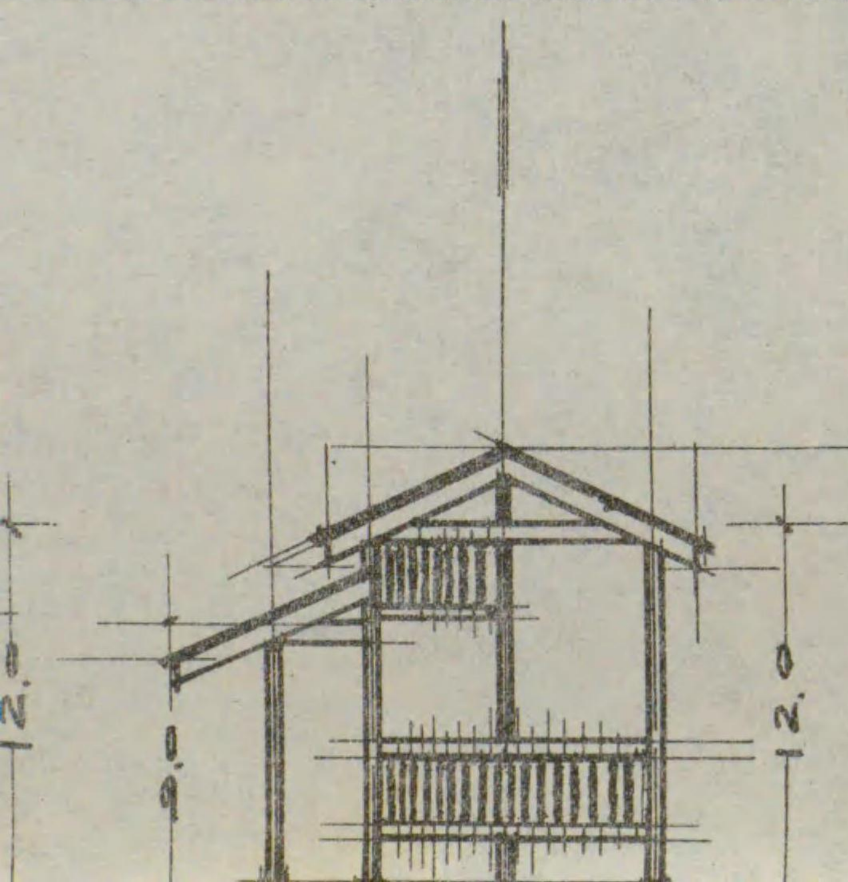
名称	材料	長	高或ハ厚又ハ口径	横又ハ幅	坪数又ハ員数	摘要
基礎地形	栗石				一立坪	
	砂利				一〇〇切	

家屋建築	
番号	一ノ一
建物種類	住屋



家屋建築	
番号	一ノ一
建物種類	住屋





構造概要（乙例）

一、住家之部

基礎　栗石地形、柱下受蠟燭石据付、床束石玉石据付土間周
囲布混凝土打ケ

軸組　木造平家建ニテ軒高土台下端ヨリ拾弐尺、椽側軒高拾尺
床高地盤ヨリ弐尺五寸

屋根　切妻造リ五寸勾配和式小屋組架ケ引掛ケ桟瓦葺キ
椽側屋根四寸五分勾配引掛ケ桟瓦葺キ

床　畳敷キ及杉板張リ　土間混凝土叩キ

天井　竿縁天井

壁　真壁

一、附属家之部

基礎　栗石地形柱下受蠟燭石据付便所及ビ土間ノ周囲臺部
布混凝土打ケ

軸組　木造中弐階建ニテ軒高土台下端ヨリ拾弐尺、下家軒高
地盤ヨリ九尺

屋根　切妻造リ五寸勾配和式小屋組架ケ引掛桟瓦葺キ下
家屋根四寸五分勾配引掛桟瓦葺キ

床　土間混凝土叩キ中二階及ビ便所床板張リ

壁　真壁

家屋及全附属家建築材料員数調

一、住家之部　内訳

名称	材料	長	高或ハ厚又ハ口径	横又ハ幅	坪数又ハ員数	摘要
基礎地形	栗石				一立坪	
基礎及土間混凝土打	砂利				一〇〇切	
	砂				七〇〃	
	セメント				四樽	
柱下受石	石	一尺四寸	一尺	一尺	二〇個	
沓石	〃	六寸	上五寸角	下六寸角	七〃	
床束受石	玉石		八寸		三九〃	
軸組小屋組及造作材	松	川通り	一尺八寸		三本	
	〃	〃	一尺五寸		二〃	
	杉	〃	一尺八寸		二〃	
	〃	〃	一尺五寸		二〃	
	〃	〃	一尺二寸		一〃	
小屋組梁材	松九太	〃	六寸		六〃	
	杉九太	〃	五寸		四〃	
屋根瓦葺	引掛桟瓦				三四百坪	
壁木舞竹	篠竹				八〇〇本	
畳					一六	
大工木挽石工左官屋根職					二四六人	大工 一三〇人、木挽 七〇〃、石工 四〃、左官 三四人、屋根職 八〃
手伝					一一〇〃	

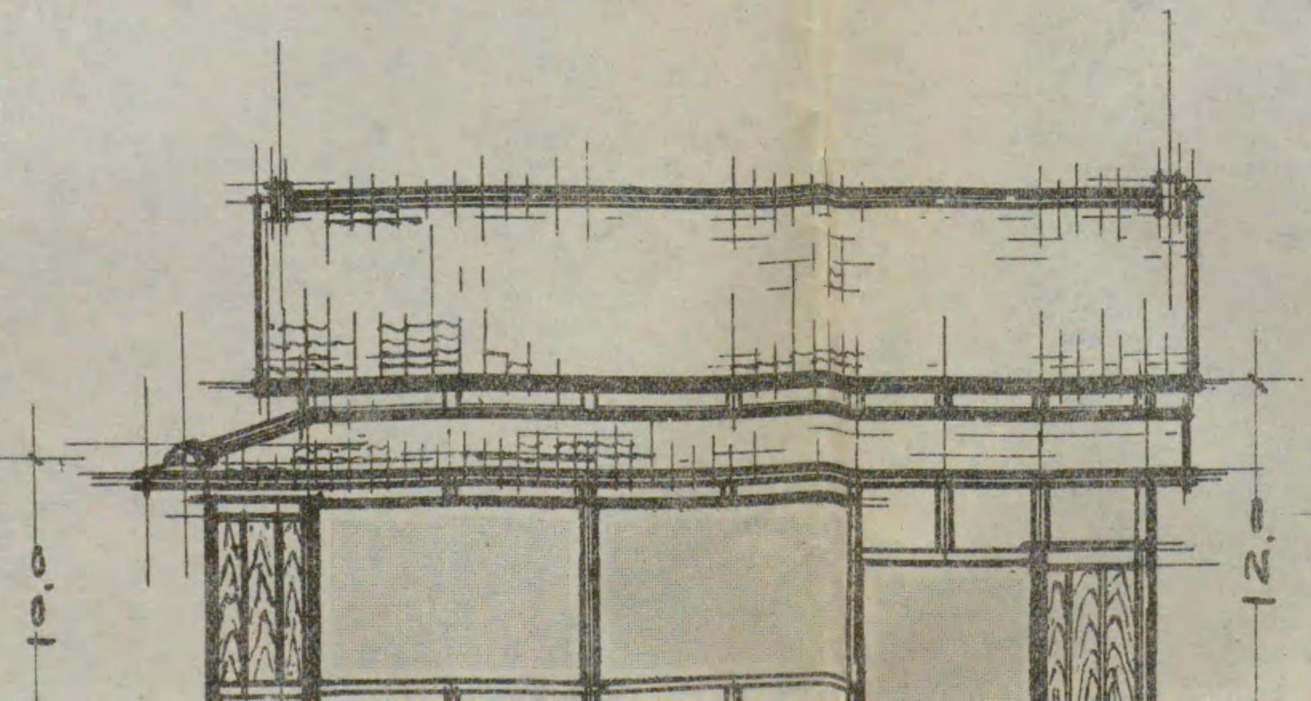
一、附属家之部　内訳

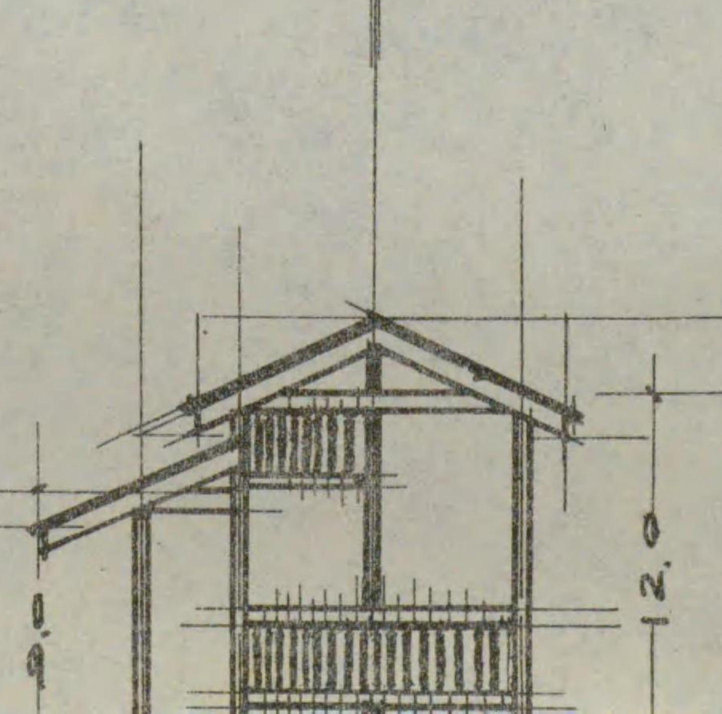
名称	材料	長	高或ハ厚又ハ口径	横又ハ幅	坪数又ハ員数	摘要
基礎地形	栗石				五七切	
基礎及土間混凝土打	砂利				八五〃	
	砂				五〇〃	
	セメント				三樽	
柱下受石	石	一尺	八寸	八寸	一〇個	
軸組小屋組及造作材	松	川通り	一尺六寸		一本	
	〃	〃	一尺五寸		二〃	
	杉	〃	一尺八寸		一〃	
小屋組梁材	松九太	〃	五寸		四〃	
屋根瓦葺	引掛桟瓦				一八百坪	
壁木舞竹	篠竹				三〇〇本	
浴槽	杉製				一個	
大工木挽石工左官屋根職					八九人	大工 四〇人、木挽 三〇〃、石工 二〃、左官 一四〃、屋根職 三〃
手伝					三〇〃	

名称	材料	長	高或ハ厚又ハ口径	横又ハ幅	坪数又ハ員数	摘要
軸組小屋組及構作材	杉				二本	
	〃	〃	一尺五寸		一〃	
	杉	〃	一尺八寸		三〃	
小屋組梁材	松九太	〃	六寸		三〃	
	〃	〃	五寸		三〃	
	杉九太	〃	三寸五分		四〃	
	〃	〃	四寸		九〃	
屋根葺材	茅				一八〇貫	
	瓦				一三坪	
	竹				一五〇本	
壁木舞竹	篠竹				八〇〇〃	
畳					一六	
大工木挽石工左官屋根職					二二八人	大工 一三五人、木挽 六〇人、石工 四人、左官 三二人、屋根職 七人
手伝					一〇〇〃	

家屋及全

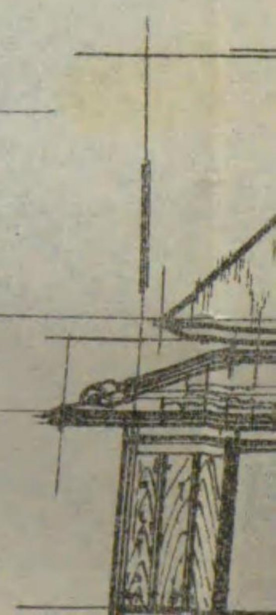
番号	建物種類
一ノ一	住家
一ノ二	納屋
	厩屋
	風呂場
	便所
計	





家屋建

番号	建物種類
一ノ一	住



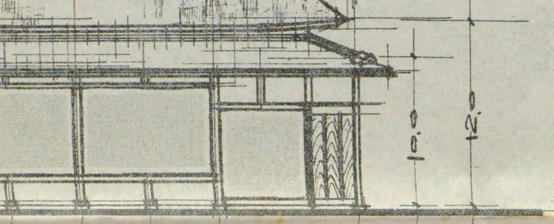
設計圖例

農林省耕地課

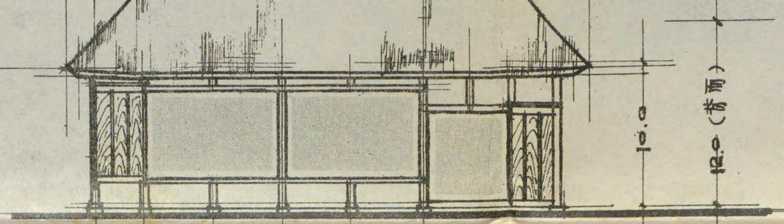
縮尺一百貳拾分之壹

住屋建坪

昭和五年十月

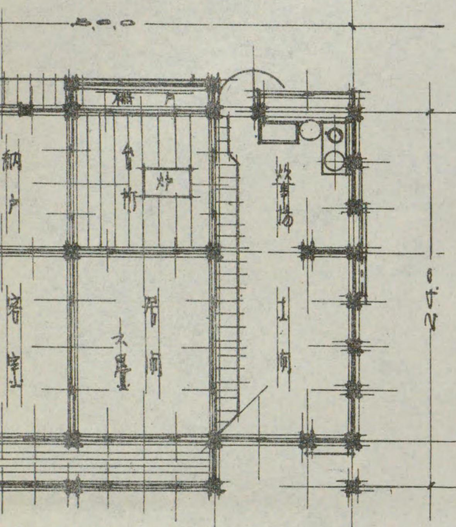


住屋正面圖
入母屋造

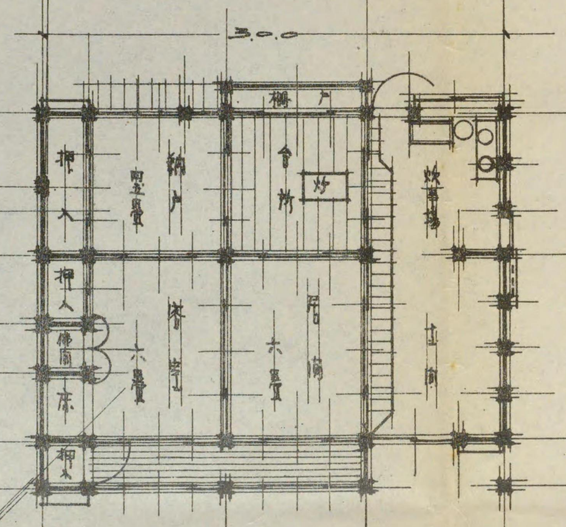


住屋正面圖
方形造

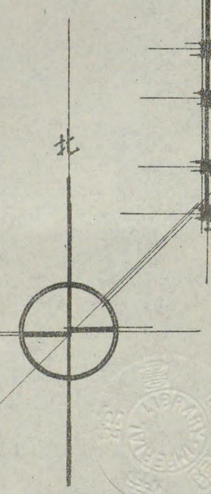
家屋建築費豫算（甲例一）				
号	建物種類	間数	建坪	建築材料	坪當單價	金額
一	住屋	五	二〇坪	木造茅葺	五〇円	一〇〇〇円

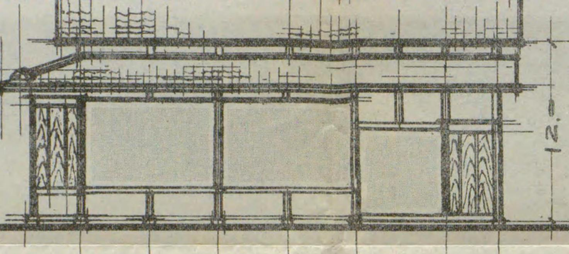


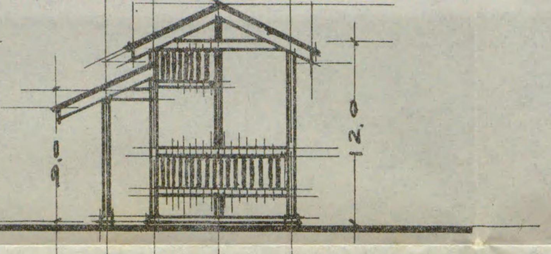
住屋平面圖
甲例二



住屋平面圖
甲例一





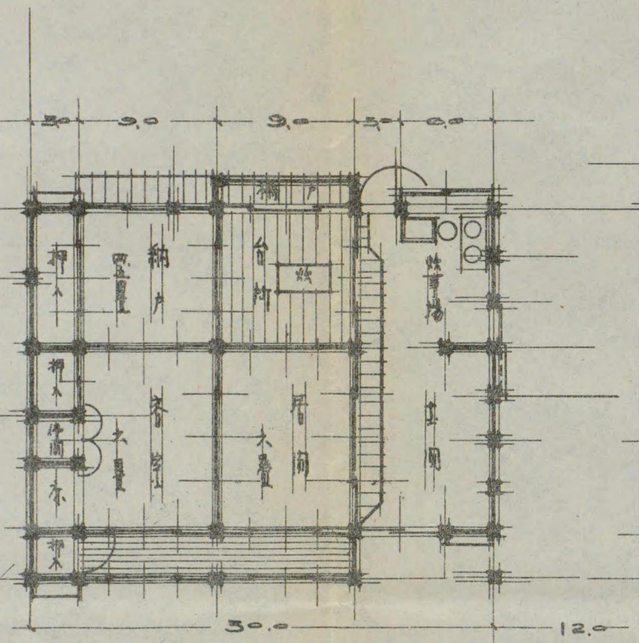


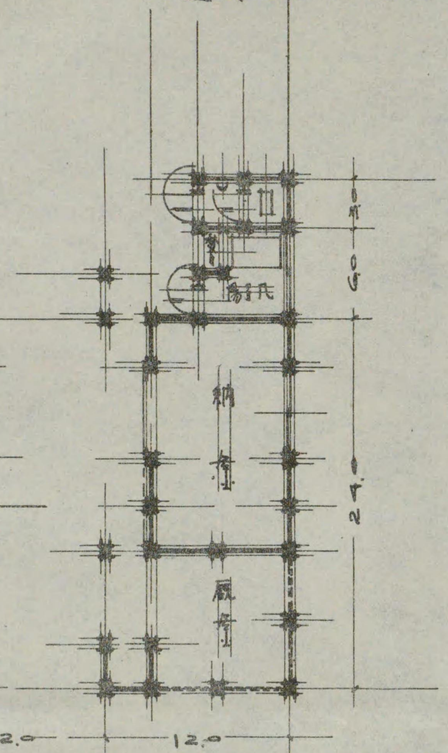
仕舞正面圖

切妻造

今附屬家正面圖

切妻造

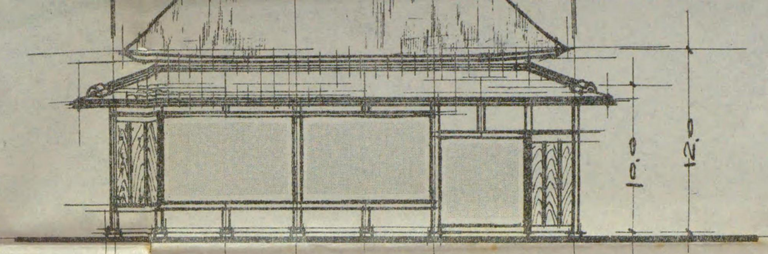




仕舞平面圖

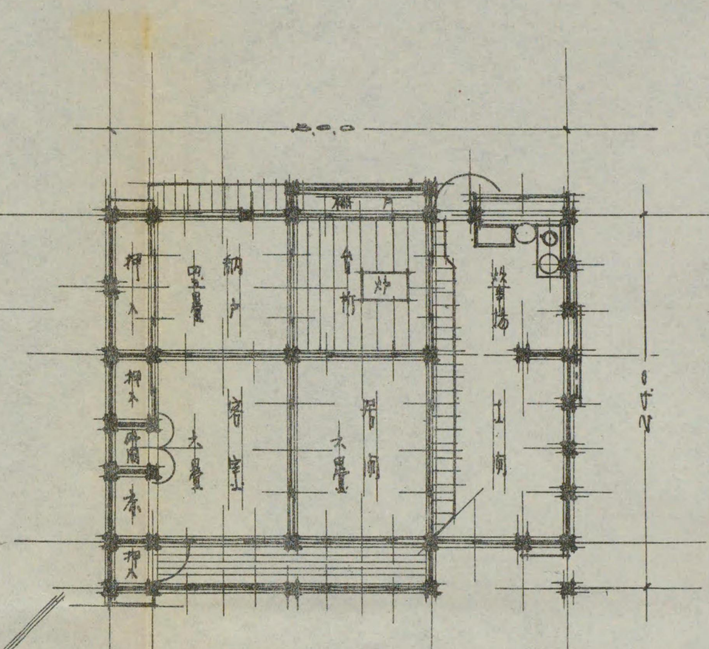
今附屬家平面圖

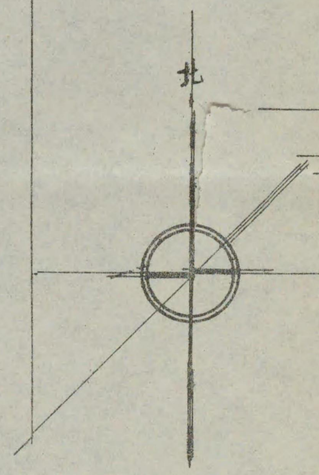
乙例



仕舞正面圖

入母舞造



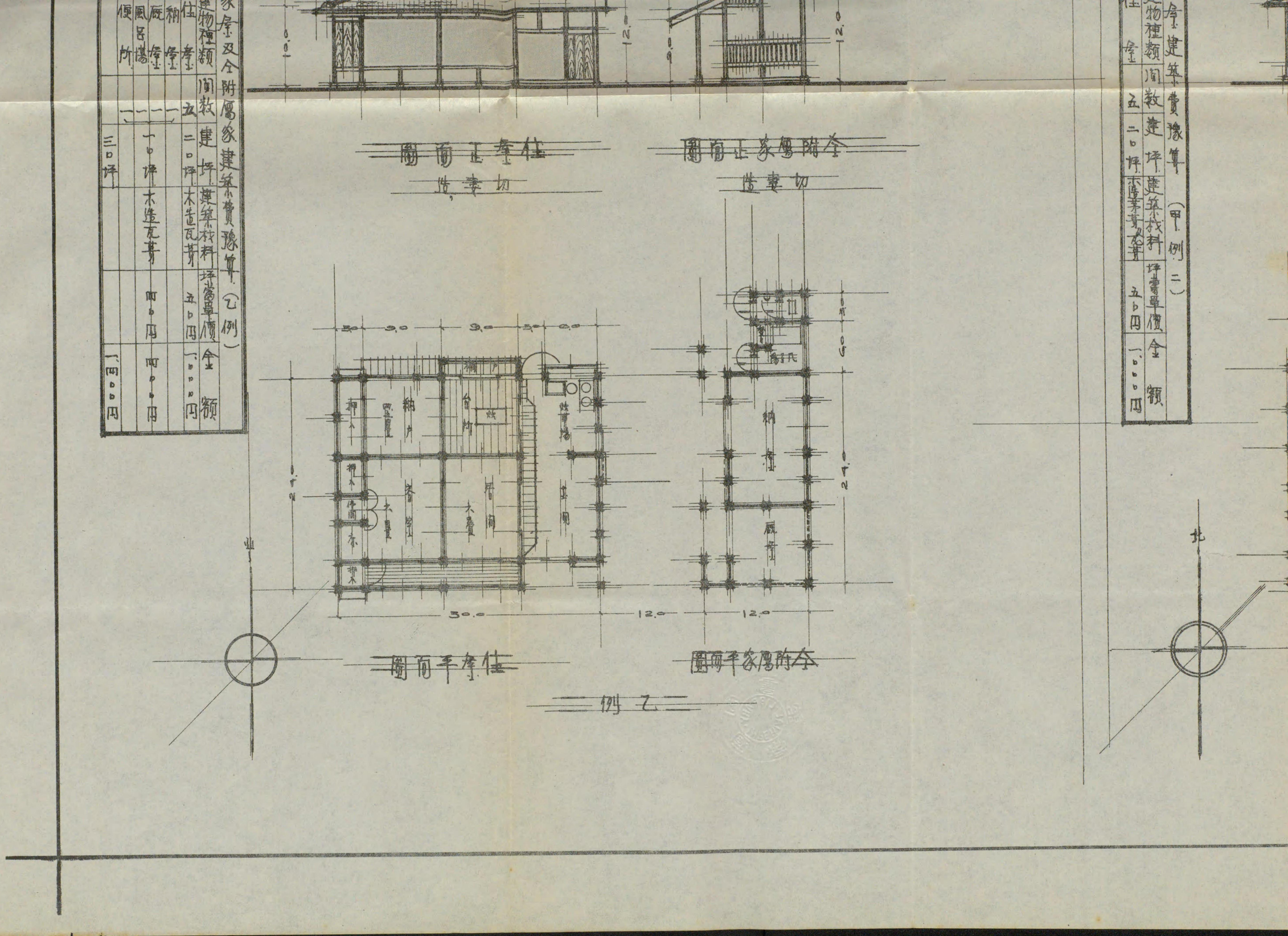


仕舞平面圖

甲例二

家舞建築費豫算（甲例二）				
一号	建物種類	間數	建坪	建築材料
一	仕舞	五	二〇坪	小造茅葺及瓦葺
坪當單價	金額			
五〇円	一,〇〇〇円			

一	仕舞	五	二〇坪	小造茅葺
五〇円	一,〇〇〇円			



例乙

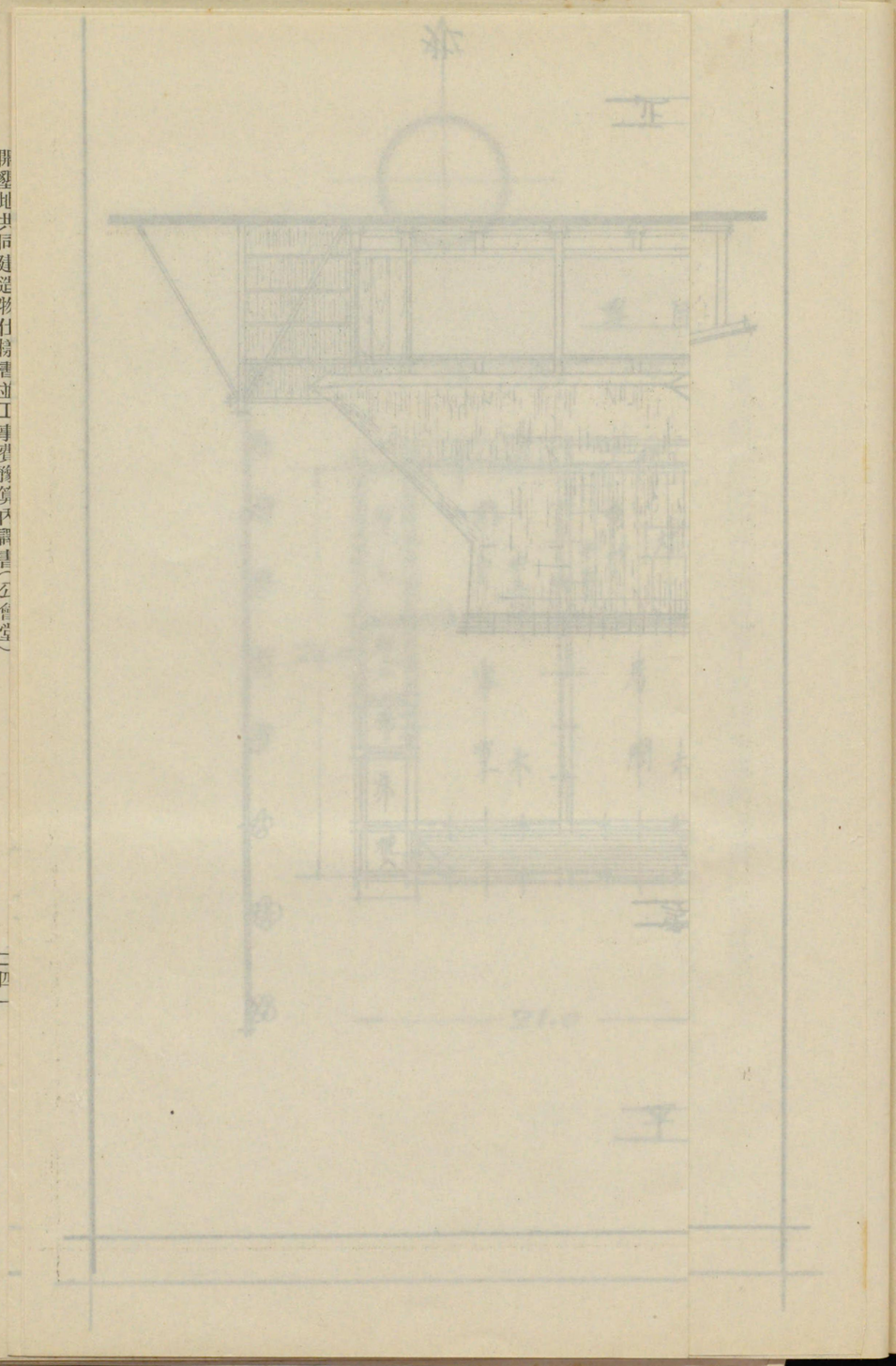
建築費豫算（乙例）

建物種類	間數	建坪	建築材料	坪當單價	金額
仕舞	五	二〇坪	木造瓦葺	五〇円	一,〇〇〇円
納屋	一				
廐屋	一	一〇坪	木造瓦葺	四〇円	四〇〇円
風呂場	一				
便所	一				
		三〇坪			一,四〇〇円

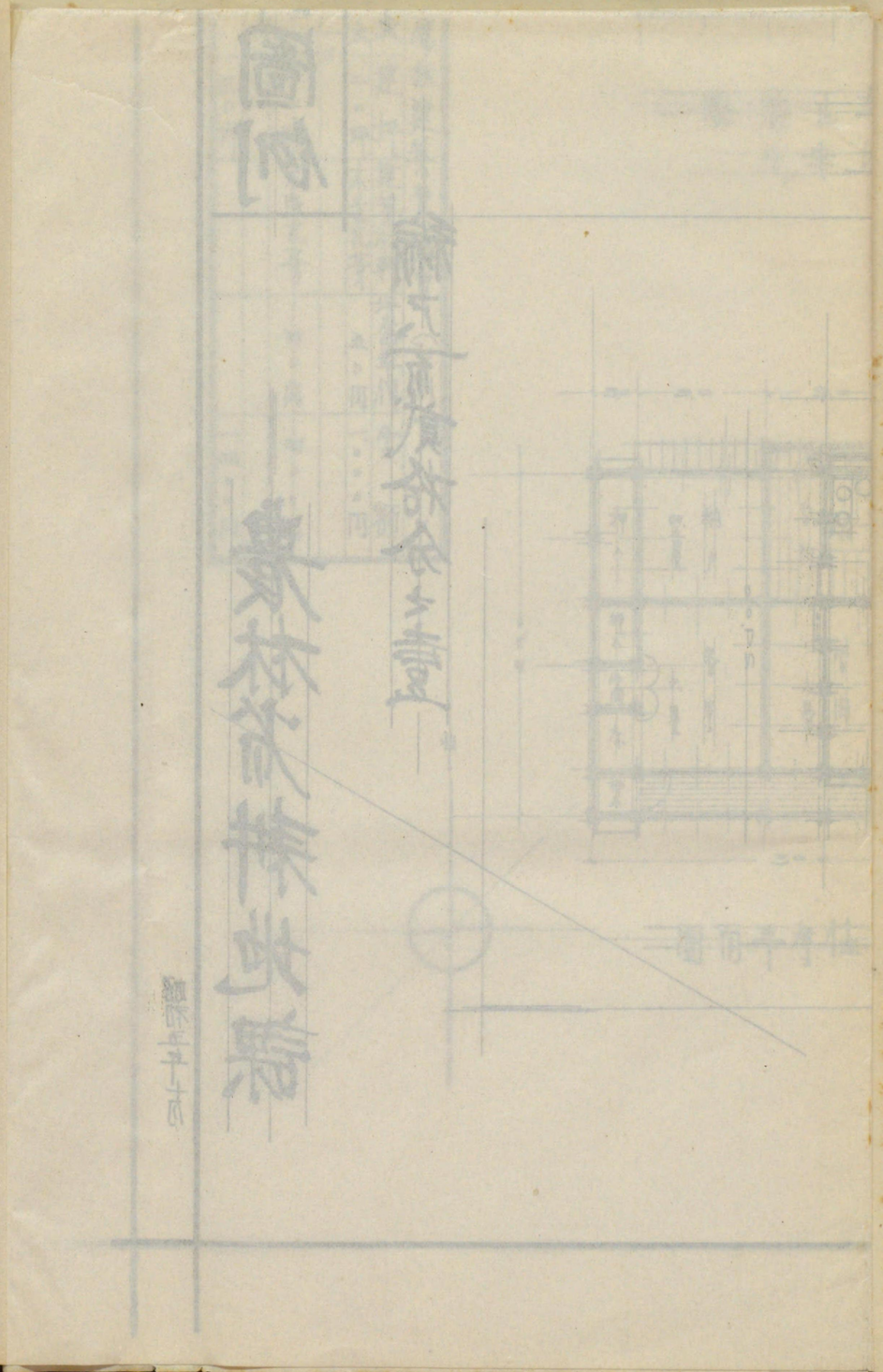
建築費豫算（甲例二）

建物種類	間數	建坪	建築材料	坪當單價	金額
仕舞	五	二〇坪	木造茅葺及瓦葺	五〇円	一,〇〇〇円

605
73

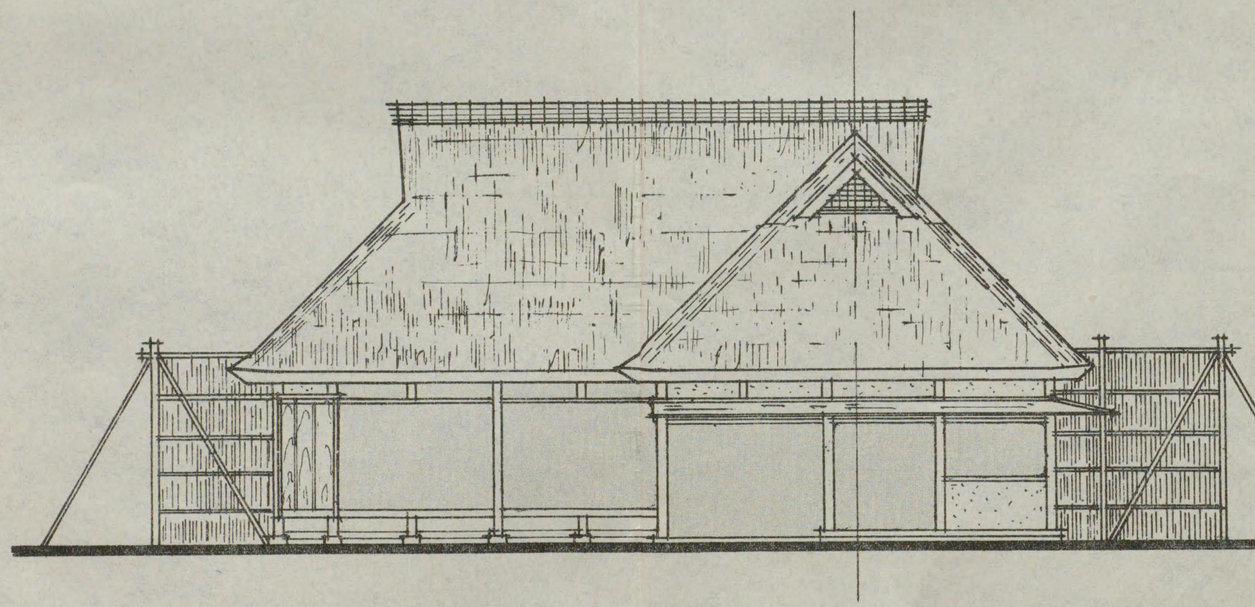


開墾地共同建造物仕樣書並工事費豫算內譯書（五會堂）

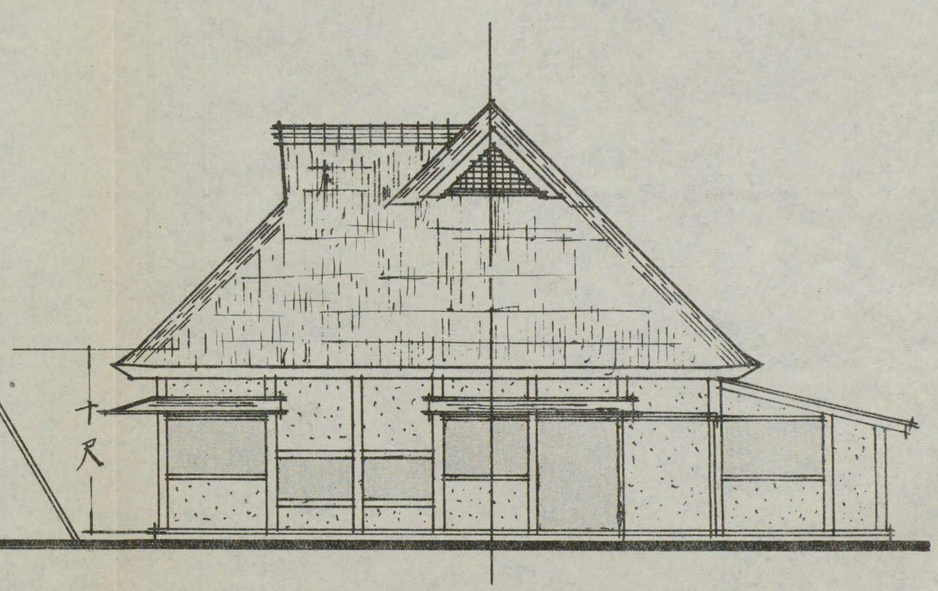


雲害地ニ於ケル移住家屋設計案

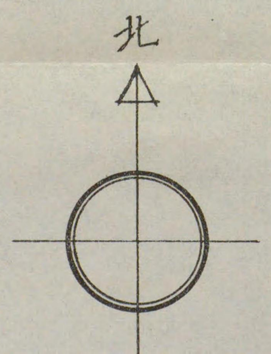
縮尺百分ノ一

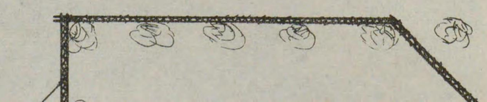


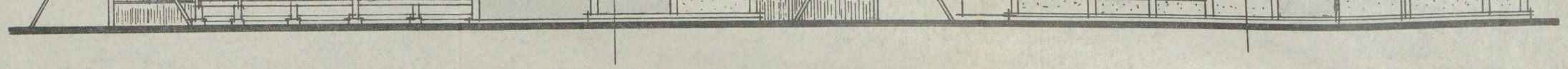
正面圖



側面圖

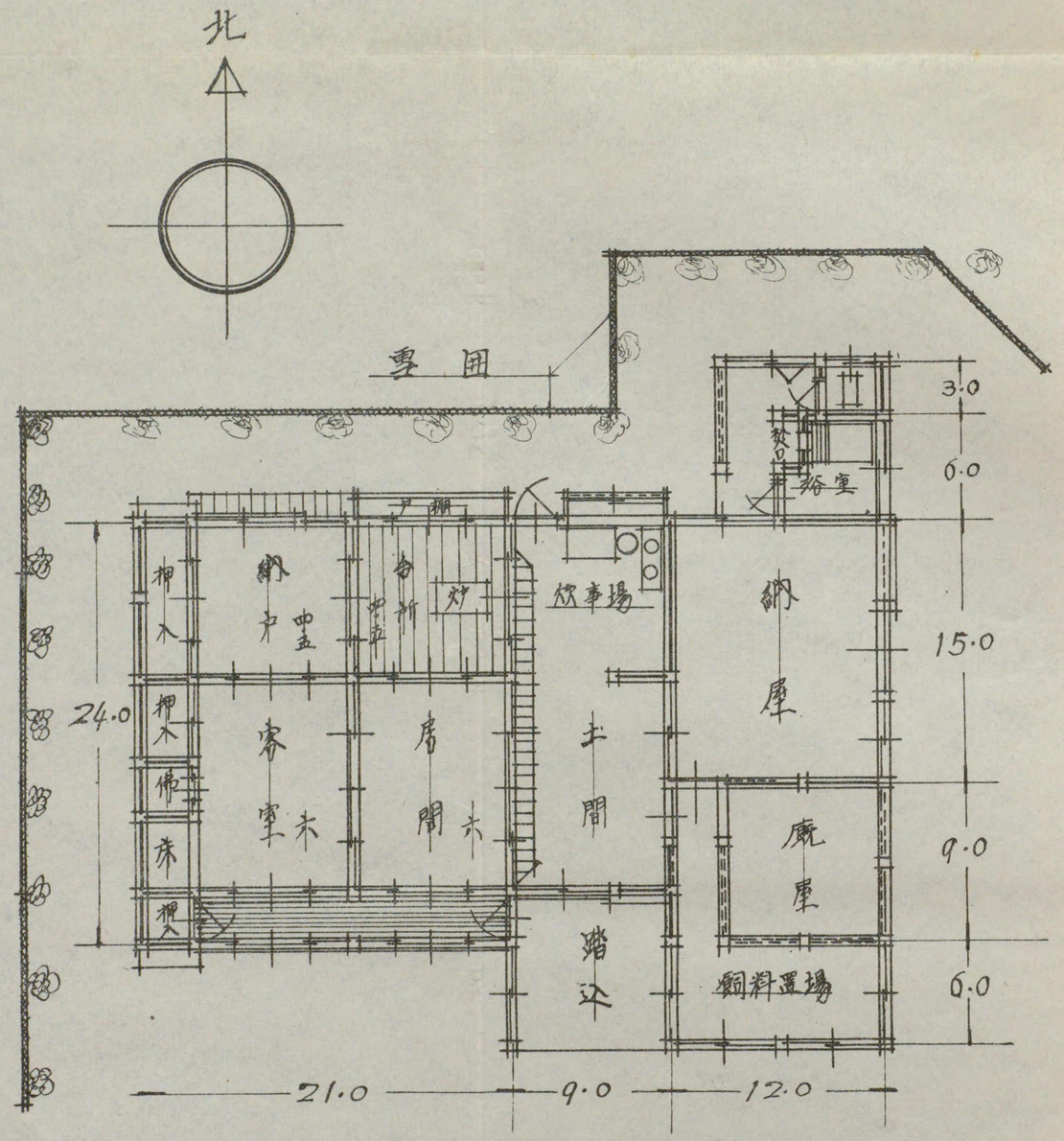






正面圖

側面圖



平面圖

家屋(附屬家付)建築費豫算(雪害地ニ於ケル案)

番号	建物種類	間数	建坪	建築材料	坪當單價	金額
一ノ一	住屋	六				
	納屋	一				
	廐屋	一	三十七五坪	木造草葺		
	飼料置場	一				
	浴室	一				
	便所	一				
	雪囲		延長一八間			

605
73

第三　開墾地共同建造物仕様書並工事費豫算内譯書（公會堂）

（開墾地共同建造物設計圖例一參照）

一、公會堂　木造平家建　一棟
此建坪　六十五坪三合三勺

内譯

本家　桁行　七十六尺　此建坪六十三坪三合三勺
梁間　三十尺
車寄　同　六尺
同　十二尺　〃　二坪

但シ軒高地盤ヨリ軒桁峠迄本家十三尺五寸車寄十一尺。軒出柱眞ヨリ軒先迄本家一尺八寸、車寄二尺。屋根本家五寸勾配方形造リ瓦葺。車寄四寸五分勾配切妻造リ瓦葺。内部壁漆喰塗仕上外部壁下見板張及漆喰塗床拭板張及疊敷一部混凝土叩キ其他詳細圖面ノ通リ

附ラ

一、玄關出入口	高	内法	六尺	兩開キ腰高硝子戸吊	一ケ所
	巾	柱眞々	六尺五寸		
一、同　欄間	〃	〃	一尺五寸	嵌殺硝子障子建	二ケ所
			三尺二寸五分		
一、湯沸場　出入口	〃	〃	五尺八寸	引違腰高硝子戸建	一ケ所
			六尺		
一、同　欄間	〃	〃	一尺二寸	嵌殺硝子障子建	二ケ所
			三尺		
一、側　窓	〃	〃	五尺	引違硝子障子建	十二ケ所
			六尺		

開墾地共同建造物仕様書並工事費豫算内譯書（公會堂）

一、浴室側窓	高内法巾柱員々	四尺六寸	引違硝子障子建	一ヶ所	
一、側窓欄間	〃	一尺二寸	嵌殺硝子障子建	二十四ヶ所	
一、脱衣室側窓	〃	四六尺	引違硝子障子建	一ヶ所	
一、便所側窓	〃	四三尺	同	一ヶ所	
一、同	〃	四五尺	同	一ヶ所	
一、同	〃	四三尺	同	三ヶ所	
一、便所掃出窓	〃	五三尺	同	二ヶ所	
一、集會場 出入口	〃	五尺九寸二分	兩開キ腰高硝子戸吊	一ヶ所	
一、廊下事務室 食堂 堺	〃	五六尺八寸	引違腰高硝子戸建	三ヶ所	
一、廊下應接控室堺	〃	五六尺八寸	同	一ヶ所	
一、廊下 湯沸場堺	〃	六六尺	同	一ヶ所	
一、廊下 脱衣室堺	〃	五六尺八寸	同	一ヶ所	
一、廊下便所堺	〃	六三尺	片開板戸建	一ヶ所	
一、事務室堺及事務室 食堂堺	〃	五十五尺八寸	引違紙張障子建	三ヶ所	
一、事務室押入	〃	五四尺五寸	引違襖建	二ヶ所	
一、食堂押入	〃	五九尺八寸	同	一ヶ所	
一、控室押入	〃	五九尺八寸	同	一ヶ所	
一、控室湯沸場堺	〃	五六尺八寸	引違硝子戸建	一ヶ所	

一、脱衣室 浴室堺	〃	五三尺八寸	引戸板戸建	一ヶ所	
一、大便所 出入口	〃	五五尺七寸	片開キ板戸吊	二ヶ所	
一、軒 樋	半圓徑	四寸	本家屋根及車寄屋根全部		
一、同	同		湯沸場出入口庇屋根		
一、竪樋	圓徑	二寸五分	本家屋根	十二ヶ所	
一、軒先通氣口	高巾	二寸一尺七寸	細目銅網張リ	十八ヶ所	
一、床下風窓	同 同		格子形鑄鐵製裏面銅網張リ	十二ヶ所	
一、臺所及浴室煙突目鏡石枠		一尺二寸角		二ヶ所	
一、湯沸場取付流シ木製亞鉛鍍鐵板張リ				一ヶ所	
一、同 爐	内法一尺五寸角、深サ一尺、大谷石積			二ヶ所	
一、長州風呂竈据付	風呂竈大形、上リ湯竈小形			一ヶ所	
一、便所 取付流シ	木製亞鉛鍍鐵板張リ			一ヶ所	
一、同 手洗	陶器製小形			一ヶ所	
一、大便器	陶器製			二ヶ所	

右仕樣

一、假設工事

水盛遣形

足代

新築敷地ノ雜草刈取リ假ニ繩張ヲ爲シ位置ヲ定メ水平正シク堅固ニ設クヘシ
必要ニ應シ杉丸太ヲ以テ堅固ニ組立テ丸太ノ交叉部ハ繩結ビヲ爲シ歩ミ板ハ厚板ヲ架渡シ堅固ニ取設クヘシ

605
73

假小屋	材料置場其他ノ假設物ハ係員ニ届出テ指示ノ場所ニ設クヘシ
現寸圖	各部ノ工事着手前請負人ニ於テ現寸圖ヲ必要ニ從ヒ調製シ係員ノ檢査ヲ受ケ然ル後工事ニ着手スベシ
養生	各工事共既成部分ニシテ工事中疵ノ附キ易キ所及係員ニ於テ特ニ指示シタル箇所ハ假リニ板類ヲ當ルカ或ハ其他ノ方法ヲ以テ養生ヲ爲スヘシ

一、基礎工事

地盤ノ高サ	係員ノ指示ヲ受クヘシ
根切	圖面ニ依リ掘下クヘシ
栗石地形	栗石ヲ小端立テニ詰メ並ヘ目潰シ砂利入レ眞棒胴突ニテ搗固ムヘシ
埋戻シ及地平均	根切ノ埋戻シハ根切土ヲ用ヒテ手蛸ニテ搗堅メツツ施工シ建物周圍ハ水排ケ良ク地平均シヲ爲スヘシ

一、混凝土工事

施工場所	左ノ如シ 施工場所　寸法 側廻リ及間仕切　圖面ノ通リ 基礎布石形　厚四寸 「コンクリート」 床叩キ 調合 セメント一 砂三 砂利六 〃
「セメント」	昭和二年商工省告示第九號「ポートランドセメント」規格ニ合格セルモノトス
砂	土氣、塵埃無キ清淨ナルモノトス
砂利	土氣、塵埃無キ清淨ナルモノニシテ八分目以下二分目以上トス
用水	土氣無キ清水トス
假枠	板割ヘ棧木ヲ附シ混凝土ノ壓力ニ對シ充分耐ヘ得ル樣組立テ位置正シク移動セサル樣据付クヘシ

混凝土打込	前記調合ニ依リ正確ナル量器ヲ以テ量リ立テ練方ハ乾練三遍、加水後三遍以上切返シ練合セ假枠內ニ打込ミ手蛸又ハ小棒ニテ充分搗固メ土臺締付用「ボールト」徑五分ヲ間隔約六尺ニ植込ムヘシ
養生	混凝土、打立後ハ直チニ莚類ヲ以テ覆ヒ寒氣中ハ適當ノ防寒手當ヲ爲スヘシ（但シ混凝土打ハ華氏四十度以上ノ時施工スヘシ）

一、石工事

車寄柱沓石	堅石寸法圖面ニ依ル
玄關入口地覆石	堅石五寸七寸
床束受石	玉石徑約八寸
爐緣石	軟石四寸五寸
竪樋受石	軟石五寸角長一尺二寸

見ヘ掛リ小叩キニ仕上ケ「セメントモルモル」ニテ据付クヘシ
見ヘ掛リ小叩キニテ仕上ケ上端戸當リ附シ前記「モルタル」ニテ通リ良ク据付クヘシ
栗石地形ノ上ヘ位置正シク据付クヘシ
見ヘ掛リ小叩キニ仕上ケ前記「モルタル」ニテ据付クヘシ
見ヘ掛リ小叩キ仕上ケ上端ハ水路彫リ爲シ据付クヘシ

一、木工事

共通事項	本工事ニ使用ノ木材ハ割レ腐レ其他ノ缺點無キ充分乾燥セルモノヲ用フヘシ 木材見ヘ掛リハ上鉋削リ仕上ゲトシ（但シ下見板ヲ除ク）特ニ程度ノ記入セサルモノハ見ヘ掛リ小節材見ヘ隱レ並材トシ又圖面及仕樣書ニ記入セル寸法ハ押角山挽材ヲ除キ仕上寸法トス 木材カ石又ハ混凝土等ニ接スル面ハ防腐劑塗リ爲スヘシ 釘長ハ木厚ノ二倍半ヲ用ヒ板類ノ釘打ハ約二寸間トシ額緣ノ如キモノハ二尺間ニ釘打爲スヘシ 繼手追掛大栓繼隅々小根枘差シ丁形取合ハ蔭入レ平枘打拔キ割楔締メ徑五分植込「ボールト」ニテ締付テ基礎混凝土上端ハ「セメントモルタル」ニテ平均シタル上ヘ馴染良ク据付クヘシ
軸組土臺	檜四寸角
柱	松又ハ杉三寸八分角
〃（車寄）	〃五寸角
間柱	〃一寸五分角

上下枘付建テ側廻リ其他要所ハ込栓打
上下枘付建テ
上下短枘付ケ一尺五寸間ニ建込ミ

605
73

通シ	貫	杉	
壁	筋	違	桁
敷		松又ハ杉	
胴差（車寄）	〃	四五	寸
東（車寄）	〃	三寸五分角	
間仕切	桁	杉押	
小屋組		陸	
梁	松	七	寸
隅	〃	四	寸
配付	〃	六	寸
隅	〃	四	寸
陸	〃	六	寸
梁	〃	四	寸
受	〃	六	寸
隅	〃	四	寸
陸	〃	六	寸
梁	〃	四	寸
束	〃	六	寸
凝	〃	四	寸
梁	〃	四	寸
眞	〃	六	寸
隅	〃	四	寸
釣	「ボールト」	徑	六分
梁	ギ	松又ハ杉	四寸
幕	板	杉	板

柱ヘ差通シ楔締メ			
兩端斜胴着ニ缺キ込ミ通シ貫ニ缺キ合セ各木當リヘ大釘打			
繼手、柱眞ヲ避ケ長一尺三寸ノ追掛大栓繼隅柱ヘ片木枘差込栓打架渡シ柱當リヘ羽子板「ボールト」差通シ締付			
兩端蔀入小根枘差込栓打			
上下枘付建			
繼手蟻ニ仕合セ間仕切上ヘ架渡シ			
敷桁ヘ渡腮ニ架渡シ			
兩端燧梁ヘ渡腮ニ架渡シ徑五分「ボールト」締付			
一端敷桁ヘ渡腮ニ仕掛ケ他端陸梁ヘ斜胴着短枘差シ徑五分「ボールト」締付			
一端敷桁ヘ渡腮ニ仕掛ケ徑五分「ボールト」締付他方陸梁ヘ斜胴着短枘差シ徑五分「ボールト」締付			
一方敷桁ヘ渡腮ニ仕掛ケ徑五分「ボールト」締付他方陸梁ヘ斜胴着短枘差シ徑五分「ボールト」締付			
一端敷桁ヘ他端陸梁各斜胴着短枘差シ徑五分「ボールト」締付			
圖面ノ格好ニ做ヒ仕掛ヘ（下モ短枘付上ミ「ソナギ」枘付金物當テ徑五分「ボールト」締付（但シ兩端眞東ハ六寸角トス）			
下二枚「ソナギ」枘付上ミ斜胴着短枘差シ渡リ四寸鎹打堅メ			
兩端斜胴着短枘差シ渡リ四寸鎹打堅メ			
圖面ニ做ヒ兩面ニ當テ徑五分「ボールト」締付			
一隅二ケ所宛指示ノ通リ締付			
陸梁上ヘ渡腮ニ架渡シ渡リ四寸手違鎹打堅メ			
巾現場ニ做ヒ周圍小穴ニ入レ約十二尺間ニ通氣口切明			

軒	桁	松又ハ杉	
母	屋	杉押	
轉	止	松	
棟	木	杉押	
隅	木	〃	
軒	桁	（車寄ノ分）松又ハ杉	
妻	梁	（〃）	
小屋束		（〃）	
母	屋	（〃）	
棟	木	（〃）	
屋根及軒先廻リ			
棰		松山挽	
面	戸	板	杉山挽
鼻	隱	巾四寸厚七分	杉
廣	小	舞	大貫巾八寸厚二寸
破風板（車寄）		〃	
裏	板	杉	割
瓦	桟	杉	一寸五分五分
床			
床	束	杉	押
大	引	杉	末口
玄關上リ框		松又ハ杉	

四	寸	角	
三寸五分	角		
二	寸	角	
三寸五分	角		
三	寸	角	
四五	寸	寸	
四五	寸	寸	
三寸五分	角		
三	寸	角	
三寸五分	角		
三寸五分	角		
二	寸	角	
四	分	板	
巾四寸厚七分			
大貫巾八寸厚二寸			
一寸五分			
三	寸	角	
二	寸	五分	
三寸七分	角		

繼手陸梁眞ヲ避ケ長一尺二寸追掛大栓繼隅組合セ陸梁上ヘ渡腮ニ架渡シ柱當ヘ羽子板「ボールト」差シ通シ締付

合掌上ヘ圖面ノ通リ大釘打

上端小返リ附シ繼手腰掛蟻ニ仕掛ケ

上端小返リ附シ眞束ヘ蔭入蟻ニ仕掛ケ

兩端軒桁ヘ蔭入蟻ニ仕掛ケ

上下枘付建テ渡リ四寸鎹打堅メ

上端小返リ附シ一端本家敷桁ヘ蔭入蟻ニ仕掛ケ

上端小返リ附シ架渡シ

間隔一尺五寸間以内ニ配リ繼手眞ニ母屋上ニテ殺キ繼キトシ各木當リ毎ニ大釘打隅木當リ蔭入レ軒先通リ良ク切揃ヘ

棰鼻ヘ通リ良ク縫キ込ミ止釘打

軒先通リ良ク木當リヘ釘打

圖面ノ格好ニ做ヒ木作リ上ミ拝ミ目違入木當ヘ釘打

傍突付ケ軒先ハ羽重ネ充分ニ張立テ

間隔瓦ニ做ヒ割合セ通リ良ク釘打

玉石上ヘ馴染良建テ上ミ大引ヘ枘入レ四寸鎹打（但シ土臺際ノ分ハ適當ニ切込止釘打）

上端平ラニ削リ繼手束眞ニテ蟻ニ仕合セ通リ良ク架渡シ

上端板決リ及根太彫リ爲シ兩端柱ト蟻ニ仕合セ見ヘ隱レヨリ止鎹打

廊下ヨリ各室ヘ入口敷居框	松又ハ杉	三寸七分角	上端戸溝突キ及根太彫リ爲シ兩端柱ヘ掬ヒ込ミ見ヘ隱レヨリ止鎹打
根太	松山挽	二寸角	集會場ハ間隔一尺二寸間其他一尺五寸間ニ配リ大釘打
根太掛	杉	大貫	柱ヘ缺込ミ大釘打
床拭板	杉	巾四寸 厚六分	傍實剱キニ爲シ根太當リヘ忍ビ釘打上端目違ナク張立ヲ
床板	松山挽	六分板	疊下ハ傍突付ケニ釘打押入床ハ傍合決リニ張立テ
床下改メ口			疊下床ハ一室ニ就キ一箇所掃除口ヲ切明ケ
浴室切目床框	杉	二寸五分角	兩端混凝土腰中ヘ彫リ込ミ
同床板	〃	巾約六寸 厚六分	傍突ケニ張立テ
内法廻リ			
疊寄	松又ハ杉	一寸二分	兩端掬ヒ込ミ忍釘打
敷居及地覆	〃	一寸五分	上端戸決リ爲シ十五尺モノハ兩端柱ヘ目違枘入レ取付其他一端目違枘入レ他端胴着横栓打三尺間ニ飼木ヲナシ釘打チ押入レノ分ハ板決リ爲シ
附鴨居	〃	一寸五分	一端目違枘入レ他端胴着忍釘打
無目	〃	一寸五分	附鴨居ニ倣ヒ取付
鴨居	〃	一寸六分	下端戸溝突キ長十五尺モノハ兩端柱ヘ目違枘入レ其他ハ一端目違枘入レ他端ハ釘穴彫リ忍釘打
内法束	〃	三寸五分角	上ミ間仕切桁ヘ長枘差シ込栓打下モ鴨居ト蟻枘ニ仕合セ中起リニ釣付ケ（但シ内法束ハ横内法九尺以上ノ鴨居ノ中央ニ取付クモノトス）
支關入口中鴨居	〃	三寸	上下戸決リ附シ一端目違枘入レ他端尾入レ遣返シニ取付忍釘打
〃 欄間鴨居	〃	三寸五分	下端戸溝突キ室内鴨居ニ倣ヒ取付
湯沸場入口中鴨居	〃	一寸五分	上下戸溝突キ前記中鴨居ニ倣ヒ取付
〃 欄間鴨居	〃	三寸	下端戸溝突キ前記欄間鴨居ニ倣ヒ取付
出入口欄間中束	〃	三寸五分	兩端短枘差シ
外部窓敷居	〃	二寸二分	上端水返シ決リ爲シ兩端柱ヘ掬ヒ込ミ忍釘
〃 中鴨居	〃	三寸七分	上下戸溝突キ窓敷居ニ倣ヒ取付

〃 欄間鴨居	〃	一寸五分	下端戸溝突キ窓敷居ニ倣ヒ取付
〃 欄間中束	〃	二寸二分	前記ニ倣ヒ取付
〃 鴨居	〃	三寸三分	欄間鴨居ニ倣ヒ取付
便所掃出窓鴨居	〃	一寸五分	前記ニ倣ヒ取付
浴室入口方立	〃	三寸五分	上下目違枘入忍釘打
〃 一ト筋敷居鴨居	松又ハ杉	一寸六分角	上下戸溝突キ忍釘打
便所及大便所入口小脇方立	〃	一寸五分	戸決リ及綿板小穴突キ上下目違枘入レ忍釘打
〃 小脇綿板	杉山挽	六分板	周圍小穴ニ入レ嵌合セ
押入中棚			
中棚框	松又ハ杉	三寸二分	上端板決リ根太彫リ爲シ兩端柱ヘ缺込ミ釘打
根太掛	杉	大貫	柱ヘ缺込ミ釘打
根太	松又ハ杉	一寸五分	一尺二寸間ニ配リ止釘打
棚板	松山挽	六分板	傍合決リニ張リ立テ雜巾摺打廻シ
天井			
集會場廻椽	杉	一寸二分	猿頬面取リ隅襟輪留トシ忍釘打
〃 天井長押	〃	二寸	隅襟輪留トシ忍釘打
〃 竿縁	〃	一寸四分	猿頬面取リ一尺五寸間ニ廻縁ト面腰ニ彫込ミ釘打
支關事務室及食堂廻椽	〃	一寸六分	隅襟輪留トシ忍釘打
其他ノ室廻椽	〃	一寸四分角	
押入廻椽	〃	一寸二分角	
支關事務室及食堂竿縁	〃	一寸角	一尺五寸間ニ兩端廻縁ヘ彫込ミ忍釘打
其他ノ室（押入共）竿縁	〃	九分角	

集會場　玄關及　車寄天井板　杉小山挽　四分板上小一尺以上節
其他ノ室（押入共）天井板　〃一尺以上節
裏　〃　杉小丸太　〃　〃
釣木受　杉小丸太　〃　〃
釣木　末松　二寸角　〃　〃
床ノ間　床柱　檜　四寸角　上下柄付建テ
〃　床框　〃　四寸角　矩折柄付尾入レ遣返シニ取付落掛ハ堅木二寸、三寸二分ヲ尾入遣返ニ取付
〃　床板　堅木又ハ松赤味勝　厚一寸　吸付桟附シ床框へ小穴ニ入レ取付雑巾摺打廻シ
無双四分一　〃　〃　現場指示ノモノヲ天井廻縁下へ両端柱へ彫込ミ稲妻釘三個指示ノ通リ彫込
内部巾木及竪羽目板張　〃　〃　（集會場廊下、玄關及車寄等）上角面取リ柱へ尾入レ床板ニ小穴ニ仕合
〃　車寄額縁　〃　大三寸　大貫　（事務室・應接・控室・食堂及脱衣室等）前記ニ倣ヒ取付
〃　〃　〃　大六分　〃　板決リ爲シ隅留二目違柄入レ釘打
各羽目胴縁　〃　巾一尺　大貫二本及同ジキ間隔　間隔約一尺五寸間トシ一ツ置キニ二ツ割ヲ用ヒ両端柱へ彫込ミ間柱當リへ釘打（但シ間柱無キ箇所ハ適當ノ受木ヲ取付）
車寄羽目板張　〃　〃　厚三分　傍合決リ周圍小穴ニ入レ張立テ
〃　笠木　杉　巾六寸五分　上角面取リ下端小穴彫リ取付
湯沸場及便所腰羽目板張　杉山挽　〃　高サ約三尺通リ巾割合セ傍合決リ周圍小穴ニ入レ張立テ
〃　笠木　杉　巾七寸五分　下端小穴彫リ取付
浴室全體羽目板張　杉山挽　巾六寸八分　高サ天井廻縁下迄湯沸場ニ倣ヒ張立テ板繼キ杉大貫釘打
洗面所　小便所堺羽目板張柱　杉　三寸角　板決リ爲シ上下柄付建テ
〃　笠木　〃　〃　三寸五分　上端鎬ニ削リ下端小穴突キ側柱へ柄差シ

羽重ネ充分ニ釘打張立テ
三尺間ニ釘打
梁上ニ架渡シ大釘打又ハ鎹止
三尺間ニ下モ切缺キ釘打チ中起リニ釣付

〃　胴縁　〃　一寸五分　間隔一尺五寸間ニ兩端彫込ミ釘打
〃　〃　（目板打共）　杉山挽　巾八六分　傍突付ケ周圍小穴ニ入レ兩面ニ張立テ目板同板巾一寸二分ニ引割リ垂直ニ釘打
小便所隔板羽目張柱　杉　二寸角
〃　笠木　〃　巾一一寸三分　〃
〃　胴縁　〃　一二寸五分　〃
〃　〃　（目板打共）　杉山挽　巾七六分　羽目板片面張リトシ其他前記ニ倣ヒ張立テ
外部下見張　〃　〃　〃　〃
窓額縁　杉　二寸五分　下見板ノ羽刻ミ爲シ隅留ニ目違柄入レ釘打
〃　〃　〃　一二寸五分　上端勾配ニ削リ下端板決リ爲シ柱、間柱へ缺込ミ釘打
〃　〃　（下）　〃　一二寸五分　上額縁上へ勾配ニ打付
窓兩押へ　〃　大貫　上端勾配ニ削リ土臺へ釘打
附土臺　〃　四寸　板割　上端勾配ニ削リ土臺へ釘打
土臺兩押へ　〃　大貫　通リ良ク勾配ニ釘打
下見板張　〃　下モミ上一一寸　巾圓面ニ依リ割合セ重ネ充分ニ額縁其他ノ見切縁へ深ク差込ミ通リ良ク張立テ
見切縁　〃　巾二寸五分　下見板決リ爲シ釘打
床下風窓窓枠　〃　二寸五分　繼手目違柄入レ釘打
〃　額縁　杉　一二寸　角　隅留ニ周圍下見板決リ爲シ釘打
湯沸場出入口　桷木　松又ハ杉　三寸　柱へ柄差シ楔締メ
桁　〃　〃　三寸　桷木へ渡腮ニ仕掛ケ大釘打
板　〃　〃　三一寸五分　柱、間柱へ缺込ミ大釘打
屋根　〃　〃　三一寸　傍合決リニ張立テ
鼻隠　〃　〃　一七寸　破風板へ彫込ミ屋根板ヨリ縫釘打
破風　〃　〃　二分　木當リへ釘打
笠木　〃　〃　四寸　板割

605
73

一、屋根瓦葺工事

雨押	杉	大貫	雨仕舞良ク釘打
便所窓板庇			
庇	杉	巾八寸厚七分	勾配ニ額縁上ニ釘打
持送			格好良ク木作リ取付
葺下地			「アスファルトフエルト」二號品重ネ二寸以上ニ敷込ミ瓦桟打付
瓦葺			地瓦兩面磨切込ミ引掛桟瓦葺軒先唐草敷平入レ棟ハ平瓦ヲ南蠻漆喰ニテ伏セ丸瓦ハ紐付ヲ用ヒ
屋根漆喰			同漆喰ニテ伏セ鬼板ハ銅線ニテ止メ
			軒先及棟面戸丸瓦側面等漆喰二返塗トス

一、金屬工事

軒樋	亞鉛鍍鐵板厚	○・四五粍	本家及車寄屋根ハ半圓徑四寸碗木庇屋根ハ同二寸五分トシ兩耳巻返シ繼手毎ニ亞鉛鍍八番鐵線
			長一尺ヲ兩耳ヘ巻込ミ繼手重ネ一寸以上銅鋲ニテ鋲メ兩面ヨリ半田纏付ケ水落口切明ケ受鐵ハ
			二分四分ヘ足鐵鋲メ亞鉛鍍ヲ爲シ三尺間ニ水流シ勾配付ケ打付ケ軒樋ヲ架渡シ亞鉛鍍鐵線結ヒトシ
竪樋	〃		(十二ケ所)圓徑二寸五分朔目ハ小鉤掛ケ竪ノ繼合セハ一寸以上重ネ合シ半田纏付トシ受鐵二分
			ヲ開キ輪ニ作リ足鐵ヲ鋲メ付間隔四尺内外ニ打付呼樋ハ適當ノ大サニ恰好良ク工作シ嵌合セ
谷樋	銅板尺方ニ付	八オンス	繼手小鉤掛ケ鉤子止メトシ兩側立上ケ雨仕舞良ク取付
庇屋根鐵板葺	亞鉛鍍平鐵板	○・四五粍	下地屋根工事ニ倣ヒ敷込ミ鐵板ハ指示ノ大サニ切リ縦横小鉤掛ケ鉤子ヲ用ヒ軒先唐草附ケ雨仕
雨押鐵板張	〃		舞良ク葺立テ
			上端及前面ヲ折返シ下見裏ヘ立上ケ釘打ヲ釘頭ハ半田纏付ケ爲シ雨仕舞良ク張立テ
床下風窓金物	鑄鐵製		見込ミ四分格子形ニ鑄造リ裏面ヘ銅網張リ嵌合セ
軒先通氣口銅網張			間隔約二間間ニ周圍緣亞鉛鍍鐵線ヲ用ヒ細目銅網張付ケ軒桁下幕板ヘ指示ノ通リ取付
天井空氣抜銅網張			各室天井ノ隅ヘ指示ノ大サニ前記ニ倣ヒ恰好良ク作リ取付

一、左官工事

「モルタル」塗場所			混凝土見ヘ掛リ全體及土臺下端混凝土面、風呂竈据付煉瓦面見ヘ掛リ等厚約五分平坦ニ塗立ツ
「モルタル」塗材料「セメント」			前記混凝土工事仕様ニ倣ヒ
〃 砂			川砂ニシテ土氣塵埃等ヲ含マス稜角アル上等品トシ使用前細目篩ニテ篩立テ
「モルタル」塗下地			塗下地丁寧ニ掃除ヲ爲シ混凝土面ハ刷毛ノ類ヲ以テ附着物ヲ取去リ清水ニテ適度ノ水濕シヲ行ヒ
塗方			垂直水平引通シ正シク且ツ地班無キ樣鏝押ヘ充分ニ塗立テ地盤ニ接スル所ハ地盤以下三寸ノ增塗爲スヘシ
木舞壁塗場所			床ノ間ハ砂仕上、押入ハ大津仕上、其他ハ漆喰仕上トス
荒壁土			良質ノ粘土ヲ用ヒ小石其他ノ混合物ヲ取去リ藁苞切込ミ練混セ置キタルモノヲ更ニ反履練返シ
川砂			使用スヘシ
蠣灰及粉石灰			前記「モルタル」ニ使用ノモノニ同シ
濱苧			燒立後五六ケ月以上ヲ經過シタル白色ノ粉末ニシテ濕氣ヲ帶ヒサルモノヲ細目篩ニテ篩立テ
角又及布海苔			纖維强靱ナル乾燥品ヲ笊揉ミ篩抜キノ上使用スヘシ
壁下地			不溶解性ノ海草又ハ雜物混入セサル乾燥品ヲ適當ニ煮立テ篩漉シ
壁塗			下地間渡竹ハ丸竹ヲ用ヒ竪横共柱貫際ヨリ二寸五分ヲ置キ中間ハ一尺内外ニ割合セ兩端彫込貫
調合			當リ止釘打木舞竹ハ割竹ヲ細素繩ニテ丈夫ニ結付
塗方			各調合ハ係員ノ指示ヲ受ケ定メ
床ノ間壁			下塗ト同時ニ裏撫ヲ爲シ裏返シ村直シ及中塗共前回塗面ノ充分乾燥シタル後ニ施シ(散漆喰及
押入大津壁			貫緒リハ布塗込ミ)大津壁ハ中塗ノ充分乾燥セサル適當ノ時期ニ於テ上塗ヲ爲シ砂壁及漆喰壁
其他漆喰塗			ハ中塗ノ充分乾燥後ニ於テ上塗ヲ爲シ總テ壁面平坦ニ散際良ク塗仕上クヘシ

一、建具工事

建築材料	杉		充分乾燥セル眞去リ上小節材ヲ用フヘシ
〃 硝子	厚	六厘以上	泡其他ノ缺點ナキ硝子切込ミ敷「パテ」充分飼ヒ外廻リ雨掛リハ止釘打「パテ」止メトシ室内ノ分
			ハ押縁當テ捻鋲ニテ締付ケ係員ノ指示スル所ハ摺硝子ヲ嵌込ムヘシ

玄關及集會所出入口

605
73

腰高硝子戸	見込一寸二分	見付圖面ニ倣ヒ框棧ハ二枚枘組子ハ一枚枘差シ各化粧面取リ硝子決リヲ爲シ割楔打チ鏡板ハ四方小穴嵌メトシ召合定規緣獨鈷落シニ取付ケ釣元蝶番長四吋厚一分五厘眞鍮磨キ建具一枚ニ付三枚ニテ釣リ眞鍮握リ玉付函錠彫込ミ煽リ止メ金物及揚落シ締リ金物等眞鍮製彫込ミ開閉具合良ク釣込ミ
其他ノ出入口		
腰高硝子戸	見込一寸一分	仕口前記ニ倣ヒ組立テ戸尻ニハ玉入車ヲ彫込ミ眞鍮「レール」ヲ約八寸間ニ友釘ニテ敷居上端ヘ打付ケ(湯沸場出入口ハ下部「レール」ヘ足鐵ヲ鉸メ地覆石上ヘ係員指示ノ通リ植込ミ)眞鍮製引手金物及差込捻錠附シ釣込ミ
側窓		
硝子戸	見込一寸	仕口其他附屬金物共腰高硝子戸ニ準シ指立テ釣込ミハ揚ケ溝嵌メトシ開閉具合良ク釣込ムヘシ
各欄間		
硝子障子	見込九分	仕口窓硝子戸ニ倣ヒ指立テ嵌込ミ
浴室及便所出入口		
板戸	見込一寸一分	框見付一寸五分二枚枘差シ中棧五本一枚枘差シ割楔締メ戸板三枚糊刷キトシ周圍小穴ニ仕合セ銅釘約二寸歩ミニ打チ張立テ浴室板戸ハ眞鍮手掛金物附シ釣込ミ便所板戸ハ釣元蝶番長三吋厚一分眞鍮製建具一枚ニ付三枚ニテ釣リ眞鍮取手及煽リ止メ金物附シ釣込ミ
大便所入口		
板戸	見込一寸	框見付一寸二分中棧四本各一枚枘差シ割楔締メ戸板二枚糊刷キトシ周圍框ヘ決リ掛ケ前記板戸ニ倣ヒ銅釘打チ釣元蝶番二枚ニテ釣リ堅木製横猿(内締リ猿共)附シ
紙張障子	見込一寸	各框棧共枘差シ割楔締メ組子ハ合缺キニ組合セ框棧ヘ枘差シ腰板ハ四枚糊刷キトシ周圍小穴ニ仕合セ各枘共押糊入レ指立テ建合セ美濃紙張立ツヘシ
押入襖	見込七分	杉骨竪子三本横子十三本ニテ組合セ周圍緣ハ檜上花塗隅々枘入レ隱釘止メトシ召合セ定規緣付ケ下張厚紙張リ袋張リ半紙二返張リニ爲シ上張リハ葛布張リ(又ハ同等ノ布製)押入内面ハ西洋紙張リトシ引手銅製燻シヲ附シ

一、塗工事

ペンキ塗	三回塗	亞鉛鍍鐵板及其他鐵材ノ外部見ヘ掛リ全體トシ鐵材ノペンキ塗ハ錆止光明圓塗リノ上三回塗爲スヘシ
防腐劑塗	二回塗	建物外面雨掛リノ木部(建具ヲ除ク)總體及木材カ混凝土ニ接スル面ヘ「クレオソート」村無キ樣塗立ツヘシ
砥ノ粉塗		室内木地顯ハシ木部ハ必要ニ應シ砥ノ粉塗ヲ爲スヘシ
「コールター」燒塗		「ボールト」及鎹其他補强金物等ハ總テ「コールター」燒塗爲スベシ

一、雜工事

疊敷込		藁床手刺十一通リ又ハ機械床二十二通リ備後表麻緣付ケ不陸無ク敷込ムヘシ
浴室風呂竈	長州風呂	煉瓦燒過二等品火當リ面ハ耐火煉瓦ヲ用ヒ「モルタル」(セメント一、石灰一、川砂一、)ニテ積ミ焚口、灰出口、ロストル等鑄鐵物嵌合セ煙突ハ金剛煙突内徑四寸(要所掃除蓋付キ)ヲ据付ケ鐵線及帶鐵ニテ堅固ニ留メ方ヲ爲シ釜ハ鑄鐵製大形及上リ湯釜小形ノモノヲ据付排水管ヲ附シ蓋板ハ杉板割製棧木ヲ附シ底ハ杉吋板ヘ棧木ヲ附シ嵌合スヘシ但シ竈ハ煉瓦積ノ際適當ノ個所ニ掃除口ヲ設ケ蓋石ヲ取放シニ嵌合セ總テ熟練セル職工ヲ使用シ具合ヨク築造スヘシ
浴室床簀ノ子	杉製	板巾三寸五分、厚六分、ヘ棧木二寸角ヲ附シ大サ巾二尺五寸長四尺ニ作リ据付クヘシ
煙突目鏡石枠	一尺二寸角	枠木四寸、一寸五分隅々留メニ爲シ目鏡石軟石厚三寸ヲ嵌込ミ(浴室一ケ所・湯沸場一ケ所)
取付流シ		湯沸場流シ長二尺八寸、巾一尺六寸深四寸便所洗面流シ、長二尺五寸、巾一尺二寸、深四寸杉板割製トシ亞鉛鍍鐵板張立テ排水竪樋同鐵板製ヲ附シ湯沸場流シハ適當ノ受枠ヲ作リ据付便所流シハ周圍壁ヘ受木ヲ打付ケ据付クヘシ
便所手洗及便器	小形	白色陶製良品ヲ取付ケ前記ニ倣ヒ排水竪樋ヲ取付ケ大便器及小便器共陶製据付ケ下須瓶ハ本燒藥掛ケ大形無疵ノモノヲ埋込ミ上ハ口周圍ハ厚約三寸混凝土(調合一・三・六)打立テ上端ニ勾配附シモルタル塗立テ汲出口木製蓋嵌合セ
小便溜桝	長二尺巾三尺深三尺	溜桝側壁及基礎共混凝土(調合一・三・六)打内面モルタル塗リ溜桝蓋杉板割ヘ棧木ヲ附シ据付ケ床叩キ及流シ下部等ノ水落口ニハ排水土管ヲ建物外三尺迄埋設シ水落口ハ鑄鐵網蓋ヲ嵌合スヘシ
排水土管埋設	土管徑三寸	

605
73

一、共通仕様

一、使用材料ハ總テ係員ノ檢査ヲ受ケ合格ノ承認ヲ得テ使用スヘク見本品ヲ提出ノ必要アルモノハ持込ミ前ニ之ヲ提出シ係員ノ撰定ヲ受ケ指定セルモノト同等ノモノヲ持込ミ更ニ其ノ檢査ヲ受クヘシ檢査ノ結果不合格トナリタルモノハ指示ノ期日内ニ構外ニ搬出スヘシ

一、諸調合物ハ其ノ都度係員ノ立會ヲ受クヘシ

一、本工事中他人ヲシテ電燈其他種々ナル設備ヲ爲サシムル事アルニ付足代其他必要ナル場所ハ双方打合セノ上支障無ク併用ナサシムヘシ尙上記工事ニ必要ナル木煉瓦又ハ取付金物等ハ係員指示ノ通リ壁其他ヘ埋込ミ置クヘシ

一、工事出來ノ上ハ殘材ヲ速カニ構外ニ搬出シ假小屋等ノ假設物ハ取除キ建物内外共叮嚀ニ掃除ヲ爲スヘシ

一、本工事ノ圖面及仕樣書ハ工事ノ大要ヲ示セルモノニ付詳細ニ渉ル廉ハ係員ノ指示ヲ受ケ完全ニ施工スヘシ

開墾地共同建造物工事費豫算内譯書例（開墾地共同建造物設計圖例ノ一參照）

一金五阡貳百參拾圓四拾錢也（坪當リ八拾圓）

内譯

一、假設工事

名稱	材料	長	高或厚又ハ口徑	横又ハ幅	坪數又ハ員數	單價	金額	摘要
水盛遣形								
足代								
假小屋					一式		七、〇〇〇円	
現圖寸生					一		一五、〇〇〇	
養					一		四〇、〇〇〇	
小計					一		五、〇〇〇	
							五、〇〇〇	
							七二、〇〇〇	

一、基礎工事

名稱	材料	長	高或厚又ハ口徑	横又ハ幅	坪數又ハ員數	單價	金額	摘要
根切								
栗石地形					八立坪	三、〇〇〇円	二四、〇〇〇円	
埋戻シ及地平均					七	一八、〇〇〇	一二六、〇〇〇	
小計					一式		一〇、〇〇〇	
							一六〇、〇〇〇	

一、混凝土工事

名稱	材料	長	高或厚又ハ口徑	横又ハ幅	坪數又ハ員數	單價	金額	摘要
假枠	調合				一式	円	三〇、〇〇〇	
混凝土打込	一、三、六				三、五立坪	七〇、〇〇〇	二四五、〇〇〇	
養生					一式		五、〇〇〇	
小計							二八〇、〇〇〇	

一、石工事

名稱	材料	長	高或厚又ハ口徑	横又ハ幅	坪數又ハ員數	單價	金額	摘要
車寄柱沓石	竪石	七寸	上六寸角	下七寸角	四箇	一、〇〇〇円	四、〇〇〇円	
玄關入口地覆石	同	七尺	五寸	五寸	一	五、五〇〇	五、五〇〇	
床束受石	玉石		納八寸		一四〇	、一〇〇	一四、〇〇〇	
爐縁石	軟石	二尺	五寸	四寸	八	、四〇〇	三、二〇〇	
竪樋受石	同	一尺二寸	五寸	五寸	一二	、三〇〇	三、六〇〇	
小計							三〇、三〇〇	

一、木工事

名稱	材料	長	高或厚又ハ口徑	横又ハ幅	坪數又ハ員數	單價	金額	摘要
軸組								
土臺	檜	十二尺	四寸	四寸	三七本	四、八〇〇円	一七七、六〇〇円	
柱	松又ハ杉	同	三寸八分	三寸八分	七六	一、四四〇	一〇九、四四〇	
同	同	九尺	同	同	七	一、〇八〇	七、五六〇	
同（車寄）	同	十尺	五寸	五寸	四枚	二、四九〇	九、九六〇	
通シ貫	杉大貫	十二尺			九〇本	、三〇〇	二七、〇〇〇	
壁筋違	松又ハ杉	十四尺	一寸	三寸	二五	、四二〇	一〇、五〇〇	
敷桁	同	十二尺	四寸	五寸	一一	二、四〇〇	二六、四〇〇	
胴差（車寄）	同	十三尺	同	同	一	二、一六〇	二、一六〇	
同（同）	同	六尺五寸	同	同	二	一、〇八〇	二、一六〇	
束（同）	同	二尺	三寸五分	三寸五分	一	、二〇〇	、二〇〇	
間仕切桁	杉押角	十五尺	同	同	四	一、五二〇	六、〇八〇	
同	同	十二尺	同	同	一七	一、二三〇	二〇、九一〇	
小屋組								
陸梁	松又ハ杉	三十二尺	四寸	七寸	九	八、四〇〇	七五、六〇〇	
隅陸梁	同	二十二尺	同	同	四	七、五六〇	三〇、二四〇	
配付陸梁	同	十二尺	同	六寸	八	二、八八〇	二三、〇四〇	
同	同	六尺五寸	同	同	八	二、〇〇〇	一六、〇〇〇	
隅陸梁受	同	七尺	同	同	四	二、〇〇〇	八、〇〇〇	
同	同	三尺	同	同	四	一、〇〇〇	四、〇〇〇	
燧梁	同	六尺	同	四寸	一八	、九六〇	一七、二八〇	
眞束	同	八尺	六寸	六寸	一	二、八五〇	五、七〇〇	
同	同	同	四寸	同	七	一、九〇〇	一三、三〇〇	
合掌	同	十七尺	同	同	一八	二、五〇〇	四五、〇〇〇	
隅合掌	同	二十三尺	同	七寸	四	七、七〇〇	三〇、八〇〇	
配付合掌	同	十二尺	同	五寸	八	二、四〇〇	一九、二〇〇	
同	同	六尺	同	同	八	一、二〇〇	九、六〇〇	

名稱	材料	長	高或厚又ハ口徑	横又ハ幅	坪數又ハ員數	單價	金額	摘要
方杖	松又ハ杉	八尺	三寸	四寸	四本	一円、二五〇	五円、〇〇〇	
同	同	七尺	同	同	三二	一、一五〇	三六、八〇〇	
釣束	同	五尺	一寸五分	同	四〇	、三〇〇	一二、〇〇〇	
同	同	四尺	同	同	一六	、二四〇	三、八四〇	
梁繋ギ	同	十三尺	二寸	同	三	、五二〇	一、五六〇	
同	同	十尺	同	同	一	、八七〇	、八七〇	
幕板	杉板割	十二尺		巾六寸	一七枚	、五四〇	九、一八〇	
軒桁	松又ハ杉	同	四寸	四寸	一一本	一、九二〇	二一、一二〇	
母屋	杉押角	十三尺	三寸五分	三寸五分	四〇	一、二五〇	五〇、〇〇〇	
轉止	松	十二尺	二寸	二寸	一〇	、四八〇	四、八〇〇	
棟木	杉押角	同	三寸五分	三寸五分	四	一、二二〇	四、八八〇	
隅木	同	同	三寸	三寸	一二	、九〇〇	一〇、八〇〇	
軒桁(車寄)	松又ハ杉	八尺	四寸	五寸	二	一、五八〇	三、一六〇	
妻梁(同)	同	十二尺	同	同	一	二、四〇〇	二、四〇〇	
小屋束(同)	同	同	三寸	三寸	一	一、〇八〇	一、〇八〇	
母屋(同)	同	八尺	三寸五分	三寸五分	二	、九七〇	一、九四〇	
棟木(同)	同	九尺	同	同	一	一、一〇〇	一、一〇〇	
屋根及軒先廻リ								
棰	松山挽	十二尺	二寸	二寸	一四〇	、三四〇	四七、六〇〇	
同	同	七尺	同	同	八〇	、二〇〇	一六、〇〇〇	
面戸板	杉山挽	六尺	四分板	巾尺	八枚	、三〇〇	二、四〇〇	

名稱	材料	長	高或厚又ハ口徑	横又ハ幅	坪數又ハ員數	單價	金額	摘要
鼻隱シ	杉	十二尺	七分	四寸	二〇	、三四〇	六、八〇〇	
廣小舞	杉大貫	同			二〇	、三〇〇	六、〇〇〇	
破風板(車寄)	杉	九尺	一寸	八寸	二	、七二〇	一、四四〇	
裏板	杉板割	十二尺		巾七、八寸	八七坪	二、〇〇〇	一七四、〇〇〇	
瓦座	杉	十二尺	五分	一寸五分	一八五本	、一一〇	二〇、三五〇	
床								
床束	杉押角	同	三寸	三寸	二二	一、〇八〇	二三、七六〇	
大引	杉丸太	十五尺	末口二寸五分		二五	、七七〇	一九、二五〇	
同	同	十二尺	同		四	、六二〇	二、四八〇	
同	同	九尺	同		七	、四六〇	三、二二〇	
玄關上リ框	松又ハ杉	十五尺	三寸七分	三寸七分	一	二、二二〇	二、二二〇	
廊下ヨリ各室ヘ入口敷居框	同	六尺	同	同	九	、八二〇	七、三八〇	
根太	松山挽	十二尺切使共	二寸	二寸	一〇三	、三四〇	三五、〇二〇	
同	同	九尺	同	同	一六	、二六〇	四、一六〇	
根太掛	杉大貫	十二尺			七枚	、三〇〇	二、一〇〇	
床拭板	杉	同	六分	巾四寸	二七坪	三、〇〇〇	八一、〇〇〇	
床板	松山挽	六尺	六分板	同八寸	二三	二、〇〇〇	四六、〇〇〇	
浴室切目床框	杉	同	二寸五分	二寸五分	一本	、三七〇	、三七〇	
同切目板	同	六尺切使	六分	六寸	二枚	、三二〇	、六四〇	
内法廻リ								
疊寄	松又ハ杉	十二尺切使	一寸二分	一寸五分	五本	、二一〇	一一、〇五〇	
敷居	同	十五尺	三寸八分	同	三	、九二〇	二、七六〇	
同	同	九尺	同	同	三	、七四〇	二、二二〇	

名稱	材料	長	高或厚又ハ口徑	横又ハ幅	坪數又ハ員數	單價	金額	摘要
地覆	松又ハ杉	六尺	三寸八分	一寸五分	二本	円、三七〇	円、七四〇	
同	同	三寸五分	同	同	一	、二〇〇	、二〇〇	
附鴨居	同	十二尺	一寸二分	同	九	、二三〇	二、〇七〇	
無目	同	切使六尺	一寸五分	三寸六分	二	、三五〇	、七〇〇	
同	同	三尺五寸	同	同	一	、二〇〇	、二〇〇	
鴨居	同	十五尺	同	同	三	、八八〇	二、六四〇	
同	同	九尺	同	同	三	、五三〇	一、五九〇	
同	同	切使共六尺	同	同	九	、三五〇	三、一五〇	
內法束	同	二尺五寸	三寸五分	三寸五分	五	、六五〇	三、二五〇	
玄關入口中鴨居	同	六尺	三寸	同	一	、六八〇	、六八〇	
同欄間鴨居	同	同	一寸五分	三寸七分	一	、三六〇	、三六〇	
出入口欄間中束	同	三尺切使	二寸二分	三寸三分	一	、二三〇	、二三〇	
外部窓敷居	同	六尺	一寸五分	三寸七分	一四	、三六〇	五、〇四〇	
同	同	五尺	同	同	一	、二五〇	、二五〇	
同	同	三尺五寸	同	同	三	、二一〇	、六三〇	
同	同	三尺	同	同	一	、二〇〇	、二〇〇	
同中鴨居	同	六尺	二寸	同	一三	、四八〇	六、二四〇	
同欄間鴨居	同	一寸五分	一寸五分	同	一三	、三六〇	四、六八〇	
同欄間中束	同	十二尺切使	二寸二分	三寸三分	一本半	、九四〇	一、四一〇	
同鴨居	同	六尺	一寸五分	三寸七分	一	、三六〇	、三六〇	
同	同	五尺	同	同	一	、二五〇	、二五〇	

同	同	三尺五寸	同	同	三	、二一〇	、六三〇	
同	同	三尺	同	同	一	、一八〇	、一八〇	
便所掃出窓鴨居	同	三尺五寸	一寸二分	三寸五分	二	、一六〇	、三二〇	
浴室出入口方立	同	六尺	一寸五分	同	一	、三四〇	、三四〇	
同一ト筋敷居鴨居	同	一寸	一寸六分	一寸六分	二	、一七〇	、三四〇	
便所及大便所入口小脇方立	同	同	一寸五分	三寸五分	二	、三四〇	、六八〇	
同小脇綿板	松山挽	同	六分板	巾現場ニ依	二枚	、三〇〇	、六〇〇	
押入中棚								
中棚框	松又ハ杉	九尺	一寸	三寸二分	二本	、三一〇	、六二〇	
同	同	四尺五寸	同	同	二	、一六〇	、三二〇	
根太掛	杉大貫	十二尺	一寸	一寸五分	三枚	、三〇〇	、九〇〇	
根太	松又ハ杉	十二尺切使	一寸	巾七寸	五本	、三四〇	一、七〇〇	
棚板	松山挽	六尺	六分板		二、五坪	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
天井								
集會場廻椽	杉	十二尺	一寸	一寸二分	八本	、一八〇	一、四四〇	
同天井長押	同	同	一寸四分	二寸	八	、四二〇	三、三六〇	
同竿縁	同	一尺	一寸	一寸二分	二八	、一八〇	五、〇四〇	
玄關、事務室、食堂、廻椽	同	十五尺	一寸四分	一寸六分	一〇	、四二〇	四、二〇〇	
同	同	十二尺	同	同	六	、三四〇	二、〇四〇	
同	同	九尺	同	同	四	、二五〇	一、〇〇〇	
其他ノ室廻椽	同	十尺	同	一寸四分	一〇	、二四〇	二、四〇〇	
同	同	九尺	同	同	一〇	、一八〇	一、八〇〇	

605
73

名稱	材料	長	高或厚又ハ口徑	横又ハ幅	坪數又ハ員數	單價	金額	摘要
其他ノ室廻椽	杉	六尺	一寸四分	一寸四分	一三本	一、一二〇円	一、五六〇円	内二本便所ノ分ヲ含ム
湯沸場及便所廻椽	同	十三尺	同	同	四	、二六〇	一、〇四〇	
同	同	十二尺	同	同	二	、二四〇	、四八〇	
同	同	九尺	同	同	二	、一八〇	、三六〇	
押入廻椽	同	十二尺切使	一寸二分	一寸二分	七	、一九〇	一、三三〇	
玄關、事務室及食堂竿縁	同	十五尺	一寸	一寸	三一	、二一〇	六、五一〇	
其他ノ室(押入共)	同	十三尺	九分	九分	七	、一二〇	、八四〇	
同	同	十二尺切使	同	同	三二	、一一〇	三、五二〇	
同	同	九尺	同	同	七	、〇八〇	、五六〇	
集會場玄關及車寄天井板	杉上小節	六尺	山挽四分板	巾尺以上	二〇、七坪	三、〇〇〇	六二、一〇〇	
其他ノ室(押入共)天井板	杉小節	同	同	一尺	四四、四	二、五〇〇	一一、〇〇〇	
裏棧	松小割	十二尺			五〇本	、一〇〇	五、〇〇〇	
釣木受	杉丸太	同	未口二寸		五〇	、四〇〇	二〇、〇〇〇	
釣木	松小割	同			四〇	、一〇〇	四、〇〇〇	
床ノ間								
床柱	堅木	同	四寸	四寸	二	三、五〇〇	七、〇〇〇	
床框	同	六尺	三寸	四寸	一	二、〇〇〇	二、〇〇〇	
床板	堅木又松	同	一寸	二尺八寸	一枚	三、〇〇〇	三、〇〇〇	
落掛	赤味勝堅木	同	二寸	三寸二分	一本	一、〇〇〇	一、〇〇〇	

名稱	材料	長	高或厚又ハ口徑	横又ハ幅	坪數又ハ員數	單價	金額	摘要
無双四分一	出來合	同			一本	、五〇〇	、五〇〇	
内部巾木及竪羽目板張								
巾木	杉	十二尺	六分	六寸	一〇枚	、五五〇	五、五〇〇	
同	杉大貫	同			一四	、三〇〇	四、二〇〇	
車寄額縁	杉	八尺五寸	一寸二分	三寸	三本	、三三〇	、九九〇	
谷羽目胴縁	杉大貫	十二尺			二〇枚	、三〇〇	六、〇〇〇	二ツ割共
車寄羽目板張	杉	六尺	五分	四寸	一坪	三、〇〇〇	三、〇〇〇	
同笠木	同	三尺	一寸	三寸	二本	、一〇〇	、二〇〇	
湯沸場及便所腰羽目板張	杉山挽	六尺切使	六分板	七、八寸	五、五坪	二、〇〇〇	一一、〇〇〇	
同笠木	杉	十二尺切使	一寸	一寸五分	四本	、一九〇	、七六〇	
浴室全體羽目板張	杉山挽	六尺	六分板	七、八寸	四坪	二、〇〇〇	八、〇〇〇	
同板繼	杉大貫	十二尺切使			二枚	、三〇〇	、一〇〇	
洗面所小便所堺羽目板割柱	杉	六尺	三寸	三寸	一本	、五八〇	、五八〇	
同笠木	同	四尺	一寸五分	三寸五分	一	、二二〇	、二二〇	
同胴縁	同	十二尺切使	八分	一寸五分	一	、一五〇	、一五〇	
同羽目板(張自板打共)	杉山挽	六尺	六分板	八寸	一坪	二、〇〇〇	二、〇〇〇	
小便所隔板羽目板張柱	杉	五尺	二寸	二寸	一本	、一七〇	、一七〇	
同笠木	同	三尺	一寸三分	二寸五分	一	、一〇〇	、一〇〇	
同胴縁	同	六尺切使	八分	一寸五分	一	、〇八〇	、〇八〇	
羽目板張(目板打共)	杉山挽	四尺	六分板	七寸	三坪	二、〇〇〇	、六〇〇	
外部下見板張								

開墾地共同建造物仕様書並工事費豫算内譯書(公會堂)

605
73

名稱	材料	長	高或厚又ハ口徑	横又ハ幅	坪數又ハ員數	單價	金額	摘要
湯沸場出入口竪額縁	杉	七尺五寸	一寸二分	二寸五分	二本	円、二五〇	円、五〇〇	
同上額縁	同	六尺五寸	同	同	一	、二一〇	、二一〇	
窓竪額縁	同	七尺	同	同	二六	、二三〇	五、九八〇	
同上同	同	六尺五寸	同	同	一三	、二一〇	二、七三〇	
同下同	同	同	一寸五分	二寸七分	一三	、二八〇	三、六四〇	
同(便所廻)竪額縁	同	五尺	一寸二分	二寸五分	四	、一六〇	、六四〇	
同(同)上額縁	同	十二尺	同	同	一	、三九〇	、三九〇	
同(同)同	同	九尺	同	同	一	、二九〇	、二九〇	
同(同)同	同	四尺	同	同	一	、一四〇	、一四〇	
同(同)下額縁	同	十二尺	一寸五分	二寸七分	一	、五三〇	、五三〇	
同(同)同	同	九尺	同	同	一	、四〇〇	、四〇〇	
同(同)同	同	四尺	同	同	一	、一九〇	、一九〇	
窓雨押へ	杉大貫	十二尺		巾四寸	九枚	、三〇〇	二、七〇〇	
附土臺	杉板割	同		五寸五分	一六	、三二〇	五、一二〇	
土臺雨押へ	杉大貫	同		一寸五分	一六	、三〇〇	四、八〇〇	
下見板張	杉長押挽	同	下モ五分 上ミ二分	一寸五分	四五坪	二、二〇〇	九九、〇〇〇	
見切縁	杉	同	一寸二分	三寸	一七本	、二三〇	三、九一〇	
床下風窓窓枠	同	六尺切使	一寸	一寸二分	八	、二〇〇	一、六〇〇	
同同額縁	同	同	一寸二分	三寸	六	、一四〇	、八四〇	
湯沸場出入口庇								
椀木	松又ハ杉	三尺	二寸	三寸	二	、一九〇	、三八〇	

名稱	材料	長	高或厚又ハ口徑	横又ハ幅	坪數又ハ員數	單價	金額	摘要
桁	同	七尺五寸	一寸五分	同	一	、三六〇	、三六〇	
板掛	同	同	一寸二分	同	一	、二九〇	、二九〇	
屋根板	杉板割	十二尺切使	巾七寸	巾七寸	八坪	二、五〇〇	二、〇〇〇	
鼻搦	杉	七尺五寸	七分	一寸二分	一本	、〇七〇	、〇七〇	
雨押へ	杉大貫	同			一枚	、一九〇	、一九〇	
便所窓板庇								
庇板	杉	十二尺	七分	八寸	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
同	同	九尺	同	同	一	、七五〇	、七五〇	
持送板	同	十二尺切使	同	七寸	一	、九〇〇	、九〇〇	
木工作								
ボールト及鎹釘(大小共)					三〇貫	一、〇〇〇	三〇、〇〇〇	
大工手間					一式		三四、五六〇	
手傳人夫					二六六人	二、五〇〇	六六五、〇〇〇	
小計					四七	一、五〇〇	七〇、五〇〇	
							二、六五九、八二〇	

一、屋根瓦葺工事

名稱	材料	長	高或厚又ハ口徑	横又ハ幅	坪數又ハ員數	單價	金額	摘要
葺下地	アスファルトフェルト二號品				八七坪	円、四〇〇	円、三四、八〇〇	
瓦葺	引掛棧瓦				八七式	六、五〇〇	五六五、五〇〇	
屋根漆喰					一式		五〇、〇〇〇	
小計							六五〇、三〇〇	

605
73

一、金屬工事

名稱	材料	長	厚或径又ハ口徑	横又ハ幅	坪數又ハ員數	單價	金額	摘要
軒樋	亞鉛鍍鐵板〇、四		半圓徑四寸		延長四〇間	一、〇〇〇円	四〇、〇〇〇円	釣込金物共
竪樋	同五耗		圓徑二寸五分		一二箇所	二、五〇〇	三〇、〇〇〇	呼樋共
谷樋	銅板八オンス				二	三、〇〇〇	六、〇〇〇	
庇屋根鐵板葺	亞鉛鍍鐵板〇、四五耗同				一、四間	五、〇〇〇	七、〇〇〇	
雨押へ鐵板張					延長一八間	、五〇〇	九、〇〇〇	
床下風窓金物	鑄鐵製				一二箇所	一、〇〇〇	一二、〇〇〇	
軒先通氣口銅網張	細織目同				一八	、三〇〇	五、四〇〇	
天井空氣拔銅網張					三〇	、三〇〇	九、〇〇〇	
小計							一一八、四〇〇	

一、左官工事

名稱	材料	長	厚或径又ハ口徑	横又ハ幅	坪數又ハ員數	單價	金額	摘要
モルタル塗	調合一、二				二九坪	二、〇〇〇円	五八、〇〇〇円	木舞掻ヨリ裏返シ迄
荒壁					一三六	一、五〇〇	二〇四、〇〇〇	
床ノ間砂壁					三	二、〇〇〇	六、〇〇〇	中塗リ迄
押入大津壁					一三	一、五〇〇	一九、五〇〇	中塗ヨリ仕上リ迄
其他各室漆喰壁					八〇	二、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	仕上ヨリ迄
小計							四四七、五〇〇	

一、建具工事

名稱	材料	長	厚或径又ハ口徑	横又ハ幅	坪數又ハ員數	單價	金額	摘要
玄關出入口腰高硝子戸	杉製	高六尺	横柱眞六尺五寸		一箇所	二〇、〇〇〇円		
同出入口欄間硝子障子	同	同一尺五寸	同三尺二寸五分		二	二、八八〇		
湯沸場出入口腰高硝子戸	同	同五尺八寸	同		一	一四、〇〇〇		
同出入口欄間硝子障子	同	同一尺二寸	同	同三尺	二	二、二〇〇		
側窓硝子戸	同	同	同	同六尺	一二	一〇八、〇〇〇		
側窓浴室硝子戸	同	同四尺	同	同六尺	一	七、二〇〇		
側窓欄間硝子障子	同	同一尺二寸	同	同三尺	一二六	二八、六〇〇		
側窓脫衣室硝子戸	同	同四尺	同	同六尺	一	七、二〇〇		
側窓便所硝子戸	同	同四尺	同	同三尺	一	三、六〇〇		
同	同	同四尺	同	同五尺	一	六、〇〇〇		
同	同	同四尺	同	同三尺五寸	三	四、二〇〇		
便所掃除窓硝子障子	同	同五尺	同	同	一	、八〇〇		
集會場出入口腰高硝子戸	同	同五尺九寸二分	同	同六尺	一	一四、〇〇〇		
廊下事務室堺腰高硝子戸	同	同五尺八寸	同	同三尺五寸	二	一、六〇〇		
廊下應接堺	同	同	同	同	一	一四、〇〇〇		
廊下控室堺	同	同	同	同	三	三九、〇〇〇		
廊下食堂堺	同	同	同	同六尺	一	一三、〇〇〇		
廊下湯沸場堺	同	同	同	同	一	一三、〇〇〇		
廊下脫衣室堺	同	同	同	同	一	一三、〇〇〇		

605
73

一、塗工事

名稱	材料	長	高或厚 又ハ口徑	横又ハ幅	坪數又ハ員數	單價	金額	摘要
廊下便所堺板戸	杉製		高五尺八寸	横三尺	一箇所	五、四〇〇	五、四〇〇	
事務室堺及事務室食堂堺紙張障子	同		同	同十五尺	三	一八、〇〇〇	五四、〇〇〇	
事務室押入襖			同	同四尺五寸	二	七、〇〇〇	一四、〇〇〇	
食堂及控室押入同			同	同九尺	二	一三、五〇〇	二七、〇〇〇	
控室、湯沸場堺硝子戸	杉製		同	同六尺	一	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	
脱衣室、浴室場板戸			同	同三尺	一	五、〇〇〇	五、〇〇〇	
大便所出入口板戸			同	同二尺	二	二、五〇〇	五、〇〇〇	
小計							四五二、二八〇	

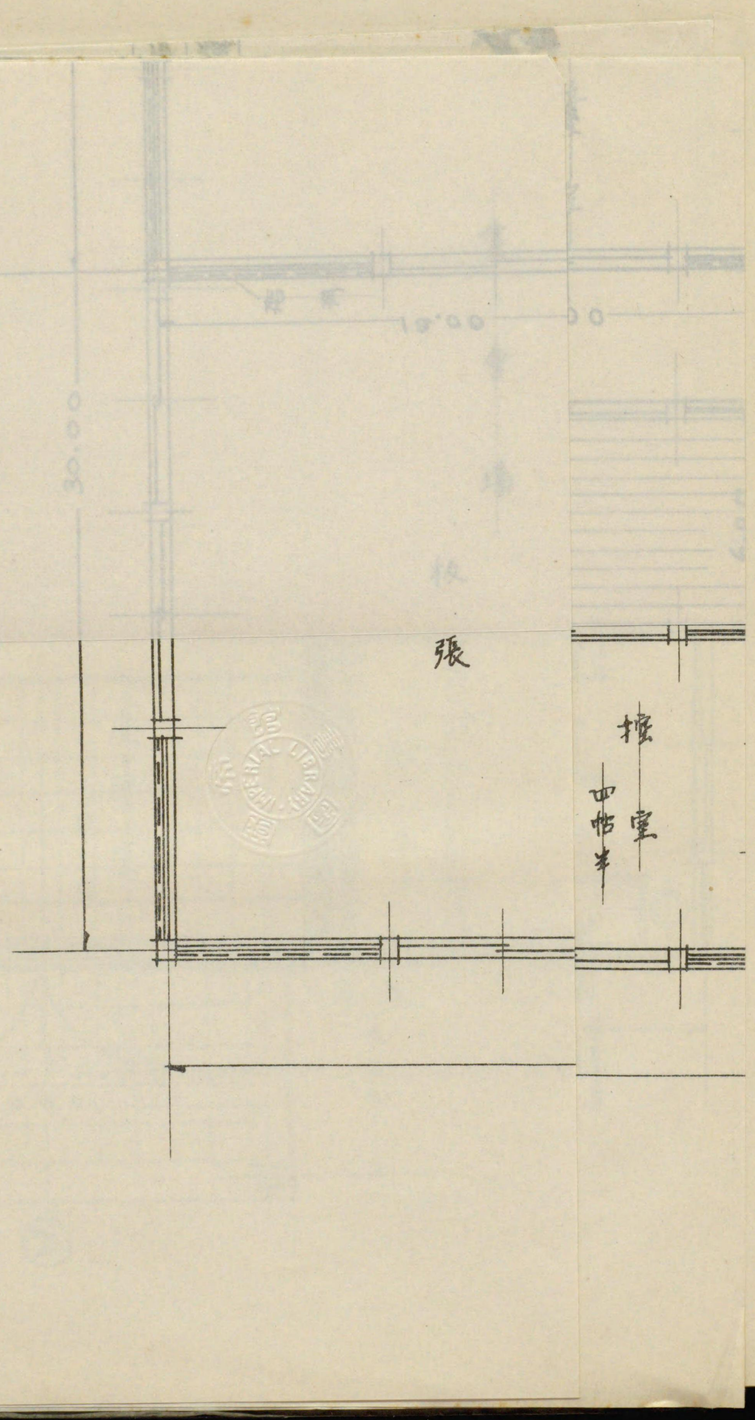
名稱	材料	長	高或厚 又ハ口徑	横又ハ幅	坪數又ハ員數	單價	金額	摘要
ペンキ塗三回塗					一二坪	二、〇〇〇	二四、〇〇〇	
防腐劑塗二回塗					五〇	四〇〇	二〇、〇〇〇	
砥ノ粉塗一回塗					一式		五、〇〇〇	
小計							四九、〇〇〇	

一、雜工事

名稱	材料	長	高或厚 又ハ口徑	横又ハ幅	坪數又ハ員數	單價	金額	摘要
疊敷込					四二箇所	五、〇〇〇	二一〇、〇〇〇	

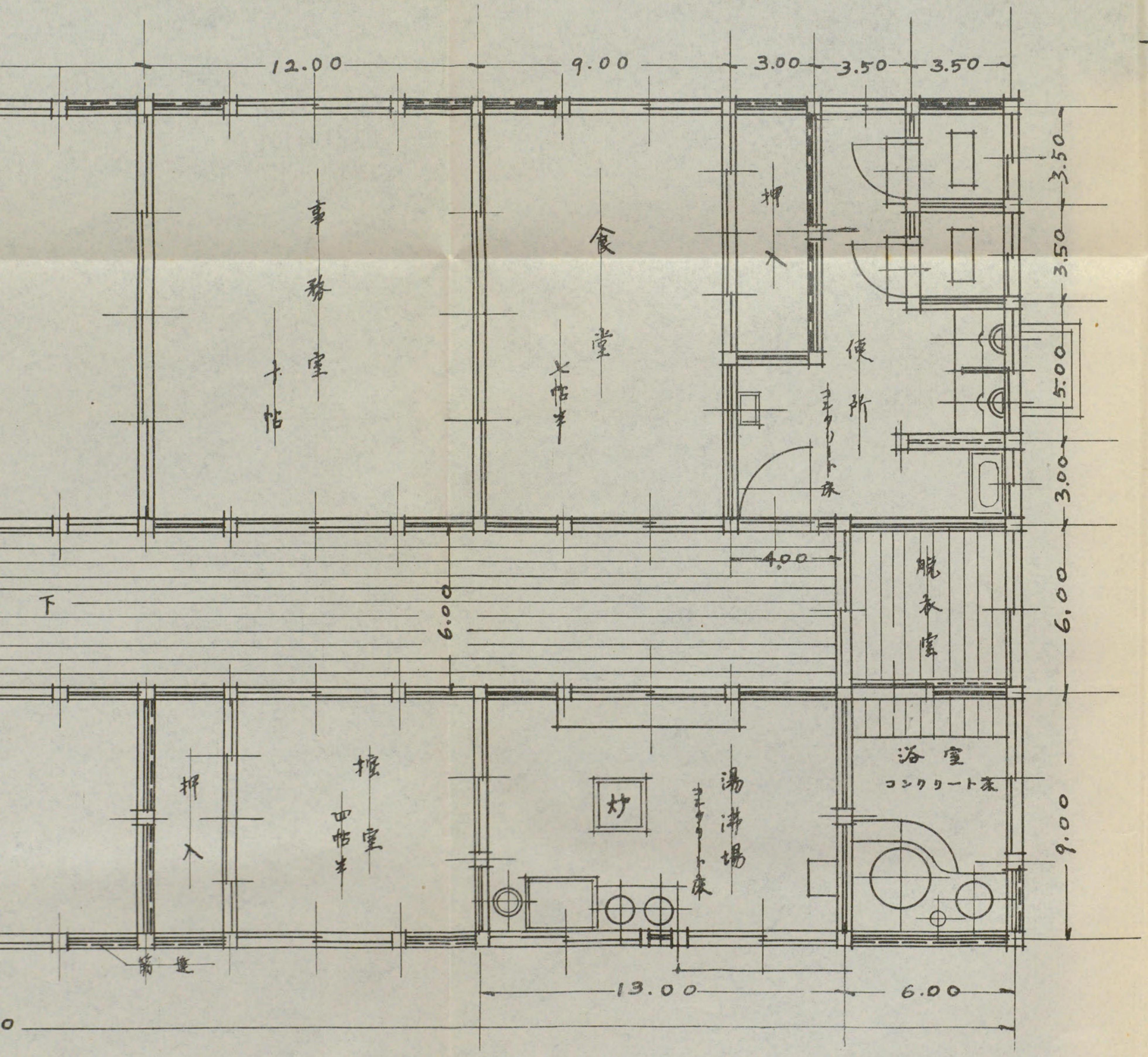
浴室風呂竈据付								
浴室床簀ノ子	杉製	四尺		二尺五寸	一式	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
煙突目鏡石枠	軟石		一尺二寸	一尺二寸	一箇所	一、五〇〇	三、〇〇〇	
浴室煙突					二	三、〇〇〇	三、〇〇〇	
湯沸場取付流シ	杉製	二尺八寸		一尺六寸	一	二、〇〇〇	二、〇〇〇	
洗面所					一	一、五〇〇	一、五〇〇	
同		二尺五寸		一尺二寸	一	二、〇〇〇	二、〇〇〇	
便所手洗	陶製小形				一	一、五〇〇	一、五〇〇	
大便器	陶製				二	二、〇〇〇	四、〇〇〇	
小便器	同				二	二、五〇〇	五、〇〇〇	
下水瓶	大形				二	三、〇〇〇	六、〇〇〇	
小便溜桝	混凝土製				一	二、〇〇〇	二、〇〇〇	
同蓋	木造リ				二	二、五〇〇	五、〇〇〇	
排水土管埋設	三寸土管				一〇	一〇〇	一、〇〇〇	
小計					一式	一、五〇〇	一、五〇〇	
合計							八、〇〇〇	
							三一〇、八〇〇	
							五、一三〇、四〇〇	

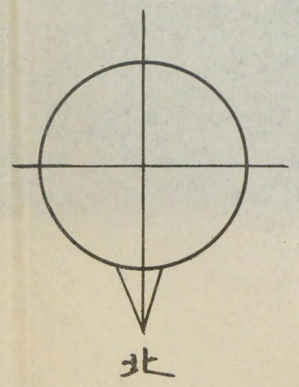
605
73



開墾地移住共同建造物設計圖例

縮尺五拾分之十





平面圖

名稱	坪數	單價	金額	備考
公會堂	六五坪 三三㎡	八〇円 〇〇〇	四.二二六円 四〇〇	仕様書及豫算内訳書参照

開墾地移住共同建造物設計圖例

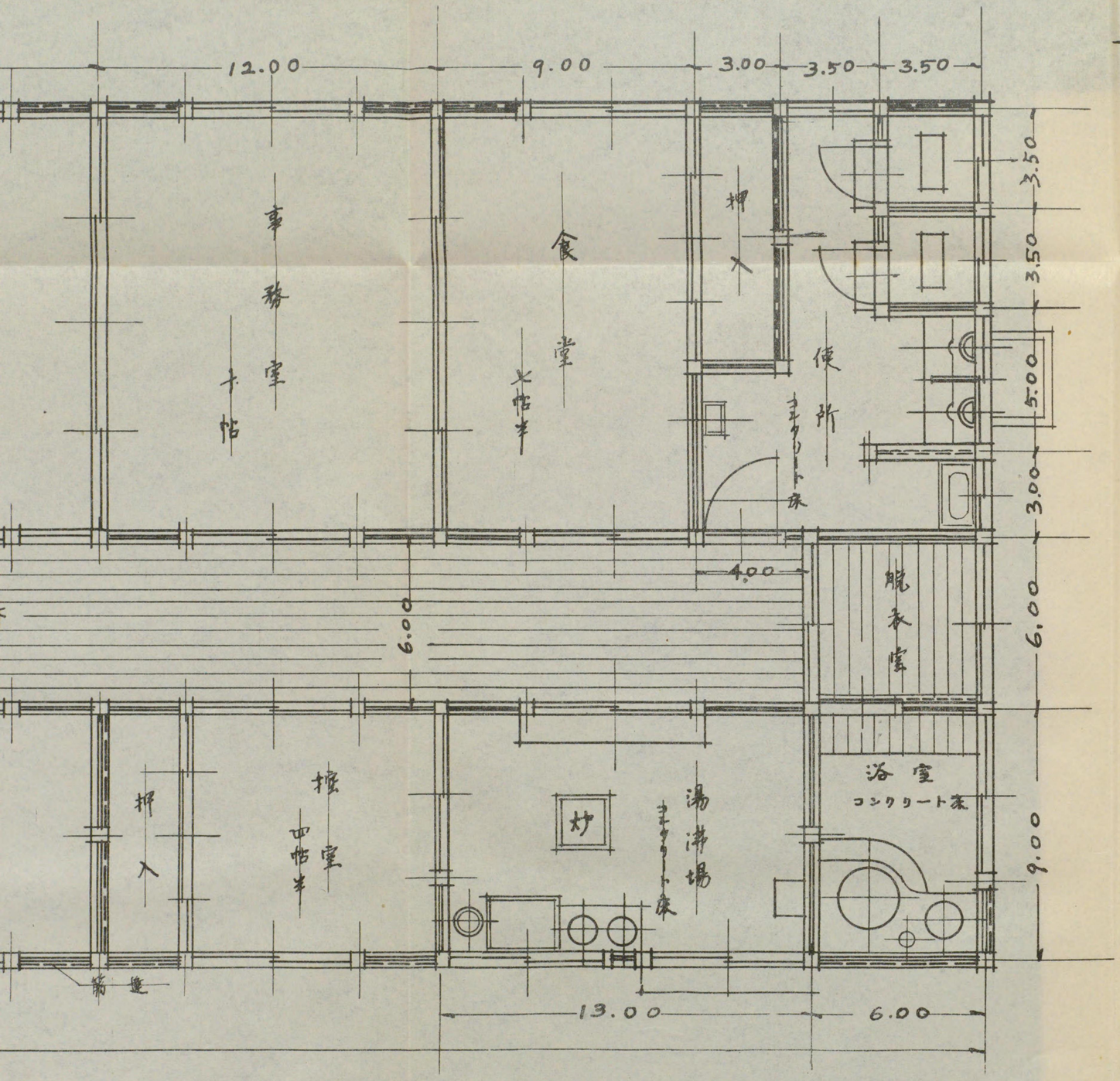
縮尺五拾分之壹

名稱	坪數	單價	金額	備考
公會堂	六五坪 三三強	八〇円 〇〇〇	四、二二六円	四〇〇

仕様書及積算内訳書参照

北

平面圖



18.00
3.00
12.00
12.00
12.00
筋違
押入
床
筋違
集會場
板張
事務室
十帖
事務室
十帖
事務室
十帖
押入
廊下
6.00
30.00
應接室
板張
押入
接室
中帖半
筋違
6.00
12.00
76.00

18.00
3.00
12.00
12.00
12.00
筋違
押入
床ノ間
筋違
押入
事務室 十帖
事務室 十帖
事務室 十帖
集會場 板張
廊下
6.00
30.00
應接室 板張
押入
筋違
接室 中帖半
6.00
12.00
76.00
Ⓐ

605
73

昭和九年三月二十三日印刷
昭和九年三月二十六日發行

農林省農務局

東京市京橋區槇町二丁目七番地ノ六
印刷者　小松善作

東京市京橋區槇町二丁目七番地ノ六
印刷所　小松印刷所
電話京橋（二六六六番
一六五〇六番

605
73

605
73

605
73